

此他承役地ノ使用又ハ耕作ヲ減シ及ヒ永ク其地ノ價格ヲ減スルニ付テノ償金ハ毎年之ヲ辨償ス

第二百一十一條 袋地タルコトノ止ミタルトキハ通行ノ權利及ヒ毎年ノ償金ノ義務ハ從ヒテ消滅ス

要役地ノ所有者ハ未タ拂期限ノ至ラサル償金ノ六ヶ月分ヲ拂ヒテ常ニ通行ノ權利ヲ拋棄シ及ヒ之

ニ對スル義務ヲ免カルコトヲ得

第二百二十二條 當事者ハ通行ヨリ生スル永久ノ損害ノ賠償又ハ毎年ノ償金ノ買戻ヲ隨意ニ元本ニテ定ムルコトヲ得

敷レノ場合ニ於テモ袋地ノ止ミントキハ右元本ハ之ヲ全ク返還スルモノトス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十三條 土地ノ一分ノ讓渡又ハ共有者間ノ分割ニ因リテ袋地ノ生シタルトキハ讓渡人又ハ分割者ハ償金ヲ受クルコト無クシテ通路ヲ供スルノ義務ヲ負擔ス此義務ハ公路ノ創設ニ因リテ袋地タルコトノ止ミントキハ消滅ス

第二款 水ノ疏通、使用及ヒ引入

第二百二十四條 低地ノ所有者ハ人工ニ由ラスシテ自然ニ高地ヨリ流下スル雨水及ヒ泉水ヲ承クル義務アリ

人工ヲ以テ水ノ疏通路ヲ創設シ又ハ變更セシト雖モ其工事カ三十年前ニ在ルカ又ハ年月ヲ知ル可カラサルトキハ亦同シ

第二百五十條 土手其他水ヲ溢フル工作物ノ破損ニ因リ又ハ水樋、掘削ノ阻害ニ因リ高地ノ水量ヲ増シテ濇激ヲ致シ又ハ方向ヲ變セントスルトキハ低地ノ所有者ハ第二百二條及ヒ第二百一十一條ニ從

ヒテ急告ノ告發ヲ爲シ且高地ノ所有者ノ費用ヲ以テ其修繕ヲ爲スコトヲ得

車變ニ因リ低地ニ於テ水流ノ阻害シタルトキハ高地ノ所有者ハ平常ノ疏通ニ復スル爲メ自費ヲ以テ必要ノ工事ヲ爲ス權利ヲ有ス然レトモ其義務ヲ負擔セス

第二百二十六條 所有者ハ雨水ノ直ニ隣地ニ落ツル如キ屋根其他ノ工作物ヲ設クルコトヲ得ス

第二百二十七條 泉源ノ所有者ハ隨意ニ之ヲ使用シ且自然ニ隣地ニ流ル可キ餘水ヲ隣人ニ與ヘサルコトヲ得但次條及ヒ第二百七十六條ノ規定其他源泉ノ利用、収養物ニ關スル行政法ノ規定ヲ妨ケス

第二百二十八條 泉源ノ水カ一町村又ハ一部落ノ住民ノ家用ニ必要ナルトキハ所有者ハ其水ノ不用ノ部分ヲ流下セシムル責ニ任ス

又町村ハ自費ヲ以テ水ノ聚合及ヒ引入ニ必要ナル工事ヲ泉源ノ土地ニ施スコトヲ得但其工事ノ爲メ償金ヲ拂ヒ且其土地ニ永久ノ損害ヲ生セシメサルコトヲ要ス

此他町村ハ水ノ使用ノ爲メ償金ヲ拂フコトヲ要ス但三十年間無償ニテ使用ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百二十九條 溝渠、水流、掘削又ハ池沼ノ沿岸者ニシテ其床地ヲ所有スル者ハ家用及ヒ農工業用ニ其水ヲ使用スルコトヲ得然レトモ其水路及ヒ幅員ヲ變スルコトヲ得ス

同上ノ流水ノ通過スル土地ノ所有者ハ右ト同一ノ需用ノ爲メ其地内ニ於テ水路ヲ變轉スルコトヲ得然レトモ其水ノ出口ニ於テハ之ヲ自然ノ水路ニ復スルコトヲ要ス

右孰レノ場合ニ於テモ沿岸者ハ地方ノ規則ニ從ヒテ捕漁ノ權利ヲ有ス

沿岸者ハ對岸者ニ損害ヲ及ホスコトキハ已レノ方ニ於テ水除ヲ築グコトヲ得ス

○財產編

起シタルトキハ裁判所ハ地方ノ慣習ト衛生ノ需用ト農工業ノ利益トヲ斟酌シテ之ヲ決ス

第二百三十一條 右流水ニ關スル取締ハ地方廳ニ屬ス地方廳ハ其流水ノ疏通保持及ヒ魚類ノ保育ニ付キ必要ノ處分ヲ令スルコトヲ得

第二百三十二條 一般又ハ一地方ノ公有又ハ私有ニ屬スル水ノ使用及ヒ取締ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二百三十三條 自己ノ土地外ニ在ル天然又ハ人工ノ水ヲ用ユル權利ヲ有スル所有者ハ家用又ハ農工業用ノ爲メ償金ヲ拂ヒ其水ノ通過ヲ中間ノ土地ニ要求スルコトヲ得

第二百三十四條 低地ノ所有者ハ浸水地ヲ乾カスニ因リ出水ノ疏通ノ爲メ及ヒ又家用又ハ農工業用ノ餘水ノ排泄ノ爲メ公路ノ公流又ハ下水道ニ至ルマテ其通路ヲ供スル費ニ任ス

第二百三十五條 水ノ通路ハ成ル可ク承役地ノ損害少ナキ場所ニ之ヲ設クルコトヲ要ス如何ナル場合ニ於テモ建物ノ下ヲ經又ハ住家ニ連接シタル庭園ヲ經テ水ノ通過ヲ要求スルコトヲ得ス

第二百三十六條 水ノ通路ニ必要ナル工作物ノ築造及ヒ保持ハ其工作物ニ付キ利益ヲ得ル所有者ノ費用ニテ之ヲ爲ス

第二百三十七條 承役地ノ所有者ハ其土地ニ存スル掘削ヲ要役地ニ出入スル水ノ全部又ハ一分ノ通路ニ供スルコトヲ要求スルヲ得但從來其掘削ヲ通過スル水カ要役地ニ供シタル水ヲ變スルノ性質ナラサルトキニ限ル

又承役地ノ所有者ハ其土地ニ要役地ノ所有者ノ爲シタル工作物ヲ右ト同一ノ條件ニ從ヒテ水ノ通過

ノ爲メ使用セント請求スルコトヲ得

右數ノ場合ニ於テ他人ノ爲シタル工作物ヲ使用スル者ハ自己ノ利益ノ割合ニ應ジテ其築造及ヒ保持ノ費用ヲ分擔ス

第二百三十八條 第二百二十九條第一項ニ從ヒ流水ヲ使用スル權利ヲ有スル所有者ハ堰ヲ設ケテ水ヲ高ムルノ費用アルトキハ償金ヲ拂ヒテ其堰ヲ對岸ニ支持セシムルコトヲ得

同一ノ權利ヲ有スル對岸地ノ所有者ハ前條ニ記載シタル如ク費用ヲ分擔シテ右ノ堰ヲ使用スルコトヲ得

第三款 經界

第二百三十九條 ルソ相隣者ハ地方ノ慣習ニ從ヒ樹石杭柱ノ如キ標示物ヲ以テ其連接シタル所有地ノ界限ヲ定ント互ニ強要スルコトヲ得

第二百四十條 經界柵欄ハ建物ニ付キ及ヒ土屏垣柵等ノ圍障アル土地ニ付テハ行ハレス公路又ハ公流ニテ隔テタル土地ニ付テモ亦同シ

第二百四十一條 經界柵欄ハ協議上又ハ裁判上ニテ界限ノ定マラサル間ハ時効ニ罹ルコト無シ

經界ノ柵ニ付キ被告カ原告ノ土地ノ全部又ハ一分ニ對シ取得時効又ハ一年以上ノ占有ヲ申立ツルトキハ原告ハ先ツ回復又ハ回收ノ柵ヲ爲スコトヲ要ス

第二百四十二條 經界ハ界限ノ確定セサルトキ又ハ爭論アルトキハ所有權ノ設定ニ記載シタル坪數及ヒ界限ニ從ヒテ之ヲ爲ス其證書ナキトキハ之ニ代フルニ足ル他ノ證據又ハ書類ニ依リテ之ヲ爲ス所有權ニ付キ爭論アルトキハ先ツ其裁判ヲ受クルコトヲ要ス

第二百四十三條 當事者カ協議ヲ以テ界限ヲ定メタルトキハ其證書ヲ作ルコトヲ要ス此證書ハ坪數及

乙界限ニ付キ確定標原ノ効チ有ス

當事者ノ議協ハサルトキハ判決ヲ以テ坪數及ヒ界限ヲ定メ其判決書ニ圖面ヲ添フ此圖面ニハ界標ヲ指示シ且各界標ノ距離及ヒ其近傍ノ移動ナキ目標ト各界標トノ距離ヲ記載ス

第二百四十四條 樹石杭杖ノ代價其設置ノ費用及ヒ設置並ニ訴訟費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス然レトモ判決ニ因リテ不當ト爲リタル爭論ノミニ關スル訴訟費用ハ敗訴者之ヲ負擔ス
測量費用ハ當事者其土地ノ廣狹ニ應シテ之ヲ分擔ス

第四款 圍障

第二百四十五條 凡ソ所有者ハ適宜ノ材料ヲ用非適宜ノ高サニ於テ自己ノ不動産ニ圍障ヲ設クルコトヲ得但其不動産カ法律又ハ人爲ニテ隣人ノ立入又ハ通行ノ地役ニ服スルトキハ其地役ヲ行ノ能ク妨クルコトヲ得ス

第二百四十六條 二箇ノ住家又ハ農工業用建物ノ間ニ在ル中庭又ハ圍圃ノ土地カ各箇ノ所有者ニ分屬スルトキハ各自其隣人ニ分界圍障ノ分担ヲ強要スルコトヲ得
當事者ノ議協ハサルトキハ其圍障ハ板屏又ハ竹垣ノ類ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

其高サハ分界線ノ平面ヨリ少ナクトモ六尺タル可シ

第二百四十七條 圍障ノ設置保持及ヒ修繕ノ費用ハ相隣者平分シテ之ヲ負擔ス

相隣者ノ一人ハ前條ニ定メタル材料ヨリ良好ナル地ノ材料ヲ用非又ハ高サヲ増シテ圍障ヲ築造スルコトヲ得但築造費用ノ差額ヲ拂ヒ且保持及ヒ修繕ノ費用ノ全額ヲ負擔ス

第二百四十八條 相隣者ノ一人カ地ノ一人ヲ圍障分担ノ運搬ニ付セスシテ之ヲ築造シ又ハ修繕シタルトキハ其人ニ對シテ費用ノ分担ヲ要求スルコトヲ得ス

第五款 互有

第二百四十九條 前款ニ定メタル義務ニ因リ又ハ任意且協議ニ因リ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ築造シタル圍障ハ其性質ノ如何ヲ問ハス敷地ト共隣ニ相者ノ互用ニ屬ス
性質ノ如何ヲ問ハス相隣者ノ建物ノ圍障及ヒ溝渠、生籬、柴垣ニシテ共擔ノ費用ヲ以テ土地ノ分界線上ニ設ケタルモノモ亦同シ

第二百五十條 凡ソ土地ノ圍障又ハ建物ノ圍障ニシテ分界線上ニ在ルモノハ其性質ノ如何ヲ問ハス共擔ノ費用ヲ以テ設ケタルモノトシテ之ヲ互有ト推定ス但或ハ證書ニ因リ或ハ證人ニ因リ或ハ三十個

年ノ時効ニ因リ或ハ下ニ示シタル非互有ノ目標ニ因リテ反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス
第二百五十一條 相隣者ノ一人ノ專屬權ヲ定ムル直接ノ證據又ハ時効ノ存セサルトキハ非互有ヲ推定ス可キ目標トナル可キモノハ左ノ如シ

第一 土造、石造、煉瓦造ノ牆壁ニ付テハ屋根ノ傾斜面又ハ小窓、窟孔其他ノ工作物又ハ裝飾物カ一方ノミニ存スルコト

第二 板屏、竹垣ニ付テハ其支柱カ一方ノミニ存スルコト

第三 溝渠ニ付テハ掘浚ノ泥土カ一方ノミニ存スルコト

第四 生籬、柴垣ニ付テハ一方ノ土地ノミニ四而テ圍マレタルコト

此四箇ノ場合ニ於テ專屬權ハ右目標ノ存スル一方又ハ土地ノ全ク圍マレタル一方ノ相隣者ニ屬ス
第二百五十二條 高サノ不同ナル二箇ノ建物ヲ隔ツル牆壁ニ付テハ其牆壁カ低キ建物ヲ臨ユル部分ニハ互有ノ推定ヲ適用ス

又牆壁カ一箇ノ建物ノミヲ支持スルトキハ右ノ推定ハ如何ナル部分ニモ之ヲ適用セス

○財産總

第二百五十三條

二箇ノ土地ヲ分界スル一箇ノ圍障其他ノ工作物ニ互有ノ目標ト非互有ノ目標トノ併存スルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ其所有權有共通ナルカ專屬ナルカヲ査定ス

第二百五十四條

互有界ノ保持及ヒ修繕ハ互有者平分シテ之ヲ負担ス但其一人ノ所爲ヨリ毀損ノ生シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百五十五條

然レトモ第二百五十六條ニ定メタル義務上ノ圍障ニ非サルトキハ互有者ノ各自ハ互有權ヲ拋棄シテ保持及ヒ修繕ノ負担ヲ免カレトナ得但自己ノ建物ヲ支持スル牆壁ノ保持及ヒ修繕ニ關スルトキハ自己ノ所爲ニ因リテ必要ト爲リタル修繕ノ費用ヲ拂フ可キトキハ此限ニ在ラス

第二百五十六條

相隣者ハ互有ノ牆壁ニ其厚サ四分ノ三ニ至ルマテ梁棟ヲ穿入シテ建物ヲ支持シ又ハ之ニ煙爐ヲ嵌入シ若クハ烟突、水管瓦斯管其他家用ノ工業用ノ爲メ筒管ヲ通スルコトヲ得但其牆壁ノ性質及ヒ厚サカ此ニ耐フルトキニ限ル然レトモ互有者ハ其牆壁ニ窟孔ヲ鑿チ又室内用ノ爲メ些少ノ凹穴ヲモ鑿ツコトヲ得ス

第二百五十七條

互有者ハ互有ノ牆壁ノ高サヲ増スコトヲ得但其牆壁ノ堅牢此ニ耐フルトキ又ハ自費ニテ工事ヲ加ヘ若クハ改築ヲ爲シテ堅牢ナラシムルトキニ限ル此場合ニ於テ其高サヲ増シタル部分ハ互有ニ非ス

第二百五十八條

互有者ハ互有ノ生籬ヲ剪伐シタル樹枝ヲ平分シ又其生籬ニ存スル高木ノ伐除ヲ要求スルコトヲ得

第二百五十九條

相隣者ノ一人カ石又ハ煉瓦ニテ土地ノ圍障又ハ建物ノ牆壁ヲ分界線ニ接シ又ハ此ヨリ一尺ニ滿タサル距離ニ於テ築造シタルトキハ他ノ一人ハ現時ノ相場ニテ材料代及ヒ手間賃ノ半額ヲ償ヒテ常ニ其互有權ノ讓渡ヲ要求スルコトヲ得但舊條第三項ニ從ヒテ増築シタル牆壁ニ付テモ亦同シ

第二百六十條

互有權ノ讓渡ヲ要求スル相隣者ハ圍障、牆壁ノ敷地及ヒ之ト分界線トノ間ノ地面ニ付キ地上權ノミヲ要求スルコトヲ得此地土權ニ付テハ鑑定人ノ評定シタル定期ノ納頓ヲ建物ノ存立間拂フ責ニ任ス

第二百六十一條

本條ニ依リ牆壁ノ互有權ヲ取得シタル者ハ前條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ使用スルコトヲ得然レトモ人爲上ノ觀望ノ地役トシテ其牆壁ニ設ケタル窟孔ヲ鑿カシムルコトヲ得ス

第二百六十二條

石造、煉瓦造ニ非サル圍障、圍壁及ヒ籬柵、溝渠、土手ニ付テハ共担ノ費定ヲ以テセル設定又ハ協議上ノ讓渡ニ因ルニ非サレハ互有權ヲ生セス

第二百六十三條

所有者ハ石造、煉瓦造ニ非サル建物ヲ築造スルトキハ其建物ト土地ノ分界線トノ間ニハ其地方ノ慣習ニテ定マリタル尺度ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

第二百六十四條

此距離ヲ存セスシテ築造スルトキハ一方ノ相隣者ハ築造ノ間ハ第二百五一條ニ從ヒテ新工費額ノ占行概權ヲ行フコトヲ得

第二百六十五條

右築造竣成ノ後一方ノ相隣者カ建築ヲ築造セントシ其工事ノ爲メ自己ノ地上ニ於テ分界線ヨリ價高ノ尺度ヲ超ユル距離ヲ要スルニ因リ建物ヲ其尺度外ニ退ケタルトキハ其餘分ニ退ケタル地面ニ應シ前築造者ニ對シテ償金ヲ要求スルコトヲ得

第六款

他人ノ所有地ニ對スル觀望及ヒ明取窓

第二百五十八條

二箇ノ土地ノ分界線ヨリ少ナクトモ三尺ノ距離アルニ非サレハ建物ニ窓又ハ縁側ヲ設ケテ他人ノ所有地ヲ直線ニ觀望スルコトヲ得ス

○財産編

此距離ハ窓又ハ縁側ノ突出シタル部分ヨリ直角線ニテ分界線ニ至ルマテヲ測算ス

第二百五十九條 右距離ノ制限ヲ遵守スルニ不便ナルトキハ目隠ヲ以テ窓ヲ蔽フコトヲ要ス但其目隠ハ分界線上ニ突出スルコトヲ得ス

目隠ヲ設クル能ハサルトキハ明取窓ニ非サレハ之ヲ設クルコトヲ得ス此明取窓ハ其下部ヨリ床板マテ少ナクトモ六尺ト爲シ格子ヲ附着シ其格子目ハ一寸以内タルコトヲ要ス

此場合ニ於テ尙ホ隣地ノ所有者ハ目隠カ一尺以上分界線ヲ離レルヲ許シテ之ヲ設ケシムルコトヲ得
第二百六十條 觀望又ハ明取窓ニ關スル前二條ノ規定ハ建物ト對向スル隣地ノ建物ニ隔孔ナキトキハ之ヲ適用セス

第七款 或ル工作物ニ要スル距離

第二百六十一條 自己ノ土地ニ井戸、用水溜、下水溜又ハ糞尿坑ヲ穿タントスル所有者ハ分界線ヨリ少ナクトモ六尺ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス但土砂ノ崩壊又ハ水液ノ滲漏ヲ防クニ必要ナル工事ヲ爲ス可シ

一 乾燥シテ覆蓋アル地窖ニ付テハ右距離ヲ三尺ニ減ス

水路ニ供シタル石樋又ハ溝渠ニ付テハ右距離ハ少ナクトモ其深サノ半ニ同シキコトヲ要ス然レトモ三尺ヲ除エルコトヲ要セス

右溝渠ハ分界線ノ方ノ傾キ斜ニ削下シ又ハ石垣若クハ木柵ヲ以テ之ヲ支持ス可シ

第二百六十二條 高サ三間ニ離レル竹木ハ分界線ヨリ六尺ニ滿タサル距離内ニ之ヲ栽植シ又ハ保持スルコトヲ得ス

高サ三間ニ滿タス一間ニ離レル竹木ニ付テハ二尺ノ距離ヲ存スルコトヲ要ス

此他矮小ノ竹木ハ直チニ之ヲ分界線ニ接著セシムルコトヲ得

右款レノ場合ニ於テモ相隣者ハ竹木ノ所有者ニ對シ分界線ヲ離エタル枝ノ剪除ヲ要求スルコトヲ得又自己ノ土地ヲ侵セル根ヲ自ラ截去スルコトヲ得

前條及ヒ本條ノ規定ハ二箇ノ土地ノ分界カ互有ナルトキト雖モ之ヲ適用ス

第二百六十三條 右ニ異ナリタル慣習アルトキハ前二條ノ規定ニ依ラスシテ其慣習ヲ遵守ス

第二百六十四條 危險ヲ含ミ衛生ヲ害シ又ハ不都合ヲ生スル營業ニ付キ近隣ノ利益ノ爲メニ要スル條件ハ行政法ヲ以テ之ヲ規定ス

前諸款ニ共通ナル規則

第二百六十五條 本節ノ規定ハ國、府縣、市町村ノ私有及ヒ公有ノ財産ニ付キ働方及ヒ受方ニテ之ヲ適用ス

然レトモ公有財産ハ水ノ流通及ヒ互有ノ要求權ニ服セス

第二節 人爲ヲ以テ設定シタル地役

第一款 地役ノ性質及ヒ種類

第二百六十六條 相隣者ハ其不動産ノ利益又ハ負擔ニテ諸種ノ地役ヲ設定スルコトヲ得但其地役カ公ノ秩序ニ反セサルコトヲ要ス

第二百六十七條 地役ハ不動産ノ所有權カ何人ニ移轉スルモ働方又ハ受方ニ於テ其不動産ニ從トシテ附著ス

働方ノ地役ハ要役地ヨリ分離シテ之ヲ讓渡シ貸貸シ又ハ抵當ト爲スコトヲ得ス又地役ノ上ニ地役ヲ設定スルコトヲ得ス

○財産編

第二百六十八條

乙百六

地役ハ不動産カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其一人自己ノ持分ニ付キ要役地ニ地役ヲ失ハシメ又承役地ニ之ヲ免カレシムルコトヲ得サルニ因リテ之ヲ不可分トス
又土地ノ分割又ハ其一分ノ讓渡ノ場合ニ於テ地役ハ不可分ニテ承役地ノ各部分ヲ累ハシ又ハ要役地ノ各部分ヲ利ス但其地役カ承役地ノ一部分ニ對スルニ非サレハ有益ニ行ハレヌ又ハ要役地ノ一部分ノ爲メニ非サレハ便益ヲ得セシメサル場合ハ此限ニ在ラス
第二百六十九條 要役地ノ所有者ハ自己ニ屬スト主張スル地役ニ付キ占有ニ係ルト本權ニ係ルトナ間ハス要請斷權ヲ行フコトヲ得
又承役地ナリトノ主張ヲ受ケタル不動産ノ所有者ハ其爭フ地役ノ行使ヲ拒ミ又ハ之ヲ止マシムル爲メ占有ニ係ルト本權ニ係ルトナ間ハス拒却斷權ヲ行フコトヲ得

第二百七十條 前三條ノ規定ハ法律ヲ以テ設定シタル地役ニ之ヲ適用ス
第二百七十一條 地役ノ種類ハ之ヲ左ニ掲ク
第一 繼續又ハ不繼續ノ地役
第二 表見又ハ不表見ノ地役
第三 有的又ハ無的ノ地役

第二百七十二條 地役カ場所ノ位置ノミニ因リ人ノ所爲ヲ要セスシテ間斷ナク要役地ニ便ヲ與ヘ承役地ニ累ヲ爲ストキハ繼續地役ナリ
地役カ要役地ノ便益ノ爲メ時時人ノ所爲ヲ要スルトキハ不繼續地役ナリ
第二百七十三條 地役カ外見ノ工作又ハ形跡ニ因リテ顯露スルトキハ表見地役ニシテ之ニ反スルトキハ不表見地役ナリ

第二百七十四條 地役ハ左ノ場合ニ於テハ有的地役ナリ

第一 不動産ノ所有者カ他人ノ不動産ヨリ或ル便益ヲ取ルコトヲ得ルトキ
第二 不動産ノ所有者カ相隣便益ノ爲メ法律ノ普通ニ制禁スル或ル工作ヲ自己ノ不動産ニ爲スコトヲ得ルトキ

地役ハ左ノ場合ニ於テハ無的地役ナリ

第一 不動産ノ所有者カ普通ニ所有者ニ許サル可キ所爲ヲ隣人カ自己ノ不動産ニ爲スヲ禁スルコトヲ得ルトキ
第二 不動産ノ所有者カ普通法ニ從ヒ自己ノ不動産ニ於テ相隣便益ノ爲メニ爲スコク又ハ許スコキ所爲ヲ爲サス又ハ許ササルコトヲ得ルトキ

第二款 地役ノ設定

第二百七十五條 地役ハ合意又ハ遺言ヲ以テ之ヲ設定スルコトヲ得

右款レノ場合ニ於テモ常事者ノ間ニ於ケルト第三者ニ對スルトナ間ハス地役ノ有効ナル爲メニハ不動産物權ノ讓渡ニ關スル通常規則ヲ遵守ス可シ

第二百七十六條 不動産所有權ニ關シ時効ヨリ生スル正當ナル取得推定ハ繼續且表見ノ地役ニノミ之ヲ適用ス

隣地ヨリ引ク水ノ取得ニ關スル時効ノ期間ハ其時効ヲ採用スル所有者カ自己ノ土地又ハ承役地ニ於テ其便益ノ爲メ水ヲ聚合シ及ヒ引入スル外見ノ工作物ヲ作りタル常時ヨリ起算ス

第二百七十七條 初メ一人ノ所有ニ屬シタル二箇ノ土地カ不分ノ時既ニ繼續且表見ノ地役ノ成立ス可キ位置ヲ成シ其分離ノ時此形狀ヲ變更セス又之ヲ變更スルコトヲ要約セサリシトキハ所有者ノ用方

ニ因リ此種ノ地役ヲ設定シタルモノト看做ス

第二百七十八條 不繼續地役及ヒ不表見地役ハ第二百七十五條ニ記載シタル二箇ノ權原ノ一ニ依ルニ非サレハ之ヲ設定スルコトヲ得ス

第二百七十九條 要役權ヲ有スト主張スル所有者ハ承役地ノ所有者ヨリ出テ又ハ其前所有者ノ一人ヨリ出テタル地役追認ノ證書ヲ差出スコトヲ得ルトキハ前ニ掲ケタル方法ノ一ニ因レル地役設定ノ直捷ノ證據ヲ舉グルコトヲ要セス

第三款 地役ノ効力

第二百八十條 適法ニ取得シタル地役權ハ其性質ニ從ヒテ行使ニ必要ナル從タル權利及ヒ權能ヲ帶フ右ノ外合意又ハ遺言ヲ以テ設定シタル地役ニ付テハ其合意又ハ遺言ノ解釋ニ關スル一般ノ規則ニ從フ又時効ニ基キタル地役ニ付テハ實際占有ノ廣狹ヲ量リ所有者ノ用方ニ因リテ生シタル地役ニ付テハ設定者ノ意思ヲ推定シテ其權利ノ廣狹ヲ定ム

第二百八十一條 通行ノ地役、繼續若クハ不繼續ナル取水ノ地役、收畜又ハ物料採取ノ地役ニ付キ設定權原又ハ其後ノ合意ニ於テ行使ノ時日、場所、方法又ハ收取ノ數量ヲ定メザリシトキハ當事者ノ一方ハ常ニ他ノ一方ト立會ノ上其定方ヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得 此定方ニ付テハ裁判所ハ雙方ノ需用ヲ斟酌シ且地役權行使ノ從來ノ實蹟ヲ照査ス可シ

第二百八十二條 取水ノ地役ニ服スル不動産ノ所有者ハ自己ノ所爲ニ因リテ水ノ缺乏ヲ生セシメタルトキニ非サレハ其責ニ任セス

二箇ノ不動産ノ需用ノ爲メニ水ノ不足スルトキハ此ノ家用ニ次ニ農業用ニ次ニ工業用ニ之ヲ供ス右ハ總テ其不產動ノ重要ノ度ニ割合フ可シ

數箇ノ要役地アルトキハ各要役地ハ家用ノ爲メ相共ニ水ヲ使用ス農工業用ニ付テハ取水ノ先後ハ地役權取得ノ先後ニ從フ

第二百八十三條 地役權ヲ有スル者ハ承役地ノ所有者ノ承諾アルニ非サレハ正シク定置キタル行使ノ時日、場所又ハ方法ヲ變更スルコトヲ得ス但承役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲモ受ケサルトキハ此限ニ在ラス

又承役地ノ所有者カ右變更ニ付キ正當ナル利益ヲ得且要役地ノ所有者カ如何ナル損害ヲモ受ケサルトキハ承役地ノ所有者ハ其變更ヲ要求スルコトヲ得

第二百八十四條 地役ヲ設定スル爲メ或ル工作物ヲ必要トスルトキハ其費用ハ要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但承役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス可キコトヲ要約シタルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十五條 地役ノ行使ニ關スル工作物ノ保持及ヒ修繕ハ亦要役地ノ所有者ノ負擔ニ屬ス但修繕カ承役地ノ所有者ノ過失ニ因リテ必要ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス

又承役地ノ所有者カ保持及ヒ修繕ヲ負擔ス可キテ合意スルコトヲ得此場合ニ於テ承役地ノ所有者ハ地役ノ存スル不動産ノ部分ヲ要役地ノ所有者ニ遺棄スルトキハ常ニ右ノ負擔ヲ免カルコトヲ得

第二百八十六條 承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ニ如何ナル妨碍ヲモ爲サス又其便益ニ如何ナル減少ヲモ生セサルニ於テハ其所有權ニ固有ナル適法ノ權能ヲ行フコトヲ得

又承役地ノ所有者ハ地役ノ行使ノ爲メ其不動産ニ設ケタル工作物ヲ使用スルコトヲ得但其所有者カ工作物ヨリ收ムル便益及ヒ其使用ニ因リ増加ス可キ費用ニ應ジテ其建設又ハ保持ノ費用ヲ分擔ス

第四款 地役ノ消滅

第二百八十七條 地役ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

○財産編

- 第一 地役ヲ設定シタル期間ノ満了
- 第二 地定ノ權原又ハ設定者ノ權利ノ解除又ハ廢絶
- 第三 承役地ノ公用徵收
- 第四 拋棄
- 第五 混同
- 第六 三十个年間ノ不使用

第三者カ地役アルコトヲ知ラスシテ承役地ヲ占有シ其占有ニ不動産所有權ノ取得ニ關スル時効ニ必
要ナル條件ヲ具備スルトキハ地役ハ消滅シタリトノ推定ヲ受ク

第二百八十八條 地役ノ拋棄ハ之ヲ明示スルコトヲ要ス然レトモ繼續地役ノ行使ノ爲メ承役地ニ設ケ
タル工作物ノ毀壞又ハ其使用ノ廢止ニ付キ要役地ノ所有者カ異議ヲ留メスシテ明示ノ承諾ヲ與ヘタ
ルトキハ其地役ヲ拋棄シタリト看做ス

拋棄ハ拋棄者カ自己ノ不動産權利ヲ讓渡スノ能力ヲ有スルトキニ非サレハ其効ナシ

第二百八十九條 地役ハ要役地及ヒ承役地チ一人ノ所有ニ併合シタルトキハ混同ニ因リテ消滅ス然レ
トモ其併合ノ行爲ヲ裁判上ニテ解除シ餘餘シ又ハ廢絶シタルトキハ其地役ヲ付テ消滅セザリシモノ
ト看做ス

右不動産ヲ再ヒ分離シタルトキハ繼續且表見ノ地役ハ第二百七十七條ノ規定ニ從ヒテ再生ス

第二百九十條 地役ハ要役地ノ所有者カ任意タルト否トナ開ハス其地役權ヲ行フ無クシテ三十个年ヲ
經過シタルトキハ不使用ニ因リテ消滅ス

右期間ハ不繼續地役ニ付テハ最後ノ使用ノ行爲ヨリ之ヲ起算シ繼續地役ニ付テハ地役ノ自然ノ作用

ニ對スル形體上ノ妨礙ノ起レル當時ヨリ之ヲ起算ス

右妨礙カ承役地ニ起發シタル事變ヨリ生スルトキハ要役地ノ所有者ハ自費ニテ舊狀ニ復スルコトヲ
得又其妨礙カ承役地ノ所有者ノ所爲ヨリ生スルトキハ其費用ヲ以テ復舊ス

第二百九十一條 要役地カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ其一人ノ權利ノ行使ニ因リテ他ノ人ノ權利ヲ保
存ス

此他免責時効ノ停止又ハ中斷ニ關スル規則ハ地役ノ不使用ニ之ヲ適用ス

第二百九十二條 地役權ノ行使ノ時日、場所及ヒ方法ニ關スル利益ハ不使用又ハ時効ノ結果ニ因リテ
滅殺ヲ受クルコト有リ

第三部 人權及ヒ義務

總則

第二百九十三條 人權即チ債權ハ常ニ義務ト對當ス

義務ハ一人又ハ數人チシテ他ノ定マリタル一人又ハ數人ニ對シテ或ル物ヲ與ヘ又ハ或ル事ヲ爲シ若
クハ爲ササルコトニ服從セシムル人定法又ハ自然法ノ羈絆ナリ

義務ヲ負フ者ハ之ヲ債務者ト名ツケ義務ニ因リテ利益ヲ得ル者ハ之ヲ債權者ト名ツケ

第二百九十四條 人定法ノ義務ハ其履行ニ付キ法律ノ許セル諸般ノ方法ニ依リテ債務者ヲ強要スルコ
トヲ得ルモノナリ

自然ノ義務ニ對シテハ所權ヲ生セス

第一章 義務ノ原因

總則

○財産編

第二百九十五條 義務ハ左ノ諸件ヨリ生ズ

乙百十二

- 第一 合意
- 第二 不當ノ利得
- 第三 不正ノ損害
- 第四 法律ノ規定

第一節 合意

第二百九十六條 合意トハ物權ト人權トヲ間ハス或ル權利ヲ創設シ若クハ移轉シ又ハ之ヲ變更シ若クハ消滅セシムルヲ目的トスル二人又ハ數人ノ意思ノ合致ヲ謂フ
合意カ人權ノ創設ヲ主タル目的トスルトキハ之ヲ契約ト名ツク

第一款 合意ノ種類

第二百九十七條 合意ニハ雙務ノモノ有リ片務ノモノ有リ

當事者相互ニ義務ヲ負擔スルトキハ其合意ハ雙務ノモノナリ

當事者ノ一方ノミカ他ノ一方ニ對シテ義務ヲ負擔スルトキハ其合意ハ片務ノモノナリ

第二百九十八條 合意ニハ有償ノモノ有リ無償ノモノ有リ

各當事者カ出捐ヲ爲シテ相互ニ利益ヲ得又ハ第三者ヲシテ之ヲ得セシムルトキハ其合意ハ有償ノモノナリ

當事者ノ一方ノミカ何等ノ利益ヲモ給セスシテ他ノ一方ヨリ利益ヲ受クルトキハ其合意ハ無償ノモノナリ

第二百九十九條 合意ニハ諾成ノモノ有リ要物ノモノ有リ

合意カ當事者ノ承諾ノミナリ以テ成立スルトキハ其合意ハ諾成ノモノナリ

合意カ當事者ノ承諾ノ外尙ホ目的物ノ引渡ヲ要スルトキハ其合意ハ要物ノモノナリ

第三百條 合意ニハ要式ノモノ有リ不要式ノモノ有リ

公正證書ヲ以テ承諾ヲ與フ可キ合意ハ要式ノモノナリ

此他ノ場合ニ於ケル合意ハ不要式ノモノナリ

第三百一條 合意ニハ實定ノモノ有リ射倖ノモノ有リ

合意ノ成立及ヒ効力カ合意ノ當初ヨリ確實ナルトキハ其合意ハ實定ノモノナリ

合意ノ成立又ハ其効力ノ全部若クハ一分カ偶然ノ事ニ歸ルトキハ其合意ハ射倖ノモノナリ

第三百二條 合意ニハ主タルモノ有リ從タルモノ有リ

合意ノ成立カ他ノ合意ノ成立ニ關係ナキトキハ其合意ハ主タルモノナリ

反對ノ場合ニ於テハ其合意ハ從タルモノナリ

主タル合意ノ無効ハ從タル合意ノ無効ヲ惹起ス但從タル合意カ主タル合意ノ無効ノ場合ニ於テ之ニ

代ハルヲ目的トスルモノナルトキハ此限ニ在ラス

從タル合意ノ無効ハ主タル合意ノ無効ヲ惹起セス但當事者カ其二箇ノ合意ヲ分離ス可カラサルモノ

ト看做シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百三條 合意ニハ有名ノモノアリ無名ノモノアリ

有名ノ合意ハ固有ノ名稱アリテ本法又ハ商法ニ於ケル特別ノ規則ノ目的タルモノナリ特別ノ規則ヲ

設ケサル總テノ場合ニ於テハ其合意ハ本部ノ規則ニ從フ

無名ノ合意ハ本部ニ屬ケタル合意ノ一般ノ規則ニ從フ又有名ノ合意ニ特別ナル規則ハ其合意ト最モ

◎財産編

乙百十三

類似スル無名ノ合意ニ之ヲ適用スルコトヲ得

第二款 合意ノ成立及ヒ有効ノ條件

第三百四條 凡ソ合意ノ成立スル爲メニハ左ノ三箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一 當事者又ハ代人ノ承諾

第二 確定ニシテ各人ガ處分權ヲ有スル目的

第三 眞實且合法ノ原因

右ノ外尙ホ要式ノ合意ハ必要ノ方式ヲ遵守シ要物ノ合意ハ返還セラル可キ物ノ引渡ヲ爲シタルニ非サレハ成立セス

第三百五條 合意ノ成立ニ必要ナル條件ノ外尙ホ其有効ナル爲メニハ左ニ掲ケル二箇ノ條件ヲ具備スルヲ必要トス

第一 承諾ノ瑕疵ヲ成ス可キ錯誤又ハ隱暴ノ無キコト

第二 當事者ノ能力アルコト又ハ有効ニ代理セラレタルコト

第三百六條 承諾トハ利害關係人トシテ合意ニ加ハル總當事者ノ意思ノ合致ヲ謂フ

當事者中ノ一人カ承諾セサルトキハ他ノ當事者カ承諾シタルモ合意ハ成立セス但此ニ異ナル意思ノ存セシ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第三百七條 承諾ハ書面、口頭又ハ容限ヲ以テ之ヲ與フルコトヲ得但此末ノ場合ニ於テハ他モ同意ヲ表スルノ手段ナキコト且承諾スル意思ノ確認アルコトヲ要ス

又承諾ノ事情ニ因リテ默示ヨリ成ルコトヲ得

第三百八條 遠隔ノ地ニ於テ取結フ合意ノ旨込ハ其受諾ノ爲メ明示又ハ默示ノ期間ナキトキハ受諾ノ報ナキノ間ハ之ヲ言消スコトヲ得但言消ノ報ノ達スルニ先タチ受諾ノ報ヲ發シタルトキハ其受諾ハ有効ニシテ其言消ハ無効ナリ

右ニ反シ明示又ハ默示ノ期間アルトキハ其期間ハ旨込ヲ言消スコトヲ得但言消ノ報カ旨込又ハ期間指示ノ報ニ先ダチ又ハ同時ニ先方ニ達シタルトキハ此限ニ在ラス

此指示期間ニ受諾ヲ爲ササルトキハ旨込ハ期間満了ノミニテ消滅ス

受諾モ亦之ヲ言消スコトヲ得但其報カ受諾ノ報ニ先ダチ又ハ同時ニ旨込人ニ達スルコトヲ要ス

旨込人カ死亡シ又ハ合意スル能力ヲ失ヒタルモ先方カ未タ此事實ヲ知ラサル間ハ其受諾ハ有効ナリ

郵便、電信ノ錯誤ハ差出人ノ責ニ歸ス但郵便、電信ノ官署ニ對スル求償權アルトキハ之ヲ行フコトヲ妨ケス

第三百九條 當事者ノ錯誤ニテ合意ノ性質、目的又ハ原因ノ著眼ニ相違アリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

合意ノ理由ノ錯誤ハ其錯誤ノミニテハ無効ノ原因ヲ成サス但當事者ノ一方ノ詐欺ニ關シテ定ムルモノハ此限ニ在ラス

當事者ノ身上ノ錯誤ハ其身上ニ付テノ著眼カ決意ノ原因タリシトキハ其錯誤ハ承諾ヲ阻却ス

身上ノ著眼カ合意ノ附隨ノ原因タルニ過キサルトキハ其合意ハ身上ノ錯誤ノ爲メ單ニ取消スコトヲ得ヘキモノナリ

第三百十條 物上ノ錯誤カ物ノ品質ニ存スルトキハ其錯誤ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス但其品質ニ付テノ著眼カ當事者ノ決意ヲ助成セサルトキハ此限ニ在ラス

○財産編

格ニ著眼シタルコトノ明白ナルトキハ此限ニ在ラス物ノ時代、處又ハ用方ノ如キ思想上ノ品格ニ付テモ亦同シ

合意ノ履行ノ時期又ハ場所ニ存スル錯誤ニ付テハ前項ノ規定ニ從フ
算數、氏名、證書ノ日附又ハ場所ノ錯誤ニ付テハ第五百五十九條ノ規定ニ從フ

第三百十一條 法律ノ錯誤カ或ハ合意ノ性質原因又ハ効力ニ存スルトキ或ハ物ノ資格又ハ人ノ分限ニ存シテ其資格若クハ分限カ決意ヲ爲サシメタルトキハ其錯誤ハ事實ノ錯誤ノ如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス

然レトモ裁判所ハ宥恕ス可キ情狀アルニ非サレハ右錯誤ノ爲メ合意ノ無効ヲ認許スルコトヲ得ス
法律ノ錯誤ハ責罰ニ對シ時期ヨリ生スル法律上ノ失權ニ對シ又ハ行意ノ違式ヨリ生スル無効ニ對シ
此他公ノ秩序ニ係ル法律ノ規則ノ不知ニ對シテモ當事者ヲ救護スル爲メニ之ヲ認許セス

第三百十二條 詐欺ハ承諾ヲ阻却セス又其瑕疵ヲ成サス但詐欺カ錯誤ヲ惹起シ其錯誤ノミヲ以テ前三條ニ記載セル如ク承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ストキハ此限ニ在ラス
此他ノ場合ニ於テハ詐欺ハ之ヲ行ヒタル者ニ對スル損害賠償ノ所權ノミヲ生ス
然レトモ當事者ノ一方カ詐欺ヲ行ヒ其詐欺カ他ノ一方ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決意セシメタルトキハ其一方ハ補償ノ名義ニテ合意ノ取消ヲ求メ且損害アルトキハ其賠償ヲ求ムルコトヲ得但合意ノ取消ハ善意ナル第三者ヲ害スルコトヲ得ス

第三百十三條 強暴ハ當事者ノ一方カ抵抗スルコトヲ得サル暴行、脅迫ヲ受ケタルニ因リ枉ケテ合意ヲ爲シタルトキハ承諾ヲ阻却ス

當事者ノ方一カ不可抗カニ出テタル脅迫ノ災害ヲ避クル爲メ強暴スルノ取ナクシテ過度ナル義務ヲ納シ又ハ無思慮ナル讓渡ヲ爲シタルトキモ亦同シ
暴行、脅迫又ハ災害カ抵抗ス可カラサルニ非サルモ當事者又ハ第三者ノ身體、財産ノ爲メ切迫ニシテ一層重大ノ害ヲ避クル爲メ當事者ヲシテ合意ヲ爲スコトニ決意セシメタルトキハ強暴ハ承諾ノ瑕疵ヲ成ス

第三百十四條 強暴ニ因リテ身體財産ニ危難ノ恐ヲ受ケタル第三者カ當事者ノ配偶者又ハ直系ノ親戚若クハ姻屬ナルトキハ其強暴ハ常ニ之ヲ當事者ニ加ヘタリト看做ス
此他ノ人ニ付テハ親屬ナルト姻屬ナルト又ハ外人ナルトヲ問ハス裁判所ハ此等ノ者ニ對シテ加ヘタル強暴カ當事者ノ承諾ニ及ホセシ影響ヲ其事情ニ從ヒテ査定ス

第三百十五條 強暴ハ當事者ノ一方ノ所爲ニ出テタルト第三者ノ所爲ニ出テタルト又第三者カ其一方ニ通謀セルト否トヲ問ハス上ノ區別ニ從ヒテ承諾ヲ阻却シ又ハ其瑕疵ヲ成ス

第三百十六條 強暴ヲ受ケタル一方ハ合意ヲ銷除スルコトヲ得ル場合ニ於テモ強暴ヲ行ヒタル者ニ對シ損害賠償ノミヲ請求シテ其合意ヲ維持スルコトヲ得
強暴カ合意ノ決意ヲ爲サシメタルニ非スシテ單ニ不利ナル條件ヲ承諾セシメタルトキハ其合意ハ銷除スルコトヲ得ス但賠償ノ要求ヲ妨ケス

第三百十七條 強暴ノ場合ニ於テ裁判所ハ當事者ノ男女、年齢、強弱、智愚及ヒ相互ノ身分ヲ斟酌ス可シ

然レトモ昇降ノ昇降ノ對スル尊嚴ノミニ出テタル長權ハ合意ヲ取消ス理由ト爲ラス
第三百十八條 錯誤、強暴、詐欺及ヒ無能力ハ之ヲ推定セス其中立人ヨリ之ヲ設スルコトヲ要ス
當事者ノ雙方ニ屬スル銷除所權ノ方法ハ相互ノ非理ニ基クトキト雖モ互ニ毀滅セス但損害アルトキ

○財産編

ハ其賠償ノ相殺ヲ妨ケス

乙百十八

第三百十九條 前數條ノ場合ニ於ケル銷除障礙ハ無能力者又ハ取扱アル承諾ヲ與ヘタル者ノミニ限ス
然レトモ處刑ノ言渡ヨリ生スル無能力ハ其言渡ヲ受ケタル者ト合意ヲ爲シタル者ヨリ之ヲ申立ツル
コトヲ得

第三百二十條 取消スコトヲ得ヘキ合意ヲ第三章第七節ニ定メタル期間ニ攻撃セザルトキハ默示ニテ
之ヲ認諾シタルモノト看做ス

此他默示認諾ノ場合及ヒ明示認諾ノ方式ハ右同節ノ規定ニ從フ

第三百二十一條 合意ハ未來ニ係リ且成立ノ不確定ナル物ヲ目的トスルコトヲ得此場合ニ於テ諾約者
ハ其諾約ノ實施ヲ妨碍シ若クハ裁縮スル何等ノ事ヲモ爲サス又其實施ニ便ス可キ何等ノ事ヲモ放却
シ若クハ意ヲサルコトヲ要ス

然レトモ相續ニテ受ク可キ財産ヲ讓渡ス合意ハ其相續ヲ遺ス可キ人ノ承諾アリト雖モ之ヲ爲スコト
ヲ得ス

第三百二十二條 合意ハ不法又ハ不能ノ作爲又ハ不作爲ヲ目的トスルトキハ無効ナリ
合意ノ目的タル第三者ノ作爲又ハ不作爲カ合法又ハ可能ナリト雖モ若シ諾約者カ其第三者ニ對シテ

威嚇ヲ有セザルトキハ其諾約ハ之ヲ不能ノ作爲又ハ不作爲ヲ目的トセルモノト看做ス

然レトモ何人ニテモ第三者ノ作爲又ハ不作爲ニ付キ明示ニテ擔保人ト爲ルコトヲ得此場合ニ於テハ

諾約者ハ保證人ノ義務ニ服ス
又何人ニテモ第三者ニ代ハリテ諾約ヲ爲シ若シ其第三者カ之ヲ履行セザルニ於テハ過意金ヲ納付ス
可キ責ニ服スルコトヲ得

何人ニテモ第三者ノ名ヲ以テ合意ヲ爲シ第三者ヲレテ之ヲ承認セシム可キコトノミテ諾約シタルト
キハ其第三者ノ承認シタル時ヨリ義務ヲ免カル

第三百二十三條 要約者カ合意ニ付キ金銀ニ見積ルコトヲ得ハ正當ノ利益ヲ有セザルトキハ其合意
ハ原因ナキ爲メ無効ナリ

第三者ノ利益ノ爲メニ要約ヲ爲シ且之ニ過意約款ヲ加ヘザルトキハ其要約ハ之ヲ要約者ニ於テ金銀
ニ見積ルコトヲ得ヘキ利益ヲ有セザルモノト看做ス

然レトモ第三者ノ利益ニ於ケル要約ハ要約者カ自己ノ爲メ爲シタル要約ノ從タリ又ハ諾約者ニ爲シ
タル贈與ノ從タル條件ナルトキハ有効ナリ

右二箇ノ場合ニ於テ從タル條件ノ履行ヲ得ザルトキハ要約者ハ單ニ合意ノ解除障礙又ハ過意約款ノ
履行障礙ヲ行フコトヲ得

第三百二十四條 主タリ又ハ從タル要約ハ常ニ要約者ノ相續人ノ利益ノ爲メニ之ヲ爲スコトヲ得
主タリ又ハ從タル諾約ハ諾約者ノ相續人ノ負擔トシテ之ヲ爲スコトヲ得

第三百二十五條 前二條ノ場合ニ於テ第三者又ハ相續人ノ利益ノ爲メニ爲シタル要約ハ受益者ノ之ヲ
承諾セザル間ハ要約者ハ自己ノ利益ノ爲メニ之ヲ廢止シ又ハ之ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得

第三百二十六條 合意ノ證據ニ原因ヲ明示シタルト否トナ間ハ其原因ノ不成立、虛妄又ハ不法ナル
コトノ證據ハ被告ヨリ之ヲ爲ス可キモノトス若シ原因ノ明示ナキトキハ被告ハ先ツ原告ヲシテ其原
因ヲ陳述セシムル爲メニ之ニ催告スルコトヲ得但其原因ニ付キ爭フコトヲ妨ケス

第三款 合意ノ効力

第一則 當事者間及ヒ其承繼人間ノ合意ノ効力

◎財産編

乙百十九

第三百二十七條 遺法ニ爲シタル合意ハ當事者ノ間ニ於テ法律ニ同シキ效力ヲ有ス

此合意ハ當事者ノ雙方カ承諾スルニ非サレハ之ヲ廢絶スルコトヲ得ス但法律カ一方ノ意思ヲ以テ廢絶スルコトヲ許セル場合ハ此限ニ在ラス

第三百二十八條 當事者ハ合意ヲ以テ普通法ノ規定ニ依ラサルコトヲ得又其效力ヲ増減スルコトヲ得但公ノ秩序及ヒ善良ノ風俗ニ觸ルルコトヲ得ス

第三百二十九條 合意ハ當事者ノ明示及ヒ默示ノ效力ノミナラス尙ホ合意ノ性質ニ從ヒテ條理若クハ慣習ヨリ生シヌハ法律ノ規定ヨリ生スル效力ヲ有ス

第三百三十條 合意ハ善意ヲ以テ之ヲ履行スルコトヲ要ス

第三百三十一條 特定物ヲ授與スル合意ハ引渡ヲ要セスシテ直チニ其所有權ヲ移轉ス但合意ニ附帶スルコト有ル可キ停止條件ニ關シテ下ニ規定スルモノヲ妨ケス

第三百三十二條 代替物ヲ授與スル合意ハ諸約者ヲシテ其物ノ所有權ヲ約束シタル性質、品格及ヒ分量ヲ以テ要約者ニ移轉スル義務ヲ負ハシム此場合ニ於テ所有權ハ物ノ引渡ニ因リ又ハ當事者立會ニテ爲シタル其指定ニ因リテ移轉ス

第三百三十三條 前二條ノ場合ニ於テハ約束シタル時日及ヒ場所ニ於テ諸約者ノ注意及ヒ費用ニテ物ノ引渡ヲ爲スコトヲ要ス

引取ノ費用ハ要約者之ヲ負擔ス

證書ノ費用ハ有償行爲ニ付テハ當事者雙方之ヲ負擔シ無償行爲ニ付テハ受益者之ヲ負擔ス

不動産ノ引渡ハ證書ノ交付及ヒ場所ノ明瞭ヲ以テ之ヲ爲ス但簡易ノ引渡及ヒ占有ノ改定ニ關シテ第九十一條ニ規定シタルモノヲ妨ケス

債權ノ引渡ハ證書ノ交付ヲ以テ之ヲ爲ス

引渡ノ期限ノ定マラザリシトキハ即時ニ引渡ヲ要求スルコトヲ得

引渡ノ場所ノ定マラザリシトキハ特定物ニ付テハ合意ノ當時其物ノ存在セシ場所、代替物ニ付テハ其物ノ指定ヲ爲シタル場所其他ノ場合ニ在テハ諸約者ノ住所ニ於テ引渡ヲ爲ス

第三百三十四條 諸約者ハ特定物ノ引渡ヲ爲スマテ善良ナル管理人タルノ注意ヲ以テ其物ヲ保存スルコトヲ要ス懈怠又ハ惡意アルトキハ損害賠償ノ責ニ任ス

無意ニテ讓渡シタル物ノ保存ニ付テハ諸約者ハ自己ノ物ニ加フルト同一ノ注意ヲ加フルノミノ責ニ任ス

此他諸約者カ右ト同一ノ注意ノミヲ負擔スル場合ハ其各事項ニ於テ之ヲ規定ス

第三百三十五條 授與スル合意カ特定物ヲ目的トスルトキハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタル其物ノ滅失又ハ毀損ハ諸約者カ危険ヲ負擔シタル場合及ヒ停止條件ニ關スル規定ヲ除外要約者ノ損ニ歸シ其物ノ増加ハ要約者ノ益ニ歸ス

然レトモ諸約者カ物ノ引渡ノ遲滞ニ付セラレタルトキハ其滅失又ハ毀損ハ諸約者ノ負擔ニ歸ス但縱令引渡ヲ爲シタルモ滅失又ハ毀損ヲ免ル可カラザリシ場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十六條 左ノ場合ニ於テハ諸約者其他ノ債務者ハ遲滞ニ付セラレタルモノトス

第一 期限ノ到來後ニ裁判所ニ請求ヲ爲シヌハ合式ニ催告書ヲ送達シ若クハ執行文ヲ示シタルトキ

第二 期限ノ到來ノミニ因リテ遲滞ニ付スルコトヲ法律又ハ合意ヲ以テ定メタル場合ニ於テ其期限ノ到來シタルトキ

○財産編

第三 諸約者カ或ル時期ニ後レタル履行ハ要約者ニ無用ナルコトヲ知りテ其時期ヲ經過セシメタルトキ

第三百三十七條 作為又ハ不作爲ノ義務ヲ定ムル合意ノ効力ハ第三百八十二條ノ規定ニ從フ

第三百三十八條 合意ハ當事者ノ相續人其他一般ノ承繼人ヲ利シ又ハ之ヲ害ス但法律又ハ合意ニ於テ格別ノ定テ爲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十九條 債權者ハ其債務者ニ屬スル權利ヲ申立テ及ヒ其訴權ヲ行フコトヲ得

債權者ハ此事ノ爲メ或ハ差押ノ方法ニ依リ或ハ債務者ノ原告又ハ被告タル訴ニ參加スルコトニ依リ或ハ民事訴訟法ニ從ヒテ得タル裁判上ノ地位ヲ以テ第三者ニ對スル間接ノ訴ニ依ル

然レトモ債權者ハ債務者ニ屬スル純然タル權利又ハ債務者ノ一身ニ以テ屬スル權利ヲ行フコトヲ得ス又法律又ハ合意ノ明文ヲ以テ差押ヲ禁シタル財産ヲ差押フルコトヲ得ス

第三百四十條 右ニ反シ債權者ハ其債務者カ第三者ニ對シ承諾シタル義務放棄又ハ譲渡ニ付キ其損害ヲ受ク但債權者ノ權利ヲ侵害スル行爲ハ此限ニ在ラス

債務者リ其債權者ヲ害スルコトヲ知りテ自己ノ財産ヲ減シ又ハ自己ノ債務ヲ増シタルトキハ之ヲ詐害ノ行爲トス

第三百四十一條 詐害ノ行爲ノ廢罷ハ債務者ト約束シタル者及ヒ轉得者ニ對シ次條ノ區別ニ從ヒ債權者ヨリ廢罷訴權ヲ以テ之ヲ請求ス

債務者カ原告タルト被告タルトテ問ハス詐害スル意思ヲ以テ故サラニ訴訟ニ失敗シタルトキハ債權者ハ民事訴訟法ニ從ヒ再審ノ方法ニ依リテ訴フルコトヲ得

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ヲ訴訟ニ參加セシムルコトヲ要ス

債權者カ詐害ノ行爲ノ廢罷ヲ得ル能ハサルトキハ被告ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得

第三百四十二條 債權者ハ攻撃スル行爲ノ如何ヲ問ハス其債務者ノ詐害ヲ證スルコトヲ要ス此他有債ノ行爲ニ付テハ債務者ト約束シ又ハ之ト訴訟シタル者ノ通謀ヲ證スルコトヲ要ス

讓渡ニ對スル廢罷訴權ハ有債又ハ無債ノ轉得者カ最初ノ取得者ト約束スルニ當リ債權者ニ加ヘタル詐害ヲ知リタルトキニ非サレハ其轉得者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第三百四十三條 廢罷ハ詐害行爲ニ先チ權利ヲ取得シタル債權者ニ非サレハ之ヲ請求スルコトヲ得ス然レトモ廢罷ヲ得タルトキハ總債權者ヲ利ス但各債權者ノ間ニ於テ適法ノ先取原因ノ存スルトキハ此限ニ在ラス

第三百四十四條 廢罷訴權ハ詐害行爲ノ有リタル時ヨリ三十年ニシテ時効ニ罹リ消滅ス若シ債權者カ詐害ヲ覺知シタルトキハ其覺知ノ時ヨリ二年ニシテ消滅ス

第二則 第三者ニ對スル合意ノ効力

第三百四十五條 合意ハ當事者及ヒ其承繼人ノ間ニ非サレハ効力ヲ有セスト雖モ法律ニ定メタル場合ニ於テシ且其餘件ニ從フトキハ第三者ニ對シテ効力ヲ生ス

第三百四十六條 所有者カ一箇ノ有體動産ヲ二箇ノ合意ヲ以テ各別ニ二人ニ與ヘタルトキハ其二人中現ニ占有スル者ハ證書ノ日附ハ後ナリトモ其所有者タリ但其者カ自己ノ合意ヲ爲ス當時ニ於テ前ノ合意ヲ知ラス且前ノ合意ヲ爲シタル者ノ財産ヲ管理スル責任ナキコトヲ要ス

此規則ハ無記名證券ニ之ヲ適用ス

第三百四十七條 記名證券ノ讓受人ハ債務者ニ其讓受ヲ合式ニ告知シ又ハ債務者カ公正證明若クハ私

○財産編

署證書ヲ以テ之ヲ承諾シタル後ニ非サレハ自己ノ權利ヲ以テ讓渡人ノ承継人及ヒ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

債務者ハ讓渡ヲ承諾シタルトキハ讓渡人ニ對スル抗辯ヲ以テ新債權者ニ對抗スルコトヲ得ヌ又讓渡ニ付テノ告知ノミニテハ債務者ヲシテ其告知後ニ生スル抗辯ノミヲ失ハシム

右ノ行為ノ一ヲ爲スマテハ債務者ノ辨濟ニ免責ノ合意ハ讓渡人ノ債權者ヨリ爲シタル拂渡差押又ハ合式ニ告知シ若クハ承諾ヲ得タル新讓渡ハ總テ善意ニテ之ヲ爲シタルモノトノ推定ヲ受ケ且之ヲ以テ善意ナル讓受人ニ對抗スルコトヲ得

當事者ノ惡意ハ其自白ニ因ルニ非サレハ之ヲ證スルコトヲ得ス然レトモ讓渡人ト通謀シタル詐害アリシトキハ其通謀ハ通常ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證スルコトヲ得

第三百四十八條 左ニ掲ケル條件ハ財産所在地ノ區裁判所ニ備ヘタル登記簿ニ之ヲ登記ス

第一 不動産所有權其他ノ不動産物權ノ讓渡

第二 右ノ權利ノ變更又ハ拋棄

第三 差押ヘタル不動産ノ競落

第四 公用徵收ヲ宣言シタル判決又ハ行政上ノ命令

第三百四十九條 登記ハ當事者ノ願ニ因リ其費用ヲ以テ之ヲ爲ス

願者ニハ其求ニ因リテ登記ノ證書ヲ交付ス

何人ニテモ登記簿ノ抄本ヲ要求スルコトヲ得

登記ニ關スル方式ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第三百五十條 第三百四十八條ニ掲ケタル行為、判決又ハ命令ノ効力ニ因リテ取得シ變更シ又ハ取回シタル物權ハ其登記ヲ爲スマテハ仍ホ名義上ノ所有者ト此物權ニ付キ約束シタル者又ハ其所有者ヨリ此物權ト相容レサル權利ヲ取得シタル者ニ對抗スルコトヲ得ヌ但其者ノ善意ニシテ且其行為ノ登記ヲ要スルモノナルトキハ之ヲ爲シタルトキニ限ル

善意及ヒ通謀ニ付テハ第三百四十七條ノ規定ニ從ヒテ之ヲ證スルコトヲ得

第三百五十一條 法律、裁判又ハ合意ニ因リテ前取得者ノ爲メ登記ヲ爲ス義務アル者力之ヲ爲サスシテ後ニ取得者ト爲リタルトキハ善意タリト雖モ自己又ハ其相繼人若クハ一般ノ承継人ヨリ登記ヲキコトヲ申立テテ前取得者ニ對抗スルコトヲ得ヌ

第三百五十二條 登記ヲ經タル讓渡ノ解除銷除、又ハ廢止ヲ爲サントスル既權カ善意ノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得サル場合ニ在テハ原告ハ爾後自己ニ對抗スルコトヲ得ヘキ登記ヲ防止スル爲メ其攻撃スル行為ノ登記ニ豫メ既狀ノ披抄ヲ附記ス

右ノ既權ヲ總テノ轉得者ニ對シテ行フコトヲ得ヘキ場合ニ在テハ其攻撃スル行為ノ登記ニ既狀ヲ附記セサル間ハ裁判所ニ於テ其既狀ヲ受理セス

行為取消ノ判決ハ假執行タリトモ其執行以前ニ既狀ノ附記ノ末尾ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス縱令執行ナキモ亦其判決ノ確定ト爲リタル時ヨリ一个月内ニ之ヲ記載スルコトヲ要ス此ニ違ヒタルトキハ其判決ヲ得タル者ヲ五十圓以下ノ過料ニ處ス裁判所ハ請求ヲ却下シ又ハ其手續ノ失効ヲ宣告シタルトキハ其判決ノ確定ニ至リテ既狀ノ附記ヲ抹消セシムル爲メ職權ヲ以テ豫メ其抹消ヲ命ス

原告力取テ下ヲ爲シタルトキハ當事者ノ請願ニ因リテ既狀ノ附記ヲ抹消ス

第三百五十三條 登記ヲ經タル行為ノ協同上ノ解除、銷除又ハ廢止ハ總テ之ヲ任意ノ隨扈ト看做シ第

三百四十八條乃至第三百五十一條ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス
右登記ハ登記官吏其職權ヲ以テ取消ト爲リタル行爲ノ登記ニ之ヲ附記ス

第三百五十四條 登記及ヒ附記ハ總テ利害ノ關係ナ有スル者ヨリ其抹消又ハ改正ヲ請求スルコトヲ得
右請求及ヒ其判決ハ第三百五十二條ニ規定シタル如ク其爭フ行爲ノ登記ニ之ヲ附記スルコトヲ要ス
此ニ違フ者ノ責罰モ亦同條ノ規定ニ從フ

能カチ有シ又ハ合式ニ代理セラレ若クハ保佐セラレタル當事者ハ協議ニテ抹消又ハ改正ヲ承諾スル
コトヲ得

裁判上ニテ合式ニ命シ又ハ協議ニテ承諾シタル抹消又ハ改正ハ登記ヲ爲シタル權利者ヲ此事ニ付キ
異議ヲ述ヘシムル爲メニ召喚シ又ハ其承諾ヲ得タルニ非サレハ之ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百五十五條 登記官吏ハ前數條ニ拘ケタル登記附記抹消若クハ改正又ハ登記附記ニ於ケル脱漏
又ハ訛誤ニ付キ請願者又ハ利害關係人ニ對シテ其責ニ任ス

第四款 合意ノ解釋

第三百五十六條 合意ノ解釋ニ付テハ裁判所ハ當事者ノ用テタル語辭ノ字義ニ拘ハラシヨリ該當事
者ノ共通ノ意思ヲ推尋スルコトヲ要ス

第三百五十七條 一箇ノ語辭カ各地ニ於テ意義ヲ異ニスルトキハ當事者雙方ノ住所チ有スル地ニ於テ
慣用スル意義ニ從ヒ若シ同一ノ地ニ住所チ有セサルトキハ合意ヲ爲シタル地ニ於テ慣用スル意義ニ
從フ

一箇ノ語辭ニ本來ニ二様ノ意義アルトキハ其合意ノ性質及ヒ目的ニ最モ適スル意義ニ從フ
第三百五十八條 合意ノ各項目ハ合意ノ全體ト最モ善ク一致スル意義ニ從ヒテ相互ニ之ヲ解釋ス

一箇ノ項目ニ二様ノ意義アリテ其一カ項目チ有效ナラシムルトキハ其意義ニ從フ

第三百五十九條 合意ノ語辭カ如何ニ廣泛ナルモ其語辭ハ當事者ノ合意ヲ爲スニ付キ期望シタル目的
ノミチ包含セルモノト推定ス

當事者カ合意ノ自然若クハ法律上ノ效力ノ一ヲ明言シ又ハ特別ノ場合ニ於ケル其適用ヲ明言シタル
モ慣習若クハ法律ニ因リテ生スル他ノ效力又ハ適當ニ受ク可キ他ノ適用ヲ阻却セント欲シタルモノ
ト推定セス

第三百六十條 總テノ場合ニ於テ當事者ノ意思ニ疑アルトキハ其合意ノ解釋ハ諾約者ノ利ト爲ル可キ
意義ニ從フ

雙務ノ合意ニ於テハ此規定ハ各項目ニ付キ各別ニ之ヲ適用ス

第二節 不當ノ利得

第三百六十一條 何人ニテモ有意ト無意ト又錯誤ト故意トヲ開ハス正當ノ原因ナクシテ他人ノ財産ニ
付キ利ヲ得タル者ハ其不當ノ利得ノ取戻ヲ受ク

此規定ハ下ノ區別ニ從ヒ主トシテ左ノ諸件ニ之ヲ適用ス

第一 他人ノ事務ノ管理

第二 負擔ナクシテ辨濟シタル物及ヒ虛妄若クハ不法ノ原因ノ爲メ又ハ成就セス若クハ消滅シタ
ル原因ノ爲メニ供與シタル物ノ領受

第三 遺贈其他遺言ノ負擔ヲ付シタル相續ノ受贈

第四 他人ノ物ノ添附ヨリ又ハ他人ノ努力ヨリ生スル所有物ノ増加

第五 他人ノ物ノ占有者カ不法ニ收取シタル果實、產出物其他ノ利益及ヒ之ニ反シテ占有者カ其

○財産編

占有物ニ加ヘタル改良但第百九十四條乃至第百九十八條ニ規定シタル區別ニ從フ

第三百六十二條 不在者其他ノ人ノ財産ニ侵害アリト見ユルトキ合意上、法律上又ハ裁判上ノ委任ナク好意ヲ以テ其事務ヲ管理スル者ハ本主ノ財産ヨリ收メタル利益ヲ返還シ且其管理ノ際自己ノ名ニテ取得シタル權利及ヒ既權ヲ本主ニ移轉スル責アリ

右管理者ハ本主又ハ其相續人カ自ラ管理ヲ爲シ得ルニ至ルマテ其管理ヲ繼續スル責アリ
又右管理者ハ過失又ハ懈怠ニ因リテ本主ニ加ヘタル損害ノ責ニ任ス但管理者カ其管理ニ任スルニ至レル事情ヲ酌量スルコトヲ要ス

第三百六十三條 本主ハ管理者カ管理ノ爲メニ出シタル必要又ハ有益ナル諸費用ヲ賠償シ及ヒ管理者カ其管理ノ爲メニ自身ニ負擔シタル義務ヲ免カレシメ又ハ其擔保ヲ爲スコトヲ要ス

若シ本主ノ意思ニ反シ管理ヲ爲シタルトキハ管理者ハ出所ノ日ニ於テ存在スル費用又ハ納務ノ有益ノ限度ニ非スシテ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

第三百六十四條 債權者ニ非スシテ辨濟ヲ受ケタル者ハ其善意ト惡意ト又辨濟者ノ錯誤ト故意トヲ問ハス厥ヲ受ケタル日ニ於テ現ニ已レテ利シタルモノノ取戻ヲ受ケ

第三百六十五條 辨濟ヲ受ケタル者カ債權者ナルモ債務者ニ非サル者ヨリ之ヲ受ケタルトキハ辨濟者カ錯誤ニテ辨濟ヲ爲シタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サス

債權者カ辨濟ヲ受ケタル爲メニ善意ニテ假權證書ヲ毀滅セシトキモ亦其取戻ヲ許サス

右二個ノ場合ニ於テ辨濟者カ事務管理ノ既權ニ依リ又ハ代位辨濟ノ規則ニ依リ眞ノ債務者ニ對シテ有スル求償權ヲ妨ケス

第三百六十六條 眞ノ債務者ヨリ眞ノ債權者ニ辨濟ヲ爲シタル場合ニ在テハ債務者カ其負擔シタル物

ニ異ナル性質ノ物又ハ自己ニ屬セサル物ヲ錯誤ニ因リ辨濟トシテ與ヘタルトキニ非サレハ其取戻ヲ許サス

或ハ期限ニ先タチテ辨濟ヲ爲シ或ハ辨濟ヲ實行ス可キ場所外ニ於テ辨濟ヲ爲シ或ハ講約シタル物ニ異ナル品質、品格若クハ價格ノ物ヲ以テ辨濟ヲ爲シタルトキモ亦其取戻ヲ許サス但當事者ノ一方ノ錯誤ニ出テタルトキハ其一方ハ爲メニ受ケタル損失ヲ他ノ一方ノ得タル利益ノ割合ニ應ジテ賠償セシムルコトヲ妨ケス

第三百六十七條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ニシテ辨濟ノ性質ヲ有セサルモノニモ亦第三百六十四條ノ規定ヲ適用ス

然レトモ不法ノ原因ノ爲メ供與シタル物又ハ有價物ハ其原因カ之ヲ供與シタル者ノ方ニ於テ不法ナルトキハ其取戻ヲ許サス

第三百六十八條 第三百六十一條第二號ニ掲ケタル供與ヲ惡意ニテ領受シタル者ハ既ヲ受ケタル日ニ於テ其不當ニ已レテ利シタルモノノ外尙ホ左ノ物ヲ返還ス可シ

第一 元本ヲ領受セシ時ヨリノ法律上ノ利息

第二 收取ヲ怠リ又ハ消費シタル特定物ノ果實及ヒ產出物

第三 自己ノ過失又ハ懈怠ニ因ル物ノ價額ノ喪失又ハ減少ノ價金縱令其喪失又ハ減少カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ルモ其物カ供與者ノ方ニ在ルニ於テハ此損害ヲ受ケサル可カリシトキハ亦同シ

第三百六十九條 不當ニ領受シタル物カ不動産ニシテ且之ヲ第三者ニ讓渡シタルトキハ初ノ引渡人ハ其選擇ヲ以テ或ハ第三所持者ニ對シテ其不動産ノ回復ヲ訴ヘ或ハ領受者ニ對シテ其代金ノ取戻ヲ訴

○財産編

フルコトヲ得

七百三十

善意ナル領受者ニ對シテハ單ニ不動産ノ讓渡代金ヲ取戻シ又ハ其代金ニ關スル財産ヲ要求シ惡意ナル領受者ニ對シテハ其代金ヲ評價ニテ取戻スコトヲ得

第三節 不正ノ損害即チ犯罪及ヒ准犯罪

第三百七十條 過失又ハ懈怠ニ因リテ他人ニ損害ヲ加ヘタル者ハ其賠償ヲ爲ス責ニ任ス

此損害ノ所爲カ有意ニ出テタルトキハ其所爲ハ民事ノ犯罪ヲ爲シ無意ニ出テタルトキハ准犯罪ヲ成犯罪及ヒ准犯罪ノ責任ノ廣狹ハ合意ノ履行ニ於ケル詐欺及ヒ過失ノ責任ニ關スル次章第二節ノ規定ニ從フ

第三百七十一條 何人ヲ問ハス自己ノ所爲又ハ懈怠ヨリ生スル損害ニ付キ其責ニ任スルノミナラス尙ホ自己ノ威權ノ下ニ在ル者ノ所爲又ハ懈怠及ヒ自己ニ屬スル物ヨリ生スル損害ニ付キ下ノ區別ニ從ヒテ其責ニ任ス

第三百七十二條 父權ヲ行フ尊屬親ハ已レト同居スル未成年ノ卑屬親ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

後見人ハ已レト同居スル被後見人ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

瘋癲白痴者ヲ看守スル者ハ瘋癲白痴者ノ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

教師ノ師匠及ヒ工場長ハ未成年ノ生徒ノ習業者及ヒ職工カ自己ノ監督ノ下ニ在ル間ニ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

本條ニ指定シタル責任者ハ損害ノ所爲ヲ防止スル能ハサリシコトヲ證スルトキハ其責ニ任セス

第三百七十三條 主人ノ親方又ハ工事ノ進送等ノ營業人若クハ總テノ委託者ハ其雇人ノ使用人ノ職工又ハ

受任者カ受任ノ職務ヲ行フ爲メ又ハ之ヲ行フニ際シテ加ヘタル損害ニ付キ其責ニ任ス

第三百七十四條 動物ノ加ヘタル損害ノ責任ハ其所有者又ハ損害ノ當時之ヲ使用セル者ニ歸ス但其損害カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

第三百七十五條 建物其他ノ工作物ノ所有者ハ此等ノ工作物ノ崩壊カ修繕ノ欠缺又ハ製造ノ瑕疵ニ出テタルトキハ其崩壊ニ因リテ加ヘタル損害ノ責任ニ任ス但此末ノ場合ニ於テハ工事請負人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

堤防ノ破損ニ因リ投錨若クハ繫纜ノ粗忽ニ因リ又ハ樹木柱竿、目隠看板、障子其他堅牢ヲ缺ケル建物ノ部分ノ崩壊墮落ニ因リテ加ヘタル損害ニ付テモ亦同シ

第三百七十六條 自治産ナルト否トテ問ハス未成年者ハ其有意又ハ粗忽ニテ加ヘタル不正ノ損害ニ付テハ刑事上責任ヲ免カル可キトキト雖モ民事上責任アリト宣告セララルコト有リ

又右未成年者ハ其雇人若クハ使用人又ハ自己ニ屬スル物ノ加ヘタル損害ニ付キ民事上其責ニ任セシメラルコト有リ但後見人ニ對スル求償權ヲ妨ケス

第三百七十七條 前數條ノ場合ニ於テ加害者ニ責任アリト認ムルトキハ裁判所ハ之ニ對シテ主タル裁判ヲ言渡シ且民事擔當人ノ附隨ノ義務ノ廣狹ヲ定ム但民事擔當人ハ犯罪者ニ對シテ當然求償權ヲ有ス

民事擔當人ハ法律ニ特定シタル場合ニ非サレハ犯罪者ノ言渡サレタル罰金ノ責ニ任セス

第三百七十八條 本節ニ定メタル總テノ場合ニ於テ數人カ同一ノ所爲ニ付キ其責ニ任シ各自ノ過失又ハ懈怠ノ部分ヲ知ル能ハサルトキハ各自全部ニ付キ義務ヲ負擔ス但共謀ノ場合ニ於テハ其義務ハ連帶ナリ

○財産編

七百三十一

第三百七十九條 民事ノ犯罪又ハ准犯罪ヲ刑事ノ犯罪ナ成ストキハ犯罪者ニ付テモ民事罰當人ニ付テモ刑事罰法ヲ以テ定メタル民事訴訟ノ管轄及ヒ時効ニ關スル規則ヲ適用ス

第四節 法律ノ規定

第三百八十條 或ル義務ハ人ノ所爲ニ拘ハラヌ法律ニ依リテ之ヲ負擔セシム即チ左ノ如シ

第一 或ル親族間又ハ或ル姻族間ノ養料ノ義務

第二 後見ノ義務

第三 共有者間ノ義務

第四 相隣者間ノ義務ニシテ地役ヲ成ササルモノ

此等ノ義務ニ特別ナル規則ハ其各事項ニ於テ之ヲ拘ク

第二章 義務ノ効力

總則

第三百八十一條 義務ノ主タル効力ハ下ノ第一節第二節及ヒ第三節ニ定メタル區別ニ從ヒテ其義務ヲ直接ニ履行セシムル爲メ又不履行ノ場合ニ於テハ附隨トシテ損害ヲ賠償セシムル爲メノ既權ヲ依歸者ニ與フルニ在リ

右ノ外義務ノ効力ハ第四節ニ定メタル義務ノ諸種ノ體裁ニ從ヒテ其既決ヲ異ニス

第一節 直接履行ノ既權

第三百八十二條 義務ノ本旨ニ從ヒテ直接ノ履行ヲ債權者ヨリ請求シ且債務者ノ身體ヲ拘束セスシテ履行セシムルコトヲ得ル場合ニ於テハ裁判所ハ其直接履行ヲ命スルコトヲ要ス

引渡ス可キ有體物ニシテ債務者ノ財産中ニ在ルモノニ付テハ裁判所ノ威權ヲ以テ禁押ヘ之ヲ債權者

ニ引渡ス

作爲ノ義務ニ付テハ裁判所ハ債務者ノ費用ヲ以テ第三者ニ之ヲ爲サシムルコトヲ債權者ニ許ス 不作爲ノ義務ニ付テハ其義務ニ背キテ爲シタルモノヲ債務者ノ費用ヲ以テ毀壞セシメ及ヒ將來ノ爲メ適當ノ處分ヲ爲スコトヲ債權者ニ許ス

此等ノ場合ニ於テ損害アリタルトキハ其賠償ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

債務者ニ對スル強制執行ノ方法ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二節 損害賠償ノ既權

第三百八十三條 債務者カ義務履行ヲ拒絶シタル場合ニ於テ債權者強制執行ヲ求メサルカ又ハ義務ノ性質上強制執行ヲ爲スコトヲ得サルトキハ債權者損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得債務者ノ責ニ歸ス可キ履行不能ノ場合ニ於テモ亦同シ

又債權者ハ履行遲延ノモノ爲メ損害賠償ヲ爲サシムルコトヲ得

法律ヲ以テ損害賠償ノ額ヲ定メタル場合ノ外當事者之ヲ定メサリントキハ下ノ區別及ヒ條件ニ從ヒテ裁判所之ヲ定ム

第三百八十四條 損害賠償ハ債務者カ第三百三十六條ニ依リテ遲延ニ付セラレタル後ニ非サレハ之ヲ負擔セス

然レトモ不作爲ノ義務ニ於テハ債務者ハ常ニ當然遲延ニ在リ

犯罪ニ因リテ他人ニ屬スル金錢其他ノ有價物ヲ返還スル責ニ任スル者モ亦同シ

第三百八十五條 損害賠償ハ債權者ノ受ケタル損失ノ償金及ヒ其失ヒタル利益ノ填補ヲ包含ス

然レトモ債務者ノ惡意ナク懈怠ノミニ出タル不履行又ハ遲延ニ付テハ損害賠償ハ當事者カ合意ノ時

○財産編

ニ豫見シ又ハ豫見スルヲ得ヘカリシ損失ト利得ノ喪失トノミヲ包含ス
惡意ノ場合ニ於テハ豫見スルヲ得サリシ損害ト雖モ不履行ヨリ生スル結果ニシテ避ケ可カラサルモ
ノタルトキハ債務者其賠償ヲ負擔ス

第三百八十六條 損害賠償ノ主タル所ノ目的タルトキハ裁判所ハ金錢ニテ其額ヲ定ム
損害賠償ノ請求カ直接履行ノ訴又ハ契約解除ノ訴ノ從タルトキハ裁判所ハ主タル請求ヲ決スルト同
時ニ先ツ數額不定ノ損害賠償ヲ債務者ニ曾渡シ其計算ハ說明ヲ待チテ日後ニ之ヲ爲サシムルコトヲ
得

又裁判所ハ債務者ニ直接履行ヲ命スルト同時ニ其極度ノ期間ヲ定メ其遲延スル日毎ニ又ハ月毎ニ若
干ノ價金ヲ拂フ可キヲ曾渡スコトヲ得此場合ニ於テハ債務者ハ直接履行ヲ爲サスシテ損害賠償ノ即
時ノ計算ヲ請求スルコトヲ得

第三百八十七條 不履行又ハ遲延ニ關シ當事者雙方ニ非理アルトキハ裁判所ハ損害賠償ヲ定ムルニ付
キ之ヲ斟酌ス

第三百八十八條 當事者ハ豫メ過意約款ヲ設ケ不履行又ハ遲延ノミニ付テハ損害賠償ヲ定ムルコトヲ
得

第三百八十九條 裁判所ハ過意約款ノ數額ヲ増スコトヲ得又不履行若クハ遲延カ債務者ノ過失ノミ
ニ出テサルトキ又ハ一分ノ履行アリタルトキニ非サレハ其數額ヲ減スルコトヲ得

第三百九十條 雙務契約ニ於テ不履行ニ付テハ過意約款ヲ要約シタルトキト雖モ其債權者ハ解除ノ權
利ヲ失ハス但明白ニ其權利ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

債權者ハ遲延ノミニ付テハ過意約款ヲ要約シタルトキニ非サレハ解除ト過意トヲ併セテ要求スルコ
トヲ得

トヲ得

第三百九十一條 金錢ヲ目的トスル義務ノ遲延ノ損害賠償ニ付テハ裁判所ハ法律上ノ利息ノ割合ト並
ナル額ニ之ヲ定ムルコトヲ得但法律ノ特別アル場合ハ此限ニ在ラス

當事者カ損害賠償ノ數額ヲ定ムルトキハ合意上ノ利息ノ最上限以下タルコトヲ要ス

第三百九十二條 債權者ハ右ノ損害賠償ヲ請求スル爲メニ何等ノ損失ヲモ證スル資ニ任セス又債務者
ハ其請求ヲ拒ム爲メニ意外ノ事又ハ不可抗力ヲ申立ツルコトヲ得

第三百九十三條 遲延利息ヲ生セシムル爲メ債務者ヲ遲滞ニ付スルニハ裁判所ニ其利息ヲ請求シ又ハ
債務者ノ特別ノ追認ヲ得ルコトヲ要ス但法律カ當然此利息ヲ生セシムル場合及ヒ法律カ催告其他ノ
行爲ニ因リテ此利息ヲ生セシムルヲ許セル場合ハ此限ニ在ラス

第三百九十四條 要求スルヲ得ヘキ元本ノ利息ハ填補タルト遲延タルトハ其一年分ノ延滞セ
ル毎ニ特別ニ合意シ又ハ裁判所ニ請求シ且其時ヨリ後ニ非サレハ此ニ利息ヲ生セシムル爲メ元本ニ
組入ルルコトヲ得

然レトモ建物又ハ土地ノ賃貸、無期又ハ終身ノ年金、返還ヲ受テ可キ果實又ハ產出物ノ如キ
満期ト爲リタル入額ハ一年未滿ノ延滞タルトキト雖モ請求又ハ合意ノ時ヨリ其利息ヲ生スルコト
ヲ得

債務者ノ免責ノ爲メ第三者ノ拂ヒタル元本ノ利息ニ付テモ亦同シ

第三節 擔保

第三百九十五條 物權ト人權トヲ開ハス權利ヲ讓渡シタル者ハ讓渡以前ノ原因又ハ自己ノ資ニ歸ス可
キ原因ニ基キタル追尋又ハ妨礙ニ對シテ其權利ノ完全ナル行使及ヒ自由ナル收益ヲ擔保スル資ニ任

○財産編

ス

擔保ニ二箇ノ目的アリ即チ第三者ノ主張ニ對シ該受人ヲ保護スルコト及ヒ防止スル能ハサリシ妨礙
若クハ追奪ニ對シ債金ヲ拂フコト是ナリ

第三百九十六條 擔保ハ有債ノ行爲ニ付テハ反對ノ要約ナキトキハ當然存立シ無債ノ行爲ニ付テハ之
ヲ諾約シタルニ非サレハ存立セズ

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル要約ノ爲メニモ讓渡人ハ自ラ讓受人ニ妨礙ヲ加フルコト
ヲ得ヌ又第三者カ讓渡人ノ授與シタル權利ニ依リテ讓受人ニ妨礙ヲ加ヘ又ハ追奪ヲ爲シタルトキハ
讓渡人ハ其擔保ノ責ニ任ス但權利ノ授與カ無擔保ニテ爲シタル讓渡ノ以前ニ在ルトキト雖モ亦同シ
右擔保ノ義務ハ讓渡人ノ相續人ニ移轉ス

第三百九十七條 買主又ハ貸借人ノ爲メニスル賣主又ハ貸借人ノ擔保及ヒ共同分割者ノ相互ノ擔保ニ
特別ナル規則ハ其擔保ヲ生スル契約及ヒ行爲ノ各事項ニ於テ之ヲ規定ス

第三百九十八條 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔スル者ハ保證、運帶及ヒ不可分ノ事項ニ於
テ規定シタル如ク他人ノ免責ノ爲メニ爲シタル辨濟ニ付キ擔保ノ求償權ヲ有ス

又債權者ノ一人カ運帶又ハ不可分ノ義務ノ皆濟ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ハ其一人ノ收メタル利
益ノ分與ニ付キ之ニ對シテ特別ナル取極ヲ有セザルトキハ擔保ノ取極ヲ有ス

第三百九十九條 擔保ニ付キ權利ヲ有スル者ハ取極ヲ受ケタルトキ民事訴訟法ニ從ヒテ擔保人ノ訴訟參
加ヲ請求スルコトヲ得

第四百條 擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメスシテ追奪ヲ受ケ又ハ他人ノ債務ヲ辨濟シタル者ハ主タル取極
ヲ以テ擔保人ニ對シ擔保ヲ請求スルコトヲ得但擔保人カ前ノ請求ヲ却下セシムルニ有効ナル方法ヲ

有セシコトヲ證スルトキハ此限ニ在ラス

第四節 義務ノ諸種ノ體様

第四百一條 義務ハ左ノ場合ニ從ヒテ其體様ヲ變ス

第一 義務ノ成立ノ單純、有期又ハ條件附ナルトキ

第二 義務ノ目的ノ單一、選擇又ハ任意ナルトキ

第三 債權者又ハ債務者ノ單數又ハ複數ナルトキ

第四 義務ノ性質又ハ其履行ノ可分又ハ不可分ナルトキ

義務ハ其體様ノ變スルニ從ヒテ其効力モ亦變ス

第一款 成立ノ單純、有期又ハ條件附ナル義務

第四百二條 義務ノ成立カ初ヨリ正確ニシテ且即時ニ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其義務ハ單純アリ

第四百三條 債權者カ或ル時期前又ハ時期ハ確定セザルモ必ス到來ス可キ或ル事件ノ到來前ニ履行ヲ

求ムルコトヲ得ザルトキハ其義務ハ有期ナリ

當事者ノ定メタル期限又ハ法律ニ依リテ許與シタル期限ハ之ヲ權利上ノ期限トス

債務者ノ爲シ得ヘキ時又ハ欲スル時ニ辨濟ス可シトノ語評アルトキハ裁判所ハ債權者ノ請求ニ因リ

事情ニ從ヒ及ヒ當事者ノ意思ヲ推定シテ其履行ノ期間ヲ定ム但當事者カ無期ノ年金控ヲ設定セント

欲シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四百四條 債務者ハ期限ノ利益ヲ拋棄シテ滿期前ニ其義務ヲ履行スルコトヲ得但要約ニ因リ又ハ事

情ニ因リテ當事者雙方ノ利益又ハ債權者ノミノ利益ノ爲メニ期限ヲ定メタル證據アルトキハ此限ニ

在ラス

○財産編

債權者ノミノ利益ノ爲メニ期限ヲ定メタル場合ニ於テハ債權者モ其期限ヲ拋棄スルコトヲ得
當事者ガ錯誤ニ因リテ満期前ニ辨済シタル場合ニ於テハ第三百六十六條ノ規定ニ從フ

第四百五條 債權者ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ請求ニ因リ債權上ノ期限ノ利益ヲ失フ

第一 債權者ガ破産シ又ハ顯然無資カト爲リタルトキ

第二 債權者ガ財産ノ多分ヲ讓渡シ又ハ其多分カ他ノ債權者ノ差押ヲ受ケタルトキ

第三 債權者ガ其供シタル特別ノ擔保ヲ毀滅シ若クハ減少シ又ハ其豫約シタル擔保ヲ供セザルトキ

第四 債權者ガ根補利息ヲ拂ハサルトキ

第四百六條 債權上ノ期限ノ有無ヲ問ハス又執行力ヲ有スル證書アル場合ト雖モ債權者ガ不幸且善意ニシテ債權者ガ猶豫ノ爲メ確實ノ損害ヲ受ケサル可キトキハ裁判所ハ債權者ニ相應ナル恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

又裁判所ハ右ノ條件ニ從ヒテ債務ノ一分ツツノ履行ヲ許スコトヲ得
右ニ反スル要約ハ總テ無効ナリ

第四百七條 恩惠上ノ期限ヲ得タル債務者ハ第四百五條ニ定メタル場合ノ外尙ホ左ノ場合ニ於テモ之ヲ失フ

第一 債務者ガ逃亡シ又ハ住所ヲ去リテ債權者ニ其居所ヲ隱秘スルトキ

第二 債務者ガ一年以上ノ禁錮ノ刑ヲ受ケタルトキ

第三 債務者ガ言渡ヲ受ケタル條件ノ一ヲ行ハサルトキ

第四 債務者ガ法律上ノ相殺ヲ爲シ得ヘキ場合ニ於テ自ら其債權者ノ債權者ト爲リタルトキ

恩惠上ノ期限ハ裁判所ニ於テ更ニ之ヲ延フルコトヲ得ス

第四百八條 當事者又ハ法律カ義務ノ發生又ハ消滅ヲ未來且不确定ノ事件ノ有無ニ懸ラシムルトキハ其義務ハ條件附ナリ此條件ハ第一ノ場合ニ於テハ停止ニシテ第二ノ場合ニ於テハ解除ナリ
物權モ亦主タルト從タルト問ハス之ヲ停止又ハ解除ノ條件ニ懸ラシムルヲ得

第四百九條 停止ノ條件成就スルトキハ合意ノロニ廻リテ其効ヲ生ス

解除ノ條件ノ成就スルトキハ當事者ヲシテ合意前ノ各自ノ地位ニ復セシム

第四百十條 停止又ハ解除ノ條件カ成就セサル間ハ當事者ノ各自ハ條件ヲ帶ヒタル權利ヲ其後ニ第三者ニ授與スルコトヲ得

然レトモ其條件ヲ第三百四十七條以下ニ定メタル方法ニ從ヒテ公示シタルニ非サレハ當事者ノ一方又ハ其承繼人ハ之ヲ以テ他ノ一方ノ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百十一條 解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル者ノ善意ニ出テ且法律ニ從ヒテ爲シタル管理ノ行為ハ第三者ノ利益ノ爲メニ之ヲ保持ス

解除條件ヲ帶ヒタル權利ヲ有スル當事者ノ一方ト第三者トニ對シテ言渡サレタル判決ハ他ノ一方又ハ其承繼人ノ之ヲ援用スルコトヲ得

然レトモ右判決ハ他ノ一方ノ當事者又ハ其承繼人ヲ異議申述ノ爲メニ訴訟ニ召喚セザリントキハ之ヲ以テ其當事者又ハ承繼人ニ對抗スルコトヲ得ス但裁判力管理ノ行為ノミニ關スルトキハ此限ニ在ラス

第四百十二條 條件ノ成就シタルトキハ物又ハ金錢ヲ引渡シ又ハ返還ス可キ當事者ハ其成就セサル間ニ收取シ又ハ満期ト爲レル果實若クハ利息ヲ交付スルコトヲ要ス但當事者間ニ反對ノ意思アル證據

○財産編

カ事情ヨリ生スルトキハ此限ニ在ラス

乙百四十

第四百十三條 合意ノ主タル目的ヲ不能又ハ不法ノ條件ニ變ラシメタルトキハ其合意ハ無効ナリ
當事者ノ一方カ或ハ禁止ノ所ヲ行ヒ又ハ本分ノ責務ヲ盡ササルニ因リテ自己ニ利ヲ得或ハ禁止ノ所ヲ行ハヌ又ハ本分ノ責務ヲ盡スニ因リテ自己ニ害ヲ受ク可キトキハ其條件ハ不法ナリ
不能又ハ不法ノ條件カ合意ノ從タル効力ノミニ關スルトキハ其約款ノミ成立セス

第四百十四條 條件カ偶成ナルトキ又ハ其全部若クハ一分カ要約者ノ隨意ナルトキ諾約者 其成就ヲ妨ケタルニ於テハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス

第四百十五條 條件カ全ク當事者ノ一方ノ隨意ナルトキハ他ノ一方ハ其成否ヲ決ス可キ或ル期限ヲ定メント裁判所ニ請求スルコトヲ得

第四百十六條 有的條件ノ爲メ當事者又ハ裁判所カ或ル期限ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セシテ此期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就セサルモノト看做ス條件ノ成否ノ爲メ期限ヲ定メタルト否トナ間ハス事件ノ到來セサルコトノ確實ト爲リタルトキモ亦同シ
無的條件ノ爲メ或ル期限ヲ定メタル場合ニ於テ事件カ到來セシテ此期限ヲ經過シタルトキハ其條件ハ之ヲ成就シタルモノト看做ス又其期限ヲ定メタルト否トナ間ハス事件ノ到來セサルコトノ確實ト爲リタルトキモ亦同シ

右孰レノ場合ニ於テモ裁判所ハ當事者ノ定メタル期限ヲ延フルコトヲ得ス

第四百十七條 當事者ノ一方又ハ雙方カ條件ノ成就又ハ不成就ノ前ニ死亡シタルトキハ合意ノ効力ハ其相續人ニ對シ効力又ハ受方ニテ存在ス但條件カ其性質ニ因リ又ハ當事者ノ意思ニ因リテ要約者ハ諾約者ノ一身ノミニ附著シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十八條 條件カ如何様ニ成就ス可キカ又如何ナル時ニ成就シ又ハ成就セスト看做サル可キカヲ知ルコトハ當事者ノ明示又ハ默示ノ意思ニ從ヒテ之ヲ決ス其條件ノ一分ノ成就ヨリ生ス可キ効力ニ付テモ亦同シ

第四百十九條 諾約シタル物カ諾約者ノ過失ナクシテ停止條件ノ成就前ニ其價額ノ全部又ハ其過半ノ喪失シタルトキハ合意ハ之ヲ成立セスト看做シ且孰レノ方ヨリ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得ス
之ニ反シ解除條件ヲ以テ諾約シタルトキハ右同一ノ喪失ハ要約者ノ權利確定シテ其負擔ニ歸シ且何等ノ返還ヲモ要求スルコトヲ得ス

前二項ノ場合ニ於テ喪失カ價額ノ半ヲ超エサルトキハ條件ノ成就ハ合意ノ効力ヲ生ス

第四百二十條 一分ノ喪失カ當事者ノ一方ノ責ニ歸ス可キトキハ他ノ一方ハ自己ノ選擇ヲ以テ或ハ損失ノ償金ト共ニ合意ノ履行ヲ請求シ或ハ損害ノ賠償ト共ニ合意ノ解除ヲ請求スルコトヲ得
又全部喪失ノ場合ニ於テハ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第四百二十一條 凡ソ雙務契約ニハ義務ヲ履行シ又ハ履行ノ旨込テ爲セル當事者ノ一方ノ利益ノ爲メ他ノ一方ノ義務不履行ノ場合ニ於テ當ニ解除條件ヲ包含ス

此場合ニ於テ解除ハ當然行ハレス損害ヲ受ケタル一方ヨリ之ヲ請求スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ第四百六條ニ從ヒ他ノ一方ニ恩惠上ノ期限ヲ許與スルコトヲ得

第四百二十二條 當事者ハ前條ノ解除ヲ行ハサル旨ヲ明約スルコトヲ得

又當事者ハ履行ノ遲滞ニ付セラレタル一方ニ對シテ解除ノ當然行ハル可キ旨ヲ明約スルコトヲ得然レトモ遲滞ニ付セラレタル一方ハ他ノ一方ハ他ノ一方カ其解除ヲ申立ツルニ非サンハ自己ヨリ之ヲ申立ツルコトヲ得ス

○財産編

乙百四十一

第四百二十三條

不履行ノ爲メニ損害ヲ受ケタル當事者ハ默示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ裁判上ニテ請求セサル間又ハ明示ノ解除ノ場合ニ於テ未タ之ヲ採用スル旨ヲ述ヘサル間ハ其解除ヲ拋棄スルコトヲ得

乙百四十二

第四百二十四條

裁判上ニテ解除ヲ請求シ又ハ採用スル當事者ハ其受ケタル損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第四百二十五條

當事者ハ其權利カ停止條件ニ繫リ又ハ其取極カ權利上若クハ恩惠上ノ期限ノ爲メニ阻止ヲ受クルト雖モ其間ニ於テ本法及ヒ民事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ自己ノ權利ノ保存處分ヲ爲スコトヲ得

第四百二十六條

買賣契約ニ於テ特ニ慣用スル隨意ノ停止又ハ解除ノ條件ニ付テハ財産取得編第二十條乃至第三十二條ノ規定ニ從フ

第二款

目的ノ單一、選擇又ハ任意ノ義務

第四百二十七條

義務カ一箇若クハ數箇ノ特定物又ハ定量物或ハ物ノ集合、財産ノ包括ヲ目的トスルトキハ其義務ハ單一ナリ

又義務カ同時又ハ順次ニ數箇ノ各別ナル供與ヲ目的トスル場合ト雖モ唯一又ハ受運ノ合意ヲ以テ其供與ヲ負擔シタルトキハ尙ホ其義務ハ之ヲ單一ナリト看做ス

右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ負擔シタル總テノ物ヲ供與スルニ非サレハ其義務ヲ免カルルコトヲ得ス

第四百二十八條

義務カ數箇ノ各別ナル目的ヲ有スルモ債務者カ其中ノ數箇ノ供與ヲ爲スニ因リテ義務ヲ免カルルコトキハ其義務ハ選擇ナリ

供與ス可キ物ノ選擇ハ債務者ニ屬ス但其選擇ヲ債權者ニ許與シタルトキハ此限ニ在ラス然レトモ債務者ハ選擇ニテ負擔シタル數箇ノ物ノ各ノ一分ヲ受クルコトヲ債權者ニ強ヒ又債權者ハ其各ノ一分ヲ與フルコトヲ債務者ニ強フルコトヲ得ス

第四百二十九條

選擇ヲ有スル當事者ノ孰レタル間ハス二箇ノ物ノ一カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ單一ト爲リテ其殘ル所ノ物ニ存ス

二箇ノ物カ共ニ全部滅失シタルトキハ義務ハ消滅ス

二箇ノ物ノ一カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其價ノ半額ヨリ多キ部分ヲ喪失シタルトキハ其物ハ債務者ノ選擇ノ目的タルコトヲ得ス

第四百三十條

債務者カ實物ノ提供ヲ爲シ又ハ債權者カ合式ノ請求ヲ爲シテ一旦有効ニ行ノタル選擇ハ當事者ノ一方ノ承諾アルニ非サレハ之ヲ言消スコトヲ得ス

第四百三十一條

選擇カ債務者ニ屬スル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ其滅失ニ因リテ滅失シタルトキハ義務ハ殘ル所ノ物ニ存シ債務者ハ滅失シタル物ノ價金ヲ與ヘテ其義務ヲ免カルルコトヲ得ス

二箇ノ物カ債務者ノ過失ニ因リテ順次ニ滅失シタルトキハ債務者ハ後ニ滅失シタル物ノ價金ヲ負擔ス

又二箇ノ物カ同時ニ滅失シテ債務者カ其二箇又ハ一箇ニ對シ過失アリタルトキハ選擇ハ債權者ニ移轉シ之ヲシテ一箇ノ物ノ價金ヲ得セシム

第四百三十二條 同上ノ場合ニ於テ一箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル但債務者ハ自己ノ選擇ヲ以テ殘ル所ノ物ヲ與ヘテ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十三條 合意ヲ以テ債權者ニ選擇ヲ與ヘタル場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ殘ル所ノ物ヲ要求シ又ハ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ共ニ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債權者ハ自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得二箇ノ物カ一ハ債務者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキモ亦同シ

第四百三十四條 同上ノ場合ニ於テ二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル

二箇ノ物カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ選擇ハ債務者ニ移轉シ之ヲシテ一箇ノ物ノ價金ヲ得セシム

二箇ノ物カ一ハ債權者ノ過失ニ因リ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ同時ニ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ債權者ニ對シテ價金ヲ要求スルコトヲ得ス

第四百三十五條 前數條ノ規定ニ從ヒテ選擇ノ義務カ一箇ノ物ニ歸着シタルトキ又ハ其權利ヲ有スル當事者選擇ヲ爲シタルトキハ其義務ハ停止條件ノ義務ニ關シ第四百九條ニ規定シタル如ク既往ニ溯リテ効チ生ス

第四百三十六條 債務者カ一定ノ物ヲ主トシテ負擔スルモ他ノ物ヲ與ヘテ義務ヲ免カルノ機能ヲ有

スルトキハ其義務ハ任意ナリ

主トシテ負擔スル物ヲ與フルノ義務ハ任意ニテ負擔スル物ヲ辨濟スルニ於テハ解除ス可シトノ條件ニ際ルモノト看做ス

主トシテ負擔スル物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カル

主トシテ負擔スル物カ債務者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ其價金ノ償還及ヒ損害ノ賠償ニ任ス然レトモ債務者ハ任意ニテ負擔スル物ヲ與ヘテ義務ヲ免カルノ機能ヲ有ス

二箇ノ物ノ一カ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ其免責ヲ申立テ又ハ殘ル所ノ物ヲ與エテ滅失シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ者カ共ニ債權者ノ過失ニ因リテ滅失シタルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ且自己ノ選擇ヲ以テ一箇ノ物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

二箇ノ物カ一ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リ一ハ債權者ノ過失ニ因リテ同時ニ滅失シ其過失カ任意ニテ負擔シタル物ノ上ニ存スルトキ又ハ其過失カ孰レノ物ノ上ニ存シタルカヲ知り得サルトキハ債務者ハ義務ヲ免カレ且任意ニテ負擔シタル物ノ價金ヲ要求スルコトヲ得

第三款 債權者及ヒ債務者ノ單數又ハ複數ナル義務

第四百三十七條 債權者及ヒ債務者カ各一人ナルトキハ其義務ハ單數ナリ

債權者又ハ債務者カ數人ナルトキハ其義務ハ複數ナリ

第四百三十八條 連合ノ義務ニ於テハ次款ニ定ムル如ク各債權者又ハ各債務者ハ自己ノ部分外ニ履行ヲ求ムルコトヲ得ス又既述ヲ受クルコト無シ

○財産編

連帯ノ義務ニ於テハ各債權者又ハ各債務者ノ自己ノ名ヲ以テ自己ノ部分ノ爲メニスルト他人ノ名ヲ以テ他人ノ部分ノ爲メニスルトトテ間ハス全部ニ付キ履行ヲ求ムルコトヲ得又追訴ヲ受クルコト有リ但擔保所權ニ因レル相互ノ求償權ヲ妨ケス
全部ノ義務ハ債權擔保編第七十三條ニ於テ之ヲ規定ス

第四款

性質又ハ履行ノ可分又ハ不可分ナル義務

第四百三十九條

單數ノ義務ハ債權者ト債務者トノ間ニ在テハ不可分タル如ク之ヲ履行スルコトヲ要ス但第四百六條ヲ以テ一分ノ辨濟ヲ許スコトニ付キ裁判所ニ與ヘタル機能ヲ妨ケス

第四百四十條

連合ノ義務ニ於テハ債權者ノ各自カ履行ヲ求メ又ハ債務者ノ各自カ所追テ受ク可キ實地ノ部分ハ合意又ハ事情ニ從ヒテ之ヲ定ム

前項ノ規定ニ從フテ得サルトキハ各自ノ部分ハ平分ニテ之ヲ計算ス但債權ノ利益又ハ債務ノ負擔

第四百四十一條

複數ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ債權者ノ間ニモ債務者ノ間ニモ不可分ナリ

第一 負擔スル目的ノ性質ニ因リテ一分ノ履行カ形體上及ヒ智能上不能ナルトキ

第二 義務カ性質ニ因リテ可分ナルモ當事者ノ明示ノ意思又ハ其期望シタル目途其他事情ヨリ顯

ハルル意思カ一分ノ履行ヲ許ササルトキ

第四百四十二條

義務ハ其性質ニ因リテ可分ナルモ左ノ場合ニ於テハ尙ホ當事者ノ意思ニ因リ受方ノミニテ不可分ナリ

第一 債務者ノ一人ノ處分權内ニ在ル特定物ノ引渡ニ關スルトキ

第二 債務者ノ一人カ債務ノ設定權原ニ因リテ獨リ履行ニ任シタルトキ

右第一ノ場合ニ於テ數人ノ債權者アルトキハ其一人ノ債務者ハ此數債權者ニ對シテ同時ニ義務ヲ負カルル爲メ其數債權者ノ訴訟參加ヲ要求スルコトヲ得

第四百四十三條

不可分ハ債權擔保編ニ規定スル如ク性質ニ因リテ可分ナル債務ノ履行ノ擔保ノ爲メ連帶ニ併合シ又ハ併合セスシテ債務者ノ負擔又ハ債權者ノ利益ニ於テ之ヲ要約スルコトヲ得

第四百四十四條

債權者ノ一人ハ不可分債務ノ履行ヲ受ケタルトキハ他ノ債權者ノ權利ノ限度ニ關シテ之ノ其利益ヲ分與スルコトヲ要ス

又債務者ノ一人カ義務ノ履行ヲ爲シタルトキハ義務ノ原因ニ從ヒ又ハ從來相互ノ關係ニ從ヒテ他ノ

債務者ノ分擔ス可キ部分ニ付キ之ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第四百四十五條

債權者ノ一人ハ要約シタル如ク辨濟ヲ受ケルニ非レハ他ノ債權者ノ權利ヲ減少シ又ハ消滅セシムルコトヲ得ス

債權者ノ一人ハ總債務者若クハ其一人ノ免責ヲ主旨トスル更改、免除其他ノ合意ヲ爲シタルモ又ハ

債務者ノ其一人ノ債權者ニ對シテ適法ナル相殺ノ原因ヲ有スルモ他ノ債權者ハ尙ホ債務ノ全部ノ履

行ヲ請求スルコトヲ得然レトモ他ノ債權者ハ此一人ノ債權者カ其權利ヲ失ハサリシナラハ第五百一

條第四項、第五百十五條第三項、第五百二十一條第三項第四項ノ規定ニ從ヒ其一人ノ債權者ニ分與ス

可キ利益ニ付キ其所追テ受ケタル債務者ニ對シテ計算ヲ爲ス

第四百四十六條

債權者ノ一人ノ爲シタル付運滯其他ノ保存ノ行爲ハ他ノ債權者ヲ利ス

又債權者ノ一人ノ利益ノ爲メニ時効ヲ停止スル適法ノ原因アルトキハ他ノ債權者ノ利益ノ爲メ之ヲ

停止ス

第四百四十七條

債務者ノ一人ハ他ノ債務者ノ負擔ヲ加重スルコトヲ得ス又債務者ノ一人ニ對スル付

○財産編

遲滞ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗スルコトヲ得ス

然レトモ債務者ノ一人ニ對抗スルコトヲ得ヘキ時効ノ中断又ハ停止ノ原因ハ之ヲ以テ他ノ債務者ニ對抗スルコトヲ得但債權者所追テ受ケタル債務者ニ對シ時効ニ因リ義務ヲ免カレタル債務者ノ債務ノ部分ニ付キ計算ヲ爲ス

第四百四十八條 債務者ノ一人ノ過失ニ因リテ不可分ノ義務ヲ履行スルコトヲ得サルトキハ損害賠償又ハ過怠約款ハ過失者ノミ之ヲ負擔ス可分義務ノ全部ノ履行ヲ保スル爲メ過怠約款ヲ設ケタルトキト雖モ亦同シ

第四百四十九條 第四百四十一條ノ場合ニ於テ不可分義務ノ履行ノ爲メ既テ受ケタル債務者ハ他ノ債務者ヲ訴訟ニ参加セシメ共ニ裁判ヲ受クル爲メ及ヒ之ニ對スル自己ノ求償ニ付キ裁判ヲ受クル爲メ期間ヲ請求スルコトヲ得

第三章 義務ノ消滅

第四百五十條 義務ハ左ノ諸件ニ因リテ消滅ス

- 第一 消滅
- 第二 更改
- 第三 合意上ノ免除
- 第四 相殺
- 第五 混同
- 第六 履行ノ不能
- 第七 銷除

第八 廢罷

第九 解除

此他義務ハ免責時効ノ條件ノ具備スルトキハ之ヲ消滅シタルモノト看做ス

第一節 消滅

第四百五十一條 消滅ハ義務ノ本旨ニ從フノ履行ナリ

消滅ハ下ノ第一款及ヒ第四款ニ記載シタル區別ニ從ヒテ單純ナル有リ代位ナル有リ數箇ノ債務アリテ只一箇ノ消滅ヲ爲ストキハ第二款ニ從ヒテ債務ノ一箇又ハ數箇ニ付キ消滅ノ充當ヲ爲ス

債權者カ消滅ヲ受クルコト能ハス又ハ欲セサルトキハ債務者ハ第三款ニ記載シタル如ク提供及ヒ供託ノ方法ヲ以テ自ラ義務ヲ免カルルコトヲ得

債務者カ債權者ニ對シテ自己ノ財産ヲ委棄スルコトヲ得ル場合ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一款 單純ノ消滅

第四百五十二條 消滅ハ債務者又ハ共同債務者ノ一人ヨリ有効ニ之ヲ爲ス外尙キ保證人又ハ抵當財産ヲ所持スル第三者ノ如キ附隨ノ義務者ヨリ有効ニ之ヲ爲スコトヲ得

又消滅ハ利害ノ關係ナキ第三者ヨリ或ハ債務者ノ名ヲ以テ或ハ自己ノ名ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得
第四百五十三條 利害ノ關係ヲ有スルト否トテ問ハス第三者ノ爲シタル消滅ノ有効ナル爲メニハ債權者ノ承諾ヲ必要トセス但作爲ノ義務ニ關シ債權者カ特ニ債務者ノ一身ニ著眼シタルトキハ此限ニ在ラス

又債務者ノ承諾モ之ヲ必要トセス但利害ノ關係ヲ有セサル第三者ノ消滅ニ付テハ債務者又ハ債權者

○財産編

ノ承諾アルコトヲ要ス

乙百五十

第四百五十四條 辨済シタル第三者ハ法律又ハ合意ニ依リ債權者ノ權利ニ代位シタル場合ノ外其權ニ基キ下ノ區別ニ從ヒ債務者ニ對シ求償權ヲ有ス

第三者カ委任ヲ受ケタルトキハ其權限ノ範圍内ニ於テ辨済シタル金額ノ爲メ求償權ヲ有ス
事務管理ニテ辨済ヲ爲シタルトキハ辨済ノ日ニ於テ債務者ニ得セシメタル利益ノ限度ニ從ヒ求償權ヲ有ス

債務者ノ意ニ反シテ辨済ヲ爲シタルトキハ求償ノ日ニ於テ債務者ノ爲メ存在スル有益ノ限度ニ非サレハ求償權ヲ有セス

第四百五十五條 義務カ定量物ノ所有權ノ移轉ヲ目的トスルトキハ其物ノ所有者ニシテ且之ヲ讓渡スルノ能力アル者ニ非サレハ引渡其他ノ方法ヲ以テ辨済ヲ爲スコトヲ得ス

他人ノ物ヲ引渡シタルトキハ當事者各自ニ其辨済ノ無効ヲ主張スルコトヲ得
讓渡スルノ能力ナキ所有者カ物ヲ引渡シタルトキハ其所有者ノミ辨済ノ無効ヲ請求スルコトヲ得
右孰レノ場合ニ於テモ債務者ハ更ニ有効ナル辨済ヲ爲スニ非サンハ引渡シタル物ヲ取戻スコトヲ得ス

債權者カ辨済トシテ受ケタル動産物ヲ善意ニテ消費シ又ハ讓渡シタルトキハ債務者ハ其取戻ヲ爲スコトヲ得ス

又債權者ハ他人ノ物ヲ以テセル辨済ヲ認諾スルコトヲ得但眞ノ所有者ヨリ回復ヲ訴ヘタルトキハ債務者ニ對スル擔保ノ取替ヲ妨ケス

第四百五十六條 辨済ハ債權者又ハ其代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス辨済領受ノ分限ヲ有セサル者ニ爲シ

タル辨済ト雖モ債權者カ之ヲ認諾シ又ハ之ニ因リテ利得シタルトキハ有効ナリ

第四百五十七條 眞ノ債權者ニ非サルモ債權ヲ占有セル者ニ爲シタル辨済ハ債務者ノ善意ニ出テタルトキハ有効ナリ

表見ナル相續人其他ノ包括承繼人、記名債權ノ表見ナル讓受人及ヒ無記名證券ノ占有者ハ之ヲ債權ノ占有者ト看做ス

第四百五十八條 領受ノ能力ナキ債權者又ハ債權占有者ニ爲シタル辨済ハ其債權者又ハ債權占有者ノ請求ニ因リテ之ヲ取消スコトヲ得但其利得シタル部分ニ付テハ此限ニ在ラス

第四百五十九條 民事訴訟法ニ從ヒ正當ニ爲シタル拂渡差押ノ後債務者カ自己ノ債權者ニ辨済ヲ爲シタルトキハ差押債權者ハ其受ケタル損害ノ限度ニ於テ更ニ辨済ス可キヲ債務者ニ強要スルコトヲ得但辨済ヲ受ケタル債權者ニ對スル債務者ノ求償權ヲ妨ケス

第四百六十條 債權者ハ已レニ對シテ負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ辨済トシテ受取ルノ責ニ任セス他ノ物ノ價格ハ高キトキト雖モ亦同シ

債務者ハ其負擔シタル物ヨリ他ノ物ヲ與フル責ニ任セス請求ヲ受ケタル物ノ價格カ低キトキト雖モ亦同シ

代替物ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ最良品ヲ與ヘ債權者ハ最惡品ヲ受取ル責ニ任セス

第四百六十一條 雙方一致ニテ物ヲ金錢ニ、金錢ヲ物ニ又ハ或ル物ヲ他ノ物ニ代ヘテ辨済シ若クハ辨済スルコトヲ諾約シタルトキハ原義務ヲ更改シタリト看做シ其行爲ハ場合ニ因テ實質又ハ交換ノ規則ニ從フ

第四百六十二條 特定物ノ債務者ハ引渡ヲ爲ス可キ時ノ現狀ニテ其物ヲ引渡スニ因リテ義務ヲ免カル

○財産編

乙百五十一

但條件附ノ義務ノ危険ニ關スル第四百十九條ノ規定ヲ妨ケス

債務者ノ費用ニテ物ヲ保存シ若クハ改良シ又ハ其過失若クハ懈怠ニ因リテ之ヲ毀損シタルトキハ價金ハ上ノ第一章第三節第三節ニ從ヒテ當事者互ニ之ヲ負擔ス

第四百六十三條 金錢ヲ目的トセル債務ニ於テハ債務者ハ其選擇ヲ以テ金若クハ銀ノ國貨又ハ強制通用ノ紙幣ヲ與ヘテ義務ヲ免カル

債務者ハ法律ニ依リ貨幣ノ名價又ハ其純分ノ割合ニ變更ヲ生スルモ諾約シタル數額ヨリ多ク又ハ少ナク負擔セス

本條ノ規則ニ違背スル合意ハ無効ナリ但第四百六十五條第二項ノ規定ヲ妨ケス

第四百六十四條 右ニ反シ辨濟期ニ於テ諸種ノ貨幣ノ爲替相場ヨリ生ス可キ相互ノ高低ノ差ハ債務者ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テスル平均價格ノ辨濟ニ因リテ當事者ノ間ニ之ヲ填補スル合意ヲ爲スコトヲ得

第四百六十五條 金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ指定シタルトキハ債務者ハ獨リ爲替相場ノ損益ヲ受ケ法律上ノ他ノ貨幣ヲ以テ義務ヲ免カルコトヲ得

金貨又ハ銀貨ヲ以テ負擔ノ金額ヲ辨濟ス可キコトノ要約アリタルトキモ亦同シ

外國ノ貨幣ヲ以テ辨濟ヲ爲スコトヲ合意シタルトキハ債務者ハ右ノ規定ニ從ヒ自己ノ選擇スル法律上ノ貨幣ヲ以テ其外國ノ貨幣ノ價額ヲ辨濟シテ義務ヲ免カルコトヲ得

第四百六十六條 銅貨及ヒ補助銀貨ハ特別法ニ定メタル數額ヨリ多ク辨濟トシテ之ヲ與フルコトヲ得ス但反對ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第四百六十七條 金錢ノ貸借ニ特別ナル規則ハ財産取得編第百八十五條ニ之ヲ定ム

第四百六十八條 辨濟ノ場所ノ定ナキトキハ辨濟ハ債務者ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス但後ニ掲クル或ル契約ノ場合及ヒ第三三十三條ニ掲ケタル規定ハ此限ニ在ラス

自己ノ住所ニ於テ辨濟ノ有ル可キ當事者カ詐欺ナクシテ轉住シタルトキハ辨濟ハ其新住所ニ於テ之ヲ爲ス但其當事者ハ爲替相場ノ差額及ヒ人ノ往復若クハ物ノ運送ノ補足費用ヲ一方ノ當事者ニ拂フコトヲ要ス

辨濟ノ其他ノ費用ハ債務者之ヲ負擔ス

第四百六十九條 辨濟ノ期日カ一般ノ休日ナルトキハ辨濟ハ其翌日ニ非サレハ之ヲ要求スルコトヲ得ス

第二款 辨濟ノ充當

第四百七十條 一人ノ債權者ニ對シテ一様ノ性質ナル數個ノ債務ヲ有スル債務者カ總債務ヲ全消スルコトヲ得サル辨濟ヲ爲ストキハ債權者ハ辨濟ノ時ニ於テ其孰レノ債務ニ充當セントスル意ヲ述ヘ且此充當ヲ受取證書ニ記入セシムルコトヲ得

然レトモ債權者ハ債權者ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ債權者ノ利益ノ爲メ定メタル期限ノ至ラサル債務ニ充當ヲ爲シ又費用及ヒ利息ニ兆タテ元本ニ充當ヲ爲シ又一分ツツ數箇ノ債務ニ充當ヲ爲スコトヲ得ス

第四百七十一條 債務者カ有効ナル充當ヲ爲サルトキハ債權者ハ受取證書ニ於テ自由ニ辨濟ノ充當ヲ爲スコトヲ得但財産取得編第百二十九條ノ合社契約ニ關スル規定ヲ妨ケス

債務者カ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ受取證書ヲ受取リタルトキハ債務者ハ自己ノ錯誤又ハ債權者ノ欺瞞アリタルニ非サレハ充當ヲ非難スルコトヲ得ス

○財産編

第四百七十二條

債務者及ヒ債權者カ有効ニ充當ヲ爲ササルトキハ當然左ノ如ク充當ス

第一期限ノ至リタル債務ヲ先ニシ期限ノ至ラサル債務ヲ後ニス

第二期費用及ヒ利息ヲ先ニシ元本ヲ後ニス

第三期總債務カ期限ニ至リ又ハ至ラサルトキハ債務者ノ爲メ最モ辨濟ノ利益アル債務ヲ先ニス

第四期債者務カ辨濟ノ先後ニ利益ヲ有セサルトキハ期限ノ最モ先ニ至リタル又ハ至ル可キ債務ヲ先ニス

第五

總債務カ何レノ點ニ於テモ相同シキトキハ充當ハ各債務ノ額ニ應ジテ之ヲ爲ス

第四百七十三條 辨濟充當ノ規定ハ交互計算上ノ振込ニ之ヲ適用セス此振込ハ振込人ノ貸方ニ之ヲ記入ス

入ス

第三款 辨濟ノ提供及ヒ供託

第四百七十四條 債權者カ辨濟ヲ受クルヲ欲セス又ハ之ヲ受クル能ハサルトキハ債務者ハ左ノ區別ニ從ヒ提供及ヒ供託ヲ爲シテ義務ヲ免カルルコトヲ得

第一 債務カ金錢ヲ目的トスルトキハ提供ハ貨幣ヲ提示シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二 債務カ特定物ヲ目的トシ其存在スル場所ニ於テ引渡サル可キトキハ債務者ハ其物ノ引取ノ爲メ債權者ニ催告ヲ爲ス

第三 特定物ヲ債權者ノ住所其他ノ場所ニ於テ引渡ス可クシテ其運送カ多費、困難又ハ危険ナルトキハ債務者ハ合意ニ從ヒテ引渡ヲ即時ニ實行スル準備ヲ爲シタルコトヲ提供中ニ述フ定置物ニ關シテモ亦同シ

第四 債權者ノ立會又ハ合同ヲ要スル作爲ノ義務ニ關シテハ債務者カ義務履行ノ準備ヲ爲シタル

コトヲ述フルヲ以テ足ル

第四百七十五條 提供ハ前條ノ外上ニ定メタル辨濟ニ必要ナル條件ヲ具備シ且特別法ニ定ムル方式ニ從フニ非サレハ有効ナラス

第四百七十六條 時期ヲ失セス且有効ニ爲シタル提供ハ法律ヲ以テ規定シ若クハ合意ヲ以テ要約シタル失權、解除及ヒ責罰ヲ豫防ス

此提供ハ付運留ヲ防止シ又既ニ付運留ノ存セルトキハ將來ニ向ヒテ其効力ヲ止メ且運送利息ヲ停ム

第四百七十七條 債權者カ提供ヲ受諾セザルトキハ債務者ハ供託ノ日マテニ債務ニ生シタル原利息ト共ニ辨濟ノ金額ヲ供託所ニ供託スルコトヲ得

特定物又ハ定置物ニ付テハ債務者ハ其物ヲ供託ス可キ場所ヲ指定スルコト及ヒ其保管人ヲ選任スルコトヲ裁判所ニ請求ス

供託ノ方式及ヒ條件ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第四百七十八條 有効ニ爲シタル供託ハ債務者ニ義務ヲ免カレシメ且債務者カ意外ノ事ニ任シタルトキト雖モ其物ノ危険ヲ債權者ニ歸セシム

然レトモ債權者カ供託ヲ受諾セス又ハ其供託カ債務者ノ請求ニテ既判力ヲ有スル判決ニ因リテ有効ト宣告セラレサル間ハ債務者ハ其供託物ヲ引取ルコトヲ得但此場合ニ於テハ義務ハ舊ニ依リ存在ス

共有ノ受諾又ハ判決アリタル後ト雖モ債務者ハ債權者ノ承諾ヲ以テ供託物ヲ引取ルコトヲ得然レトモ同債務者及ヒ保人ノ義務解脫ヲモ質權及ヒ抵當權ノ消滅ヲモ供託物ニ付キ債權者ノ債權者カ爲シタル拂渡差押ヲモ妨礙スルコトヲ得ス

第四款 代位ノ辨濟

○財産編

第四百七十九條

乙百五十五

第四百七十九條 代位ヲ以テ第三者ノ爲シタル轉濟ハ債權者ニ對シテ債務者ニ義務ヲ免カレンシメ且其債權及ヒ之ニ附著セル擔保ト効力トナシ其第三者ニ移轉ス但場合ニ從ヒテ第三者ノ有スル事務管理又ハ代理ノ既權ヲ妨ケス

代位ハ下ノ區別ニ從ヒテ債權者若クハ債務者ヨリ之ヲ許與シ又ハ法律ヲ以テ之ヲ付與ス

第四百八十條 債權者ノ許與シタル代位ハ受取證書ニ之ヲ明記スルニ非サレハ有效ナラス但第三者カ轉濟ニ付キ利害ノ關係ヲ有スルヤ否ヤテ區別スルコトヲ要セス又自己ノ名ニテ轉濟スルカ債務者ノ名ニテ轉濟スルカテ區別スルコトヲ要セス

第四百八十一條 債務者ハ其債務ノ轉濟ニ必要ナル金額又ハ有價物ヲ已レニ貸與シタル第三者ナシテ債權者ノ承諾ナク其權利ニ代位セシムルコトヲ得

右ノ場合ニ於テ借用證書ニハ其金額又ハ有價物ノ用方ヲ記載シ受取證書ニハ其出所ヲ記載ス

公正證書又ハ私署證書ニ非サレハ他ノ第三者ニ對シテ右ノ行為ノ證據トスルコトヲ許サス

然レトモ借用ト轉濟トノ間ニ不相當ナル長キ時間ノ經過シタルトキハ裁判所ハ代位ヲ不成立ト宣告スルコトヲ得

第四百八十二條 代位ハ左ノ者ノ利益ノ爲メ當然成立ス

第一 他人ト共ニ又ハ他人ノ爲メニ義務ヲ負擔シタルニ因リ其義務ヲ轉濟スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者及ヒ先取特權又ハ抵當權ヲ負擔スル財産ノ第三所持者トシテ他人ノ義務ヲ轉濟スルニ付キ利害ノ關係ヲ有スル者

第二 或ハ抵當既權ヲ豫防スル爲メ或ハ不動産ノ差押又ハ契約解除ノ請求ヲ止ムル爲メ他ノ債權者ニ轉濟シタル債權者

第三 自己ノ財産ヲ以テ相續ノ債務ノ全部又ハ一分ヲ轉濟シタル善意ナル喪失ノ相續人

第四百八十三條 前三條ニ依リテ代位シタル者ハ債權ノ效力又ハ擔保トシテ債權者ニ屬セシ給テノ對人及ヒ物上ノ權利及ヒ既權ヲ行フコトヲ得但左ニ掲クル場合ヲ例外トス

第一 當東者代位者ニ移轉セシ權利及ヒ既權ヲ制限シタルトキハ其制限ニ從フ

第二 保護人ハ債務ヲ轉濟シ債權擔保編第三十六條ノ規定ニ從ヒタルトキニ非サレハ第三所持者ニ對シテ代位セス

第三 第三所持者カ債權ヲ轉濟シタルトキハ保護人ニ對シテ代位セス

第四 一箇ノ債務ノ抵當ト爲リタル數箇ノ不動産カ各別ニ數箇ノ第三所持者ノ手ニ存スル場合ニ於テ其一人カ債務ヲ轉濟シタルトキハ各不動産ノ價額ノ割合ニ應スルニ非サレハ他ノ第三所持者ニ對シテ代位ノ權ヲ行フコトヲ得ス

第五 互ニ擔保人タル共同債務者ノ一人カ債務ヲ轉濟シタルトキハ轉濟者ハ他ノ債務者カ分擔ス可キ債務ノ限度ニ應スルニ非サレハ其各自ニ對シテ代位セス

第四百八十四條 代位者ハ自己ノ支拂ヒタル金額ヲ超エテ債權者ノ既權ヲ行フコトヲ得ス

第四百八十五條 代位ハ原債權者ヲ害セサルコトヲ要ス
數箇ノ債權ヲ有スル者ハ其一箇ニ係ル代位轉濟カ他ノ債權ノ擔保ヲ減スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得

第四百八十六條 代位轉濟カ債務ノ一分ノミニ係ルトキハ代位者ハ自己ノ轉濟ノ割合ニ應シテ原債權者ト共ニ其權利ヲ行フ
然レトモ原債權者ハ全部ノ轉濟ヲ受ケサルトキハ獨リ契約ノ解除ヲ行フ但代位者ニ賠償スルコトヲ要ス

○財産編

第四百八十七條 代位轉濟ニ因リテ全部ノ轉濟ヲ受ケタル債權者ハ債權ノ證書及ヒ質物ヲ代位者ニ交付スルコトヲ要ス

債權者カ一分ノ轉濟ノミヲ受ケタルトキハ要用ニ應シテ代位者ニ證書ヲ示シ且質物ノ保存ニ注意スルヲ之ニ許スコトヲ要ス

第四百八十八條 轉濟ノ有效充當、提供及ヒ供託ニ關スル前三款ノ規定ハ代位轉濟ニ之ヲ適用ス

第二節 更改

第四百八十九條 更改即チ舊義務ノ新義務ニ變更スルコトハ左ノ場合ニ於テ成ル

第一 當事者カ義務ノ新目的ヲ以テ舊目的ニ代フル合意ヲ爲ストキ

第二 當事者カ義務ノ目的ヲ變更セシテ其原因ヲ變スル合意ヲ爲ストキ

第三 新債務者カ舊債務者ニ替ハルトキ

第四 新債權者カ舊債權者ニ替ハルトキ

第四百九十條 當事者カ期限、條件又ハ擔保ノ加減ニ因リ又ハ履行ノ場所若クハ負擔物ノ數量品質ノ變更ニ因リテ單ニ義務ノ體様ヲ變スルトキハ之ヲ更改ト爲サス

商證券ヲ以テスル債務ノ轉濟ハ其證券ニ債務ノ原因ヲ指示シタルトキハ更改ヲ成サス從來ノ債務ノ追認ハ其證券ニ執行文アルトキト雖モ亦同シ

第四百九十一條 債權者ハ其債權及ヒ擔保ヲ有價ニテ處分スル能力ヲ有スルニ非サレハ更改ヲ承諾スルコトヲ得ス

右規定ハ合意上法律上又ハ裁判上ノ管理人及ヒ代理人ニ之ヲ適用ス

第四百九十二條 更改ノ意思ハ債權者ニ在テハ之ヲ推定セシ明カニ證書又ハ事情ヨリ見ハルルコトヲ

要ス

然レトモ同一ノ當事者間ニ於テ義務ノ更改アリタルカ二箇ノ義務ノ共ニ存スルカノ疑アルトキハ第三百六十條ニ依リテ債務者ノ利益ノ爲メニ更改ノ意義ニ解釋ス

第四百九十三條 舊義務カ停止又ハ解除ノ條件附ナリシトキハ更改ハ同一ノ條件ニ從フモノトノ推定ヲ受ク

又新義務カ條件附ナルトキハ更改ハ停止條件ノ成就シタルトキ又ハ解除條件ノ成就セサルトキニ非サレハ成ラス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ單純ナル更改ヲ爲サント欲シタル證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十四條 舊義務カ初ヨリ法律上成立セシ又ハ法律ノ定ムル原因ニ由リテ消滅シ若クハ取消サレタルトキハ更改ハ無効ニシテ新義務ハ成立セシ

又新義務カ其成立及ヒ有効ニ要スル法律上ノ條件ヲ具備セサルトキハ舊義務ハ存在ス

右孰レノ場合ニ於テモ當事者カ自然義務ヲ法定義務ニ又ハ法定義務ヲ自然義務ニ變セント欲シタル證據アルトキハ此限ニ在ラス

第四百九十五條 舊義務ヲ更改スル爲メ異議ナク又ハ異議ヲ留メスシテ有效ニ新義務ヲ承諾シタル債權者ハ其了知セル舊義務ノ無効ノ理由ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス

第四百九十六條 債務者ノ交替ニ因ル更改ハ或ハ舊債務者ヨリ新債務者ニ爲セル囑託ニ因リ或ハ舊債

務者ノ承諾ナクシテ新債務者ノ隨意ノ干渉ニ因リテ行ハル囑託ニハ完全ノモノ有リ不完全ノモノ有リ

第三者ノ隨意ノ干渉ハ下ニ記載スル如ク除約又ハ補約ヲ成ス

第四百九十七條 債權者カ明カニ第一ノ債務者ヲ免スルノ意思ヲ表シタルトキニ非サレハ囑託ハ完全ナラスシテ更改ハ行ハレズ此意思ノ無キトキハ囑託ハ不完全ニシテ債權者ハ第一第二ノ債務者ヲ連帶ニテ既追スルコトヲ得

第三者ノ隨意干渉ノ場合ニ於テ債權者カ舊債務者ヲ免シタルトキハ除約ニ因ル更改行ハル之ニ反セル場合ニ於テハ單一ノ補約成リテ債權者ハ債務ノ全部ニ付キ第二ノ債務者ヲ得然レトモ此債務者ハ連帶ノ債務ニ任セス

第四百九十八條 完全囑託及ヒ除約ノ場合ニ於テ新債務者カ債務ヲ轉濟スルコトヲ得サルトキハ債權者ハ囑託又ハ除約ノ當時ニ於テ新債務者ノ既ニ無資カタリシコトヲ知ラサルニ非サレハ舊債務者ニ對シテ擔保ノ求償權ヲ有セス但特別ノ合意ヲ以テ此擔保ヲ伸縮スルコトヲ得

第四百九十九條 債權者ノ交替ニ因ル更改ハ債務者ト新舊債權者トノ承諾アルニ非サレハ成ラズ

第五百條 債權者カ第五百三條ニ定ムル如ク其債權ノ物上擔保ヲ留保シテ或ハ他人ヲ思ム爲メ或ハ他人ニ對スル債務ヲ免カルル爲メ其人ニ囑託シテ自己ノ債務者ヨリ轉濟ヲ受ケシムルトキハ其受囑託人ハ債權ノ既追ニ關スル第三百四十七條ノ規定ニ從フニ非サレハ第三者ニ對シテ其債權ヲ主張スルコトヲ得ス

第五百一條 債權者ト連帶債務者ノ一人又ハ不可分債務者ノ一人トノ間ニ爲シタル更改ハ他ノ債務者及ヒ保證人ナシテ其義務ヲ免カレシム

然レトモ債權者カ右共同債務者及ヒ保證人ノ新義務ニ同意スルコトヲ更改ノ條件ト爲シタル場合ニ於テ共同債務者及ヒ保證人ノ之ヲ拒ムトキハ更改ハ成立セス

連帶債權者ノ一人ト爲シタル更改ハ其債務者ノ部分ニ付テノミ債務者ヲシテ義務ヲ免カレシム

性質ニ因ル不可分債務ノ債權者ノ一人ト更改ヲ爲シタルトキハ他ノ債權者ハ全部ニ付キ既追ノ權利ヲ有ス但第四百四十五條ニ從ヒ計算ヲ爲スコトヲ要ス

第五百二條 保證人ト爲シタル更改ハ反對ノ意思アル證據ナキトキハ保證ニ付テノミ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ケ主タル債務者ニモ他ノ保證人ニモ義務ヲ免カレシメス

第五百三條 舊債權ノ物上擔保ハ新債權ニ移ラス但債權者之ヲ留保スルトキハ此限ニ在ラス

此留保ハ共同債務者、保證人又ハ第三所持者ノ手ニ存スル擔保負擔ノ財產ニモ之ヲ行フコトヲ得此留保ニ付テハ更改ノ相手方ノ承諾ノミヲ必要トス

右ノ場合ニ於テ財產ハ舊債務ノ限度ヲ超エテ擔保ヲ負擔セス

第三節 合意上ノ免除

第五百四條 債務ノ全部又ハ一分ニ付テノ合意上ノ免除ハ有償又ハ無償ニテ之ヲ爲スコトヲ得

有償ノ免除ハ事情ニ從ヒテ代物轉濟、更改和解又ハ解除ヲ成ス又無償ノ免除ハ贈與ヲ成ス然レトモ公式ノ特別規則ニ從フコトヲ要セス

協賛契約ヲ以テ破産シタル債務者ニ許與スル一分ノ免除ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第五百五條 債務ノ免除ハ明示又ハ默示ヨリ成リ推定ヨリ成ラス但法律ニ特定シタル場合ハ此限ニ在ラス

第五百六條 主タル債務者ニ爲シタル債務ノ免除ハ保證人ナシテ其義務ヲ免カレシム

連帶債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ハ他ノ債務者ヲシテ其債務ヲ免カレシム但債權者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタル場合ハ此限ニ在ラス此場合ニ於テモ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分

○財産編

ヲ免除スルコトヲ要ス

不可分債務者ノ一人ニ爲シタル債務ノ免除ニ付テモ亦同シ然レトモ性質ニ因ル不可分債務ノ債務者カ他ノ債務者ニ對シテ其權利ヲ留保シタルトキハ債權者ハ先ツ全部ニ付キ其權利ヲ行ヒ免除ヲ受ケタル債務者ノ部分ヲ計算ス

第五百七條 保證人ノ一人ニ爲シタル主タル債務ノ免除ハ債務者及ヒ他ノ保證人ナシテ其債務ヲ免シレシム

第五百八條 債務ノ免除ヲ受ケタル債務者及ヒ保證人ハ債權者ヨリ共通ノ免除ヲ得ル爲メ實際供與シタル數額ニ付テノ他ノ共同債務者及ヒ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有ス

第五百九條 共同債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノミノ免除アリタルトキハ其一人ナシテ他ノ債務者ノ部分ヲ免カレシメ且他ノ債務者ナシテ其一人ノ部分ヲ免カレシム
性質ニ因ル不可分ノミノ免除ニ付テハ債權者ハ債務者ノ各自ニ對シテ全部ノ要求ヲ爲ス權利ヲ失ハス但免除ヲ受ケタル債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス

又債權者ハ免除ヲ受ケタル債務者ニ對シ全部ノ要求ヲ爲スコトヲ得但他ノ債務者ノ負擔ス可キ債額ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百十條 債權者ハ左ノ場合ニ於テハ債務者ノ一人ニ對シテ連帶ノミ又ハ任意ノ不可分ノミヲ免除シタリトノ推定ヲ受ク

第一 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セシテ債務者ノ一人ヨリ其債務ノ部分ナリト明言シタル金額又ハ有價物ヲ受取リタルトキ

第二 債權者カ擔保ノ權利ヲ留保セシテ債務者ノ一人ニ對シ其債務ノ部分ナリト稱シテ裁判上

ノ請求ヲ爲シタルニ其一人請求ニ承服シ又ハ擔保ヲ爲ス可キ旨ノ言渡ヲ受ケタルトキ

第三 債權者カ異國ヲ留メスシテ十年間引續キ債務者ノ一人ヨリ其負擔ス可キ利息又ハ年金ノ部分ヲ受取リタルトキ

第五百十一條 保證人ノ一人ニ保證ヲ免除シタルトキハ主タル債務者ハ其債務ヲ免カレシム他ノ保證人ハ保證ノ免除ヲ受ケタル一人ノ部分ニ付キ其義務ヲ免カル然レトモ保證人ノ間ニ連帶ヲ爲セル場合ニ於テ債權者カ第五百六條第二項ニ記載シタル如ク他ノ保證人ニ對シテ自己ノ權利ヲ留保セサルトキハ他ノ保證人ナシテ其義務ヲ免カレシム

第五百十二條 債權者ノ質又ハ抵當ノ拋棄ハ其債權ヲ滅セス然レトモ連帶債務者又ハ保證人ハ其拋棄ニ因リテ此等ノ擔保ニ代位スルコトヲ妨ケラレタルカ爲メ債權擔保第百四十五條及ヒ第七十一條ニ依リ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第五百十三條 共同債務者ノ一人カ連帶者クハ不可分ノミノ免除ヲ得ル爲メ又ハ保證人ノ一人カ保證ノ免除ヲ得ル爲メ債權者ニ出捐ヲ爲シタルモ其債務ヲ滅セス且他ノ共同債務者又ハ共同保證人ニ對シテ求償權ヲ有セス

第五百十四條 特定物ヲ引渡スノミ又ハ返還スルノミノ義務ヲ免除スルモ債權者ノ利益ニ於テ廢戻又ハ讓渡ヲ惹起セス其所有者ハ回復ノ權利ヲ失ハス

第五百十五條 連帶債權者ノ一人ノ爲シタル債務又ハ連帶ノミノ免除ハ單ニ其一人ノ部分ニ付キ之ヲ以テ他ノ債權者ニ對抗スルコトヲ得

債權者カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ノ爲シタル免除ハ他ノ債權者ヲ害スルコトヲ得ヌ他ノ債權者ハ第四百四十五條及ヒ第五百六條ノ規定ニ從ヒテ全債權ヲ行フ

第五百十六條 債權者カ債務者ノ義務ヲ記載シタル本證書ヲ任意ニテ債務者ニ交付シタルトキハ其證書ニ免除ノ旨ヲ附記セスト雖モ債權者ハ債務ノ免除ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク但債權者ノ反對ノ意思ヲ證スル權利ヲ妨ケス

公正證書ノ正本又ハ判決書ノ正本ノ任意ノ交付ハ其書類ニ執行文ヲ具備スルモ債務ノ免除ヲ推定セシムルニ足ラス但裁判所カ事情ニ從ヒテ其免除ヲ推測スルコトヲ妨ケス
債務者カ右ノ書類ヲ所持スルトキハ反對ノ證據アルマテハ債權者ヨリ任意ノ交付アリタリトノ推定ヲ受ク

第五百十七條 債權者カ證書ノ全文又ハ債務者ノ署名其他緊要ナル部分ヲ有意ニテ毀滅シ批破シ又ハ抹殺シタルトキハ前條ノ區別ニ從ヒテ任意ノ交付ニ準シ債務ノ免除アリタリト推定ス
右毀滅、批破又ハ抹殺ハ其當時證書カ債權者ノ占有ニ係リシトキハ反對ノ證據アルマテ債權者ノ所爲ハ其承諾ニ出テタルトノ推定ヲ受ク

第五百十八條 債務ノ免除ハ明示ナルト默示ナルト又直接ニ證スルト法律上推定スルトヲ問ハス反對ノ證據アルマテ有價ニテ之ヲ爲シタリトノ推定ヲ受ク
然レトモ授受スル相對能力ナキ者ノ間ニ於ケル免除ハ有價ニテ之ヲ爲シタリトノ直接ノ證據ヲ得ク
ルコトヲ要ス

第四節 相殺

第五百十九條 二人互ニ債權者タリ債務者タルトキハ下ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ法律上、任意上又ハ裁判上ノ相殺成立ス
相殺ハ二箇ノ債務ヲシテ其寡少ナル債務ノ數額ニ滿ソルマテ消滅セシム

第五百二十條 二箇ノ債務カ主タルモノ互ニ代替スルヲ得ヘキモノ明確ナルモノニシテ要求スルヲ得ヘキモノニシテ且法律ノ規定又ハ當事者ノ明示若クハ默示ノ意思ヲ以テ其相殺ヲ禁セザルトキハ當事者ノ不知ニテモ法律上ノ相殺ハ當然行ハル

第五百二十一條 主タル債務者ハ自己ノ債務ト債權者カ保證人ニ對シテ負擔スル債務トノ相殺ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得ス然レトモ訴訟ヲ受ケタル保證人ハ債權者カ主タル債務者又ハ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得

連帶債務者ハ債權者カ其連帶債務者ノ他ノ一人ニ對シ負擔スル債務ニ關シテハ其一人ノ債務ノ部分ニ付テニ非サレハ相殺ヲ以テ對抗スルコトヲ得然レトモ自己ノ權ニ基キ相殺ヲ以テ對抗ス可キトキハ全部ニ付キ之ヲ申立ツルコトヲ得

數人ノ連帶債權者アルトキ債務者ハ債權者ノ一人カ自己ニ對シテ負擔スル債務ノ相殺ヲ以テ訴訟ニ對抗スルコトヲ得

債務カ債權者ノ間又ハ債權者ノ間ニ於テ任意不可分ナルトキハ相殺ハ受方又ハ働方ノ連帶ニ於ケルト同一ノ方法ニ從フ又性質ニ因ル不可分ノ債務ナルトキハ第四百四十五條ノ規定ニ從フ

第五百二十二條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シ地方市場ノ相場アル日用品定期ノ供與ヲ負擔シタルトキハ其供與ハ他ノ一方ノ負擔スル金額ト相殺スルコトヲ得

第五百二十三條 債務ノ成立其目的物ノ性質及ヒ分量カ確實ナルトキハ其債務ハ善意ニテ爭ハルルトキト雖モ之ヲ明確ナリトス

第五百二十四條 裁判所ノ許與シタル恩惠上ノ期限ハ相殺ノ妨ヲ爲サス債務者ノ要求ニ因リ無價ニテ債權者ノ許與シタル期限ニ付テモ亦同シ

○財産編

二箇ノ債務ノ一カ解除條件附ナルトキト雖モ相殺ハ行ハル但其條件ノ成就シタルトキハ相殺モ亦解除ス

乙百六十六

第五百二十五條 二箇ノ債務カ同一ノ場所ニ於テ又ハ同一ノ貨幣ヲ以テ清済ス可キモノニ非サルトキト雖モ相殺ハ行ハル但第一ノ場合ニ於テハ運送費又ハ爲替料ヲ計算シ第二ノ場合ニ於テハ兩債務ヲ計算スルコトヲ要ス

第五百二十六條 左ノ場合ニ於テハ法律上ノ相殺ハ行ハレズ

第一 債務ノ一カ他人ノ財産ヲ不正ニ取リタル原因ト爲ストキ

第二 消費ヲ許セル寄託物ノ返還ニ關スルトキ

第三 債權ノ一カ差押フルコトヲ得サル有價物ヲ目的トスルトキ

第四 當事者ノ一方カ豫メ相殺ノ利益ヲ拋棄シタルトキ又ハ債權者ト爲ルニ當リ期望シタル目的

カ相殺ノ爲メ違スルコトヲ得サルトキ

第五百二十七條 債權ノ讓受人カ其讓受テ債務者ニ告知シタルノミニテハ債務者ハ讓渡人ニ對シテ從來有セル法律上ノ相殺ヲ以テ讓受人ニ對抗スルノ權利ヲ失ハス

債務者カ讓渡人ニ對シテ既ニ得タル法律上ノ相殺ノ權利ヲ留保セスレテ讓渡ヲ受諾シタルトキハ債權者ハ讓受人ニ對シテ其權利ヲ申立ツルコトヲ得ス

右二箇ノ場合ニ於テ債務者カ相殺ヲ申立ツルコトヲ得ザリシ金額又ハ有價物ヲ讓渡人ナシテ自己ニ償還セシムルノ權利ヲ妨ケス

第五百二十八條 拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ自己ノ債權者ニ對シテ差押後ニ取得シタル債權ノ相殺ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス

又從來有セル相殺ノ原因ニ付テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ民事訴訟法ニ掲ケタル方式及ヒ期間ニ從ヒテ其原因ヲ述ヘタルニ非サレハ之ヲ以テ差押人ニ對抗スルコトヲ得ス

右孰レノ場合ニ於テモ拂渡差押ヲ受ケタル債務者ハ差押ノ金額又ハ有價物ニ付キ自己ノ債權ノ清済ヲ得ル爲メ差押人ト共ニ配當ニ加入スル權利ヲ有ス

第五百二十九條 相殺ニ因リテ既ニ消滅シタル債務ヲ清済シタル者ハ不當利得ノ取戻權ノミヲ行フコトヲ得但次條ニ記載スル場合ハ此限ニ在ラス

第五百三十條 前三條ニ掲ケタル場合ニ於テ相殺ニ因リ既ニ消滅シタル債務ヲ讓受人若クハ差押人ノ利益ノ爲メ追認シ又ハ自己ノ債權者ニ清済シタル者ハ自己ノ舊債權ヲ擔保シタル保証、先取特權若クハ抵當ヲ申立ツルコトヲ得ス但既ニ行ハレタル相殺ヲ知ラサル正當ノ原因アリレコトヲ証スルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ舊債權ハ其性質ヲ以テ擔保ト共ニ復舊ス

第五百三十一條 任意上ノ相殺ハ法律ヲ法律上ノ相殺ヲ許ササル爲メ利益ヲ受クル一方ノ當事者ヨリ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得總テノ場合ニ於テ各利害關係人ノ承諾アルトキハ相殺ハ之ヲ合意上ノモノトス

任意上ノ相殺ハ既往ニ遡ルノ效ヲ有セス

第五百三十二條 裁判上ノ相殺ハ被告カ原告ニ對シテ自己ノ利益ノ爲メ債權ヲ追認セシメ又ハ清済セシムルヲ主旨トスル反訴ノ方法ニ依リテ之ヲ求ムルコトヲ得

此場合ニ於テ裁判所ハ或ハ先ツ主タル訴ヲ裁判シ或ハ二箇ノ訴ヲ併セテ裁判スルコトヲ得

裁判上ノ相殺ハ之ヲ以テ對抗シタル日ニ遡リテ效ヲ有ス

第五百三十三條 當事者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ法律上又ハ裁判上ノ相殺ニ服スル數箇ノ債務ヲ有

○財産編

乙百六十七

スルトキハ其債務ヲ相殺スル順序ハ第四百七十二條ニ掲ケタル辨濟ノ法律上ノ充當ノ規定ニ從フ
相殺カ任意上又ハ合意上ノモノナルトキハ辨濟ノ充當ハ第四百七十條及ヒ第四百七十一條ノ規定又
ハ當事者ノ協議ニ從フ

第五節 混同

第五百三十四條 一箇ノ義務ノ債權者タリ及ヒ債務者タルノ分限カ相續等ニテ一人ニ併合シタルトキ
ハ義務ハ混同ニ因リテ消滅ス

右ノ混同カ其以前ノ適法ノ原因ニ由リテ解除、銷除又ハ廢止ヲ受ケタルトキハ義務ハ之ヲ消滅セサ
リシモノト看做ス

第五百三十五條 債權者カ連帶債務者ノ一人ニ相續シ又ハ連帶債務者ノ一人カ債權者ニ相續シタルト
キハ連帶債務ハ其一人ノ部分ニ付テノミ消滅ス

混同カ連帶債權者ノ一人ト債務者トノ間ニ行ハレタルトキモ亦其混同ハ債務ノ一分ニ付テノミ成ル

第五百三十六條 義務カ性質ニ因ル不可分ナルトキハ債權者ノ一人ト債務者ノ一人トノ間ノ混同ハ他
ノ者ノ利害ニ於テ其義務ヲ全存セシム然レトモ其混同ヲ得タル者ハ第四百四十五條ニ從ヒテ一分ノ
債金ヲ供シ又ハ受取ルニ非サレハ全部ニ付キ既退スルコトヲ得ヌ又ハ既退セラルルコト無シ

第五百三十七條 二人ノ連帶債權者又ハ二人ノ連帶債務者ノ分限カ一人ニ併合シタルトキハ權利又ハ
義務ノ消滅ナシ其身ニ就キ併合ノ成リタル者ハ或ハ自己ノ名或ハ己レカ相續シタル者ノ名ニテ全部
ニ付キ既退スルコトヲ得又ハ既退セラルルコト有リ

側方又ハ受方ニテ不可分ナル義務ニ付テモ亦同シ

第五百三十八條 保證人カ債權者ニ相續シ又ハ債權者カ保證人ニ相續シタルトキハ保證ハ其附從ノモ
ト共ニ消滅ス

ノト共ニ消滅ス
債務者カ保證人ニ相續シ又ハ保證人カ債務者ニ相續シタルトキハ債權者ハ主タル債務者共同保證人
若クハ保證人ノ擔保人ニ對シ及ヒ保證ニ附著シタル質若クハ抵當ニ付キ其權利ニ變更ヲ受クルコト
無シ

第六節 履行ノ不能

第五百三十九條 義務カ特定物ノ引渡ヲ目的トシタル場合ニ於テ其目的物カ債務者ノ過失ナク且付運
滞前ニ滅失シ紛失シ又ハ不融通物ト爲リタルトキハ其義務ハ履行ノ不能ニ因リテ消滅ス若シ義務カ
定マリタル物ノ中ノ數箇ヲ目的トシタル場合ニ於テ其一箇ヲモ引渡スコト能ハサルトキハ亦同シ
作爲又ハ不作爲ノ義務ハ其履行カ右ト同一ノ條件ヲ以テ不能ト爲リタルトキハ消滅ス

第五百四十條 債務者カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル危險及ヒ災害ヲ擔任シ若クハ第三百三十六條及
ヒ第三百八十四條ニ從ヒテ遲滞ニ付セラレタルトキハ其債務者ハ前條ノ原因ニ由ルモ其義務ヲ免カ
レス

第五百四十一條 債務者ハ自己ノ申立ツル意外ノ事又ハ不可抗力ヲ証スルノ責ニ任ヌ

債務者カ第三百三十五條第二項ニ依リテ其義務ヲ免カレタル爲メ假令其物カ債權者ノ方ニ在ルモ亦滅
失ス可カリシコトヲ申立ツルトキハ其證據ヲ舉グルコトヲ要ス

第五百四十二條 債務者カ履行ノ不能ニ因リテ義務ヲ免カレタルトキハ其債務者ハ己レノ受取ル可キ
對價ニ付テハ其履行ノ爲メ既ニ出捐シタル限度ニ於テノミ權利ヲ有ス

第五百四十三條 物ノ全部又ハ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ其滅失ヨリ第三者ニ對シテ或ル補償既經ノ生
スルトキハ債權者ハ殘餘ノ價ヲ要求シ且此既經ヲ行フコトヲ得

○財産編

第五百四十四條 無能力者又ハ錯誤ニ因リテ承諾ヲ與ヘタル人又ハ強暴若クハ詐欺ニ因リテ承諾ヲ獲ラレタル人ノ約シタル義務ハ五ヶ年ノ間ハ或ハ其人又ハ其代人ノ請求ニ因リ或ハ履行ノ際ニ對シ此等ノ者ヨリ爲シタル抗辯ニ因リテ裁判上之ヲ銷除スルコトヲ得

第五百四十五條 右時効ノ期間ハ強暴ニ付テハ其強暴ノ止ムマテ錯誤ニ付テハ其錯誤ヲ覺知スルマテ詐欺ニ付テハ其詐欺ヲ發見スルマテ無能力ニ付テハ其無能力ノ止ムマテ之ヲ停止ス
然レトモ瘋癲者又ハ喪心ニ因ル禁治産者ノ合意ニ付テハ右時効ハ其者ノ能力ヲ復シタル後其承諾シタル行為ノ通知ヲ受ケ又ハ其行為ヲ了知シタル時ヨリ進行ス
治産ヲ禁セラレタル虐刑人ニ付テハ銷除ノ訴權及ヒ抗辯ハ自他ノ爲メ其刑期満了後ニ非サレハ時効ニ罹ラス

此他免責時効ノ停止及ヒ中斷ノ通常ノ原因ニ關スル規定ハ右時効ニ之ヲ適用ス
第五百四十六條 銷除訴權ヲ有セル人カ前條ノ期間ノ満了前ニ死亡シタルトキハ既權ハ其相續人ニ移轉ス
右ノ場合ニ於テ期間カ死亡者ニ對シテ未タ進行ヲ始メサリシトキハ相續人ノ既權ハ其相續ノ時ヨリ時効ニ罹リ既ニ進行ヲ始メタルトキハ其殘期ヲ以テ時効ニ罹ル但証據編第百二十九條ニ記載セル停止ハ此限ニ在ラス

第五百四十七條 未成年者又ハ禁治産者ノ財産ニ關シ後見人ノ爲シタル合意及ヒ行為ハ無能力者ノ利益ノ爲メ法律ノ定メタル方式及ヒ條件ヲ遵守セサリシトキハ之ヲ銷除スルコトヲ得
未成年者自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ行為ニ付テハ特別ナル方式及ヒ條件ニ依ラサリシトキ止ハ此限ニ在ラス

又禁治産者ノ行為ニ付テハ何等ノ場合ナ開ハス亦其止爲テ銷除スルコトヲ得
右規定ハ有能者ノ爲メニ許與セル銷除ノ既權ヲ妨ケス
第五百四十八條 未成年者一人ニテ特別ナル方式又ハ條件ノ必要ナキ合意又ハ行為ヲ承諾シタルトキハ銷除訴權ハ其未成年者ノ爲メ欠損アルトキニ非サレハ之ヲ受理セス
法律カ保佐人ノ立會ノミヲ要シタルトキ其立會ナクシテ自治産ノ未成年者及ヒ准禁治産者ノ爲シタル右ト同一ナル性質ノ行為ニ對シ亦欠損ニ因ルニ非サレハ銷除訴權ヲ行フコトヲ得ス
欠損ハ行為ノ時ニ於テ之ヲ見積リ其偶然ノ事件ヨリ生スルモノハ之ヲ算入セス

第五百四十九條 未成年者カ成年ナリト陳述シタルノミニシテ成年タルコトヲ信セシムル爲メ自ラ詐術ヲ用非サルトキハ其無能力又ハ欠損ニ因ル銷除訴權ヲ妨ケス
此他無能力者ノ虚偽ノ陳述ニ付テモ亦同シ
第五百五十條 商業又ハ工業ヲ営ムノ許可ヲ得タル自治産ノ未成年者ハ其營業ニ關スル行為ニ付テハ然レトモ其未成年者ハ普通法ニ從フニ非サレハ不動産ヲ讓渡スコトヲ得ス

第五百五十一條 婦ノ行為ハ配偶者ノ相互ノ權利及ヒ本分ニ關シ法律ニ定メタル場合ニ非サレハ婦又ハ夫ノ請求ニ因リテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス
第五百五十二條 承諾ノ瑕疵ニ因リテ行為ノ銷除ヲ得タル成年者ハ其行為ニ因リテ既ニ受取リタル總テノ物ヲ返還スル責ニ任ス
無能力者ハ銷除ヲ得タル行為ニ因リテ仍ホ現ニ已レテ利益スル物ノミヲ返還スル責ニ任ス右返還ヲ要スル既權ハ通常ノ時効ニ因ルニ非サレハ消滅セス

○財産編

第五百五十三條 不動産ノ讓渡カ無能力ノ錯誤又ハ強暴ノ瑕疵ニ因ル銷除ニ服スルトキハ第三百五十二條及ヒ第三百五十三條ノ區別及ヒ條件ニ從ヒ第三取得者ニ對シテ其銷除ヲ爲スコトヲ得

第五百五十四條 銷除權ハ第五百四十四條乃至第五百四十六條ニ定メタル時効ニ因リテ消滅スル外第五百四十五條ニ從ヒテ時効ノ進行ヲ始メタル權利關係人カ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ヲ明示又ハ默示ニテ認諾シタルトキハ之ヲ行フコトヲ得ス

第五百五十五條 明示ノ認諾ハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ要旨及ヒ其銷除ノ原因ヲ記シ且銷除權ノ放棄ヲ述ヘタル明白ナル證書ニ因リテ成ル

第五百五十六條 默示ノ認諾ハ左ノ行為ニ因リテ成ル
第一 合意ノ全部若クハ一分ノ任意ノ履行
第二 異議ナキ又ハ異議ノ留保ナキ強制ノ執行
第三 更改

第四 物上又ハ對人ノ擔保ノ任意ノ供與
默示ノ認諾ハ債權者ニ在テハ銷除スルコトヲ得ヘキ合意ノ履行ノ請求ニ因リ又ハ其合意ヲ以テ取得シタル物ノ全部若クハ一分ノ任意讓渡ニ因リテ成ル

第五百五十七條 認諾ハ銷除權ヲ有スル者ノ特定ノ承継人ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第五百五十八條 初ヨリ無効ナル行為ハ之ヲ認諾スルコトヲ得ス但第五百六十五條ニ掲ケタル規定ヲ効ケス

第五百五十九條 算數、氏名、日附又ハ場所ノ錯誤ノ改正ヲ目的トスル廢權ハ時効ニ罹ルコト無シ但此

廢權ノ附屬スル權利ノ時効ヲ妨ケス

第八節 廢權

第五百六十條 債權者ヲ詐害シテ約シタル義務ノ廢權及ヒ廢權廢權ノ時効ハ第三百四十條乃至第三百四十四條ノ規定ニ從フ

贈與者及ヒ其相續人ノ利益ノ爲メニ設ケタル特別ノ廢權ハ贈與ニ關スル規定ニ從フ

第九節 解除

第五百六十一條 義務ハ第四百九條、第四百二十一條及ヒ第四百二十二條ニ從ヒ明示ニテ要約シタル解除又ハ裁判上得タル解除ニ因リテ消滅ス

解除ヲ請求ス可キトキハ其解除權ハ通常ノ時効期間ニ從フ但法律ヲ以テ其期間ヲ短縮シタル場合ハ此限ニ在ラス

第四章 自然義務

第五百六十二條 自然義務ノ履行ハ既ノ方法ニ依リテモ相殺ノ抗辯ニ依リテモ之ヲ要求スルコトヲ得ス其履行ハ債務者ノ任意ナルコトヲ要シ之ヲ其良心ニ委ス

第五百六十三條 債務者ノ任意ノ辨濟ハ不當ノ辨濟ナリトシテ之ヲ取戻スコトヲ得ス

自然義務ヲ辨濟シタル意思ノ證據カ事情ヨリ生スルニ於テハ辨濟ノ原因ヲ明示スルコトヲ要セス

第五百六十四條 自然義務ハ追認、更改又ハ質若クハ抵當ノ供與ノ目的タルコトヲ得

右諸種ノ場合ニ於テ自然義務ハ通常ノ法定ノ效力ヲ生ス

第五百六十五條 自然義務ハ法定ノ承諾ヲ阻却スル錯誤ノ爲メ目的ノ指定ノ欠缺若クハ不足ノ爲メ又ハ必要ナル公式ノ欠缺ノ爲メ初ヨリ無効ナル合意ニ因リテ生スルコトヲ得

○財産編

然レトモ及式ノ欠缺ノ爲メ無効ナル贈與ニ關シテ贈與者自ラ自然義務ノ履行又ハ追認ヲ爲スコトヲ得ス其相續人又ハ承繼人ノミ之ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ハ方式上無効ナル遺言ヲ爲セル者ノ相續人ニ之ヲ適用ス

第五百六十六條 原因ノ欠缺又ハ不法ノ原因ノ爲メ無効ナル合意ハ自然義務ヲ生スルコトヲ得ス及ノ秩序ノ爲メ合意ノ目的トスルコトヲ禁シタル物ヲ目的ト爲ス合意ニ付テモ亦同シ

第五百六十七條 債三者ノ所爲ノ諸約及ヒ債三者ノ利益ニ於ケル要約ニ關シ第三百二十二條及ヒ第三百二十三條ニ定メタル無効ハ諸約者ノ自然義務ノ生スルコトヲ妨ケス

第五百六十八條 債務者カ不當ノ利得不正ノ損害又ハ法律ノ規定ニ因リテ法定義務ヲ負擔スルコト有ル可キ場合ノ外債務者ハ此權原ニテ自然義務ヲ負擔シタリト有效ニ自ラ追認スルコトヲ得

第五百六十九條 自然義務ハ法定義務ノ銷除ノ廢止又ハ解除カ裁判上ニテ宣告セラレタル後ト雖モ存立スルコトヲ得

法定義務カ此他ノ消滅方法ニ因リテ消滅シタル後ニ於テモ亦同シ

第五百七十條 免責又ハ取得ノ時效ノ利益ヲ援用シタル者既判力ノ利益ヲ受ケル者又ハ其他ノ推定若クハ證據ヲ申立ツルコトヲ得ヘキ者ハ尙ホ自然義務ヲ負擔シタリト自ラ追認スルコトヲ得

第五百七十一條 自然債權ノ法定ノ讓渡ハ協諾契約ヲ以テ破産者ニ免除シタル金額ニ付キ其債權者ノ之ヲ爲シタル場合ノミ有效ナリ

第五百七十二條 當事者ハ自然義務ノ任意ノ履行又ハ認定アラサル前ト雖モ仲裁契約ヲ以テ其自然義務ノ成立又ハ廢止ヲ仲裁人ノ決定ニ委ヌルコトヲ得此場合ニ於テハ自然義務ヲ宣言シタル其決定ハ法定ノ義務ヲ生ス

○供託規則(明治廿三年七月廿五日)

朕供託規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム

御名 御璽

供託規則

第一條 法律ノ規定ニ依リ供託スル所ノ金錢有價證券ハ總テ大蔵省預金局ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第二條 供託シタル金錢ハ拂込ノ日ヨリ六十日ヲ過ルトキハ拂込ノ翌月ヨリ拂渡請求ノ前月マテ通常預金ノ利子ヲ付スヘシ

第三條 供託ヲ爲サントスルトキハ大蔵大臣定ムル所ノ式ニ依リ供託書ヲ製シテ供託物ニ添ヘ其中込ヲ爲スヘシ

第四條 供託者ハ民法財産編第四百七十七條債權擔保編第三百六十八條及商法第七百四十條ノ場合ニ於テハ其供託シタル旨ヲ債權者ニ通知スヘシ

第五條 供託物ハ供託者ノ指定シタル者ニ拂渡シ又ハ裁判所ノ通知ニ依リ拂渡スヘキモノトス但シ供託者ニ於テモ其受領スヘキ理由アルコトヲ證明シ返戻ヲ請求スルコトヲ得

第六條 有價證券ノ償還利子又ハ配當金ヲ受取ントスルトキハ有權者ヨリ大蔵省預金局ニ請求スヘシ此請求ヲキトキハ政府ハ損害ノ責ニ任セサルヘシ

第七條 前條ノ請求ニ依リ大蔵省預金局ニ於テ受取リタル償還金利子又ハ配當金ハ代供託物又ハ附屬供託物トシテ之ヲ保管スヘシ

○供託物取扱規程(明治廿三年十二月十五日)

本年勅令第四百十五號供託規則ニ依リ寄託スル金錢有價證券取扱規程左ノ通相定ム

○財産編

乙百七十五

供託物取扱規程

- 第一條 供託物ノ受渡及保管ハ東京府内ハ大蔵省預金局其他ノ各地ハ本支金庫ニ於テ之レヲ取扱フヘシ
- 第二條 供託物ヲ寄託セントスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル第一號書式ノ供託書ニ通テ摺印シテ
上其寄託ヲ供託取扱所ノ各地ハ本支金庫以下做之ニ請求スヘシ
第一 供託者ノ住所氏名代人ヲ用ユルトキハ尙代人ノ住所氏名
官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ官廳名官氏名
第二 金錢ハ其金額
有價證券ハ其種類記號番號券面金額枚數
但種類其他多數ニテ一紙ニ認メ難キトキハ別冊ニ調製添附スヘシ
第三 供託ノ事由
但裁判中ノ事件ニ係リ供託ナサントスルトキハ尙其件名及其裁判所名ヲ記スヘシ
第四 年月日
- 第三條 供託取扱所ニ於テ供託書ヲ受ケタルトキハ其式ニ違ハサルヲ認メ其物件ヲ受領シ供託書ニ受領ノ旨記載捺印シ其一通ヲ供託者ニ交付スヘシ
- 第四條 供託物ハ郵便ヲ以テ寄託スル事ヲ得
前項ノ場合ニ於テ金錢ハ寄託スヘキ供託取扱所所在ノ銀行又ハ郵便局ニ於テ繰渡スヘキ送金手形若クハ爲替券等ヲ以テ寄託スルコトヲ得
- 第五條 送金手形若クハ爲替券ヲ以テ金錢ヲ寄託シタルトキハ供託取扱所ハ其現金ヲ領收シタル後チニアラサレハ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲナササルヘシ

- 第六條 供託物ノ分割ヲ要スルトキハ更ニ割分シタル供託書各二通ヲ調製シ第三號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ供託取扱所ヘ差出スヘシ
- 第十條 供託取扱所ニ於テ前條ノ割分請求ヲ受ケタルトキハ更ニ差出シタル供託書ニ第三條ニ於ケル受領ノ手續ヲナシ其一通ヲ尙受領證ト引替ニ交付スヘシ
- 第八條 寄託シタル有價證券ノ償還金利息又ハ配當金ノ受取方ヲ要スルトキハ有權者ヨリ第三號書式ノ請求書ニ通ニ委任狀ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ差出スヘシ
- 第九條 供託取扱所ニ於テ前條ノ請求ニ依リ償還金利息又ハ配當金ヲ受取リタルトキハ代供託物トシテ之ヲ預リ請求書ニ受領ノ旨記載捺印シ其一通ヲ請求者ニ交付スヘシ
- 第十條 供託物ノ全部又ハ幾分ノ拂渡又ハ返戻ヲ受ケントスルトキハ其事由ヲ記載シタル第四號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ供託取扱所ヘ請求スヘシ但全部拂戻ノトキハ受領證ニ式ノ如ク與書ヲナシ幾分拂戻ノトキハ第五號書式ノ受取證ヲ差出スヘシ
- 第十一條 裁判ノ結果等ニ依リ供託物ノ分割拂戻ヲ要スルトキハ裁判所ハ第六號書式ノ請求書ニ第三條及第九條ノ受領證ヲ添ヘ之ヲ供託取扱所ヘ送付シ同時ニ第七號書式ノ拂戻書ヲ調製シ之ヲ受取人ヘ交付スヘシ
- 第十二條 前條ノ拂戻證ヲ受ケタル者ハ其末尾ニ式ノ如ク記載捺印シ之ヲ供託取扱所ヘ差出シ其拂戻ヲ受ケヘシ
- 第十三條 供託取扱所ニ於テ供託物ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ三日(休日ヲ除ク)以内ニ拂戻スヘシ
供託物幾分ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ受領證ノ末尾ニ内渡ノ旨記載捺印シ其供託物ト共ニ之ヲ返付スヘシ

◎財産編

第十四條 供託規則ニ依リ仕拂フトキ利子ハ元金仕拂請求ノ際第八號書式ノ利子請求書ヲ供託取扱所
ヘ差出スヘシ

第十五條 前條ノ請求書ヲ受ケタルトキハ大蔵省預金局ニ於テ供託金利子證券ヲ調製シ之ヲ拂戻請求
者ヘ送付スヘシ

第十六條 前條ノ利子證券ヲ受ケタル者ハ其證券ニ記載アル大蔵省預金局又ハ本支金庫ヘ差出シ之
ト引替ニ現金ヲ受取ルヘシ

第一號書式供託書 用紙寸法美濃板
供託書

(一) 内及印章ハ朱)

府縣郡市町村番地

供託者

何

某

「官吏ノ公務上取扱ニ係ル者ハ官廳名及官氏名ヲ
記載スルモノトス代人ヲ用フルトキハ其住所氏
名ヲ書加フルモノトス」

一金何圓也

「何分利附何公債證券何圓券

々(又ハ)

何第何番ヨリ

何枚

「何銀行(又ハ)何會社株券何圓券(又ハ)

第何番

何枚

第何番ヨリ

何枚

「有價證券ノ種類其他多數ニテ本書ニ認メ難キトキハ單ニ有價證券何枚ト記載シ別ニ明細書ヲ添
附スヘシ」

事由「裁判中ニ係ルモノハ其名及裁判所名ヲモ記載スルモノトス」

前書ノ物件何地ニ於テ寄託致度此段請求候也

「分割ヲ要スルトキ差出ス供託書ハ「前書ノ物件」ノ下ニ「何年何月何日何第何號受領證ノ内分割ノ
上」ノ文字ヲ加フ」

年月日

右

何

某印

預金局長氏名殿

「何第何號」

「右受領ス」

「年月日」

「大蔵省預金局長氏名」印

「各地」

「大蔵省預金局」

大蔵省預金局
局地供託
取扱所保管
之印

「取扱方」

「何地何金庫」印

「奥書ノ式」

前書物件正ニ受取候也

年月日

府縣郡市町村番地

何

某印

第二號書式分割請求書 用紙寸法美濃板半折

分割請求書

〇財産編

今般何々ノ事由ニ據リ何第何號受領證ノ物件別紙供託書ノ通り分割相成度此段請求候也
乙百八十

年月日

預金局長氏名殿

府縣郡市町村番地

何 某印

第三號書式償還金利息又ハ配當金受取方請求書 用紙寸法美濃板
償還金(又ハ)「利息」(又ハ)「配當金受取方請求書」

府縣郡市町村番地

有權者

何 某

「官吏ノ公務上取扱ニ係ルモノハ官廳名及官氏名ヲ記載スルモノトス」
「代人ヲ用フルトキハ其住所氏名ヲ附加フルモノトス」

一金何號也

何分利附何公債證書(又ハ)「何銀行」(又ハ)「何會社株券何圓何年何月」(又ハ)「何加渡利子」(又ハ)「配當金」(又ハ)「何年何月償還金何年何月何日何第何號受領證何某供託ノ分」
受取場所何地

前書金額受取相成度此段請求候也

年月日

預金局長氏名殿

右 何 某印

「何第何號」
「右受領ス」

「年月日」

「大藏省預金局長氏名」印

「各地ハ」

「大藏省預金局」

大藏省預金局
何地供託
取扱所保管
之印

「取扱方」

「何地何金額」印

「奥書ノ式」
前書物件正ニ受取候也

年月日

府縣郡市町村番地

何 某印

第四號書式拂戻請求書 用紙寸法美濃板半折
拂戻請求書

今般何々ノ事由ニ據リ何第何號受領證ノ物件拂戻相成度此段請求候也
「幾分ノ拂戻ヲ請求スルトキハ第五號書式ノ受取證ヲ添付シ「何第何號受領證」下ニ「内別紙受取證」ノ文字ヲ加フヘシ」

年月日

預金局長氏名殿

府縣郡市町村番地

何 某印

第五號書式幾分拂戻ノ受取證 用紙寸法美濃板
○財產取得編

供託物受取證

何年何月何日何第何號受領證ノ内
一金何圓也

一何分利附公債證書何圓券

〔又ハ〕何第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

一何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券

〔又ハ〕第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

〔有價證券ノ種類多數ニテ本紙ニ認メ離キトキハ單ニ有價證券何枚ト記載シ別ニ明細書ヲ添付スヘシ〕

前書物件正ニ受取候也

府縣郡市町村番地

何

某印

年月日

預金局長氏名殿

第六號書式分割拂戻請求書 用紙寸法英遺板

分割拂戻請求書

府縣郡市町村番地

供託者 何

某

何年何月何日何第何號受領證
一金何圓也

何分利附公債證書何圓券

〔又ハ〕何第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券

〔又ハ〕第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

〔有價證券ノ種類多數ニテ本紙ニ認メ離キトキハ單ニ有價證券何枚ト記載シ別ニ明細書ヲ添付スヘシ〕

内

金何圓也

府縣郡市町村番地

受取人 何

某

何分利附公債證書何圓券

〔又ハ〕何第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

府縣郡市町村番地

受取人 何

某

何銀行〔又ハ〕何會社株券何圓券

〔又ハ〕第何番ヨリ
第何番マテ

何枚

府縣郡市町村番地

受取人 何

某

事由

前書内譯ノ通り拂戻證交附候ニ付分割拂戻相成度此段請求候也

○財産取得証

年月日

預金局長氏名殿

第七號書式拂戻證 用紙適宜

拂戻證

官廳名

乙百八十四

官氏名印

府縣郡市町村番地

供託者

何

某

何年何月何日何第何號受領證ノ内
一金何圓也

何分利附公債證書何圓券

何第何番
何第何番ヨリ
何第何番マテ

何枚

何銀行「又ハ」何會社株券何圓券

何第何番
何第何番ヨリ
何第何番マテ

何枚

前書物件此證引替受取人へ拂戻ヲ要ス

府縣郡市町村番地

何

某

年月日

預金局長氏名殿

「各地ハ」
「何地何金圓」

官廳名

官氏名印

前書物件正ニ領收候也

府縣郡市町村番地

何

某印

年月日

第八號書式利子請求書 用紙寸法美濃半紙

利子請求書

何年何月何日何第何號受領証何某ヨリ寄託シタル供託金何圓ニ對スル利子仕拂相成度此段請求候也
「代供託又ハ附屬供託物アルトキハ何年何月何日附受領證ニ於ケル代供託又ハ附屬供託金何圓ニ對
スル利子ト書加フヘシ」

府縣郡市町村番地

何

某印

年月日

預金局長氏名殿

○財産委乘法(明治廿三年十月三日
法律第九十四號)

朕財産委乘法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス
御名 御璽

財産委乘法

第一條 無資力ナル債務者ニシテ惡意ノ證ナキ者ハ動産又ハ不動産ノ總押ヲ受ケタルモ競賣ニ至ルマ
テハ無資力ノ原因タル不幸ノ事情又ハ管理ノ過失ヲ陳述シテ債權者ニ對リ自己ノ財産ノ委乘ヲ其任
○財産編

乙百八十五

所地ノ裁判所ニ請求スルコトヲ得

債務者ハ總債權者ノ氏名及ヒ分限ト各債權者ノ債權ノ元本及ヒ利息トヲ右請求ニ附記スルコトヲ要ス

第二條 財産ノ委乘ハ協諾契約ニ關シ商法ニ規定シタル方式及ヒ條件ニ從ヒテ債權者ノ承諾ヲ受クルコトヲ要ス

第三條 債權者ノ承諾シタル財産ノ委乘ハ裁判所ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス
此他財産ノ委乘ニ付テハ家資分取ニ關スル法律ノ適用ヲ妨ケス

○裁判上代位法 (明治廿三年十月三日)

(法律第九十三號)

朕裁判上代位法ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム此法律ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

裁判上代位法

第一條 民法財産編第三百三十九條ノ規定ニ從ヒテ債務者ニ屬スル財産ヲ行ハントスル債權者ハ先ツ債務者ニ其行使ヲ合式ニ催告スルコトヲ要ス

債務者右催告ヲ受ケタル後ハ權利ヲ讓渡スコトヲ得ス

第二條 債務者前條ノ催告ヨリ七日内ニ被告ト爲ル可キ第三者ニ對シテ訴ヲ提起セザルトキハ債權者ハ債務者ノ住所地ノ裁判所ニ代位ノ申請ヲ爲スコトヲ得但催告書ノ原本ヲ提出スヘシ

第三條 代位ノ申請ニハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

第一 債權者、債務者、被告ト爲ル可キ第三者及ヒ裁判所ノ表示

第二 代位申請ノ原因タル債權ノ表示

第三 訴訟物ノ表示

第四條 裁判所ハ申請ニ付キ債務者ヲ審訊セシメテ決定ヲ爲スコトヲ得
右申請ノ決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得

○辨濟提供規則

(明治廿三年十月八日)

(勅令第二百十七號)

朕辨濟提供規則ヲ裁可シ茲ニ之ヲ公布セシム本規則ハ明治二十六年一月一日ヨリ施行スヘキコトヲ命ス

御名 御璽

辨濟提供規則

第一條 民法財産編第四百七十四條ニ依レル辨濟ノ提供ハ執達吏ヲシテ之ヲ爲サシム可シ

第二條 提供ヲ爲スノ委任ヲ受ケタル執達吏ハ圖書ヲ作り其圖書ニハ提供物金錢ナルトキハ其種類、數量ヲ記シ特定物ナルトキハ他物ニ換ユルコト能ハサラシムル爲メ其詳細ヲ記シ定置物ナルトキハ其種類品實數量ヲ記ス可シ

第三條 右ノ圖書ニ付テハ民事訴訟法第五百四十條ノ規定ヲ適用ス

第四條 執達吏提供ノ委任ヲ受ケテ之ヲ爲シタルトキハ手数料金十二錢其他執達吏手数料規則ニ從ヒ立替金ヲ受クルモノトス

○財産取得編目錄

總則

○財産取得編

第一章 先占

第二章 添附

第一節 不動産上ノ添附

第二節 動産上ノ添附

第三章 賣買

第一節 賣買ノ通則

第一款 賣買ノ性質及ニ成立

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第二節 賣買契約ノ效力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第二款 賣主ノ義務

第一則 引渡ノ義務

第二則 追奪擔保ノ義務

第三款 買主ノ義務

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

乙百八十八

全 丁

全 丁

百九十四丁

百九十六丁

百九十七丁

全 丁

全 丁

二百一丁

二百二丁

全 丁

全 丁

全 丁

二百四丁

二百九丁

二百十一丁

全 丁

第二款 受戻權能ノ行使

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買箇却戻權

第四節 不分物ノ競賣

第四章 交換

第五章 和解

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第三節 會社ノ解散

第四節 會社ノ清算及ヒ分劃

第七章 射倅契約

總則

第一節 博擲及ヒ賭博

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第二款 終身年金權ノ契約ノ效力

第三款 終身年金權ノ消滅

◎財産取得編

二百十二丁

二百十五丁

二百十六丁

二百十七丁

二百十八丁

二百十九丁

全 丁

二百廿丁

二百二十五丁

二百二十六丁

二百二十八丁

全 丁

二百二十九丁

二百三十丁

全 丁

二百三十一丁

二百三十二丁

乙百八十九

第八章 消費貸借及ヒ無期年金儲

第一節 消費貸借

第二節 無期年金儲ノ契約

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第一款 任意寄託

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二節 保管

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二節 代理人ノ義務

第三節 委任者ノ義務

第四節 代理ノ終了

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約

乙百九十

二百三十三丁

全丁

二百三十六丁

二百三十七丁

全丁

全丁

二百三十九丁

全丁

全丁

二百四十一丁

二百四十二丁

二百四十三丁

全丁

二百四十五丁

二百四十六丁

二百四十八丁

二百四十九丁

第一節 雇傭契約

第二節 習業契約

第三節 仕事請負契約

第十三章 相続

總則

第一節 家督相続

第一款 家督相続ノ通則

第二款 家督相続人ノ順位

第三款 隱居家督相続ノ特別規則

第二節 遺産相続

第三節 國ニ属スル相続

第四節 相続ノ受諾及ヒ拋棄

第一款 單純ノ受諾

第二款 限定ノ受諾

第三款 拋棄

第四款 相続人ノ瑕疵セル相続財産ノ處分

第十四章 贈與及ヒ遺贈

○財産取得編

乙百九十一

二百六十六丁

二百六十五丁

二百六十四丁

全丁

二百六十二丁

全丁

二百五十九丁

二百五十七丁

全丁

全丁

全丁

二百五十六丁

二百五十三丁

二百五十二丁

全丁

總則

第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力

第二節 贈與

第一款 贈與ノ方式

第二款 贈與ノ廢絶

第三節 夫婦間ノ贈與ノ特例

第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

第二款 遺言ノ特別方式

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分

第四款 遺言ノ效力及ヒ執行

第五款 遺言ノ廢絶及ヒ失効

第五節 包括ノ贈與又ハ遺贈ニ基ク不分財産ノ分割

第一款 分割

第二款 分割ノ效力及ヒ擔保

第三款 分割ノ銷除

第十五章 夫婦財産契約

第一節 總則

第二節 法定ノ制

全	丁
二百六十七	丁
二百六十八	丁
二百六十九	丁
全	丁
全	丁
二百七十一	丁
二百七十二	丁
二百七十三	丁
二百七十四	丁
二百七十五	丁
二百七十六	丁
二百七十七	丁
全	丁
二百七十八	丁
全	丁
全	丁

財産取得編

總則

第一條 物上及ヒ對人ノ權利ハ財産編ニ規定シタル原因ニ由ル外尙ホ本編ノ規定ニ從ヒ之ヲ取得スルコトヲ得

第一章 先占

第二條 先占ハ無主ノ動産物ヲ已レノ所有ト爲ス意思ヲ以テ最先ノ占有ヲ爲スニ因リテ其所有權ヲ取得スル方法ナリ

第三條 狩獵、捕漁ノ權利ノ行使及ヒ漂流物、遺失物ノ取得ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス
既時ニ於ケル海陸ノ掠奪物ニ付テモ亦同シ

第四條 遺棄物ヲ先占シタリト主張スル者ハ原所有者ノ任意ノ遺棄ヲ證スル責ニ任ス

第五條 他人ニ屬スル物ノ中ニ於テ偶然ニ發見シタル埋藏物ハ所有者ノ知レサルトキハ其一半ヲ發見者ニ付與ス

埋藏物カ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者ノ權利ハ本章ノ規定ニ從フ

第六條 埋藏物ノ原所有者ハ發見後三ヶ年間ニ非サレハ前條ノ付與ニ反シテ自己ノ權利ヲ主張スルコトヲ得ス

此期間ハ原所有者カ埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ物ノ所有者タルニ於テハ其發見ヲ知リタル後一ヶ年間ニ之ヲ短縮ス

然レトモ埋藏物ノ占有者カ惡意ナルトキハ通常ノ時效ヲ適用ス

第二章 添附

○財産取得編

第七條 助産ト不動産トナ間ハス或ル物ノ所有者ハ其物ニ附從トシテ合シタル物ナ下ノ區別ニ從ヒテ取得ス

乙百九十四

第一節 不動産上ノ添附

第八條 建築其他ノ工作及ヒ植物ハ總テ其附著セル土地又ハ建物ノ所有者カ自費ニテ之ヲ築造シ又ハ栽植シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス
右建築其他ノ工作物ノ所有權ハ土地又ハ建物ノ所有者ニ屬ス但權原又ハ時效ニ因リテ第三者ノ得タル權利ヲ妨ケス

植物ニ關スル場合ハ第十條ノ規定ニ從フ

第九條 土地又ハ建物ノ所有者カ他人ニ屬スル材料ヲ以テ建築其他ノ工作ヲ爲シタルトキハ其工作物ヲ毀壞シテ材料ヲ返還スル強要ヲ受ケス又材料ノ本主ニ其取去ヲ強要スルコトヲ得ス
然レトモ右ノ所有者ハ財産編第三百八十五條ノ規定ニ從ヒテ材料ノ本主ニ償金ヲ拂フノ責ニ任ス

第十條 他人ニ屬スル草木ノ栽植ニ付テハ其栽植ヲ爲シタル土地ノ所有者又ハ占有者ハ一年内ニ其草木ヲ拔取リ且之ヲ返還スル強要ヲ受ク尙ホ損害アルトキハ之ヲ賠償ス
右草木ノ所有者カ其返還ヲ欲セス又ハ栽植ノ時ヨリ一个年ヲ經過シタルトキハ其所有者ハ償金ヲ受ク

第十一條 他人ノ土地又ハ建物ノ善意ノ占有者ニシテ其土地又ハ建物ニ自己ノ材料又ハ草木ヲ以テ築造又ハ栽植ヲ爲シタル者ハ所有者ヨリ不動産回復ノ請求ヲ受クルニ當リ其工作物又ハ草木ヲ取拂フ責ニ任セス所有者ハ其選擇ヲ以テ占有者ニ材料及ヒ手間賃ヲ拂ヒ又ハ不動産ノ増價額ヲ拂フ
築造又ハ栽植ヲ爲シタル者カ善意ノ占有者タリシトキハ所有者ハ工作物及ヒ草木ヲ除去シテ場所ヲ

舊狀ニ復セシメ且損害アルトキハ之ヲ賠償セシムルコトヲ得又所有者ハ前項ノ規定ニ從ヒ占有者ニ償金ヲ拂ヒテ右ノ工作物及ヒ草木ヲ保存スルコトヲ得

第十二條 舟筏ノ通ス可キト否トキハ河川ノ寄洲、中洲、干瀾ノ所有權又ハ水路ノ變換ニ因リ生スル浸没地及ヒ舊川床ノ所有權ノ歸屬ハ別ニ之ヲ定ム但海ノ干瀾ニ付テハ財産編第二十三條ノ規定ニ從フ

第十三條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ヲ以テ誘引セラレ又ハ停留セラレタルニ非スシテ他ノ池又ハ鳩舎ニ移リタルトキ其所有者カ自己ノ所有ヲ證シテ一週日間ニ之ヲ要求セサレハ其魚又ハ鳩ハ現在ノ土地ノ所有者ニ屬ス

第十四條 私有池ノ魚又ハ鳩舎ノ鳩カ計策ニ付テハ一週日間之ヲ追求スルコトヲ得
飼馴サレタルモ逃ケ易キ野禽ノ禽獸ニ付テハ善意ニテ之ヲ停留シタル者ニ對シ一ヶ月間其回復ヲ爲スコトヲ得

第二節 助産上ノ添附

第十四條 各別ノ所有者ニ屬スル數箇ノ助産物カ所有者ノ意ニ非スシテ第三者ニ因リテ附合セラレ其各物共ニ若シキ毀損又ハ減價ヲ受ケスシテ容易ニ分タル可キトキハ所有者ノ各自ハ其分離ヲ請求スルコトヲ得但損害アルトキハ附合ヲ爲シタル者之ヲ賠償ス
附合ノ爲メニセル物ノ變換ハ之ヲ毀損ト看做ス

第十五條 二箇ノ物カ分ツ可カラサルカ又ハ之ヲ分ツカ爲メ若シキ毀損、減價ヲ爲シ若クハ過分ノ費用、時日ヲ要スルトキハ孰レノ所有者モ分離ヲ請求スルコトヲ得スシテ其物ハ附合ノ儘ニテ主タル物ノ所有者ニ歸屬ス但此所有者ハ從タル物ノ所有者ニ損害ヲ加ヘテ已レナ利シタル限度ニ應ジ賠償

○財産取得編

乙百九十五

ヲ負擔ス

或ル物ノ便益、粧飾又ハ補完ノ爲メニ附合セラレタル物ハ之ヲ從タル物ト看做ス主從ノ區別ニ付キ疑アルトキハ價格ノ低キ物ヲ以テ從タル物トス

此他ノ場合ニ於ケル物ノ主從ノ區別ハ之ヲ裁判所ノ査定ニ委ス

第十六條 附合カ主タル物ノ所有者ノ過失又ハ詐欺ニ因リテ成リ前條ノ規定ニ從ヒテ其分離ヲ爲スコカラサルトキハ從タル物ノ所有者ノ受ク可キ賠償ハ財產編第三百七十條及ヒ第三百八十五條ニ依リテ其額ヲ定ム

從タル物ノ所有者カ附合ヲ爲シタルトキハ主タル物ノ所有者ノ利益ノ限度ニ應シテノ其損失ノ賠償ヲ受ク

第十七條 不都合ナシニハ物ヲ分離スルコトヲ得サル右同一ノ場合ニ於テ其性質、品質又ハ價格ニ固ルモ主從ノ區別ヲ爲シ難キトキハ其物ハ平等ノ權利ニテ各所有者之ヲ共有ス但過失又ハ惡意アル者ヨリ賠償ヲ受クルコトヲ妨ケス

第十八條 前數條ノ規定ハ各別ノ所有者ニ屬スル流動物、固形物又ハ金屬ノ混和ニモ亦之ヲ適用ス然レトモ分離スルコトヲ得サル物カ其性質及ヒ品質ノ同シキニ因リテ共有ト爲ル可キトキハ各自ノ權利ハ已レヨリ出テタル物ノ數量ノ割合ニ應ス

第十九條 附合又ハ混和カ所有者ノ一人ノ所爲ヨリ生スル場合ニ於テハ他ノ所有者ハ專屬ノ所有權ヲモ共有權ヲモ承諾スル責ニ任セス添附ヲ爲シタル者ニ對シテ同品質ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十條 或人カ他人ノ物料ヲ以テ新ナル用方ノ物ヲ作りタルトキハ物料ノ所有者ハ手間賃ヲ拂フテ

其物ノ所有權ヲ要求スルコトヲ得

然レトモ手間賃カ著シク物料ノ價額ヲ超ユルトキハ新ナル物ノ所有權ハ製作者ニ屬ス但製作者ハ物料ノ所有者ニ賠償スルコトヲ要ス

製作者カ物料ノ幾分ヲ供シタルトキハ其物料ノ價額ハ優先權ヲ定ムル爲メ之ヲ手間賃ニ合算ス

所有者ノ承諾ナクシテ物料ヲ用井タルトキハ其所有者ハ常に自己ノ優先權ヲ拋棄シテ同品質、同數量ノ物又ハ其代價ヲ要求スルコトヲ得

第二十一條 附合、混和又ハ製作カ所有者ノ明示又ハ默示ノ承諾ヲ以テ成ルトキハ所有權ハ合意ニ從ヒテ之ヲ定ム若シ疑アルニ於テハ分離カ容易ナリト雖モ其分離ヲ要求スルコトヲ得ス且優先權及ヒ共有權ニ關スル前數條ノ規定ヲ適用ス

第二十二條 前數條ニ定メサル動産物添附ノ場合ニ於テハ裁判所ハ前數條ノ規定ノ援引ス可キハ之ヲ援引シ且條理ニ基キテ所有權及ヒ賠償ノ點點ヲ審定ス

第二十三條 第五條ニ從ヒテ發見者ニ屬セサル埋藏物ノ部分ハ添附ニ因リテ其埋藏物ノ埋レ又ハ隠レタル所ノ動産又ハ不動産ノ所有者ニ屬ス

右動産又ハ不動産ノ所有者自身ニテ意外ニ發見シタル埋藏物ハ一半ハ先占ニ因リ一半ハ添附ニ因リテ全部其所有者ニ屬ス

所有者ノ所爲又ハ其指圖ヲ受ケ若クハ受ケサル第三者ノ所爲ニテ特ニ搜索ヲ爲スニ因リテ發見シタル埋藏物ハ添附ヲ以テ全部所有者ニ屬ス

原所有者ノ回復ニ對シ埋藏物ノ發見者ノ爲メ第六條ヲ以テ定メタル時効ハ右ノ場合ニ之ヲ適用ス

第三章 贖買

○財產取得編

第一節 買賣ノ通則

第一款 買賣ノ性質及ヒ成立

第二十四條 買賣ハ當事者ノ一方カ物ノ所有權又ハ其支配權ヲ移轉シ又ハ移轉スル義務ヲ負擔シ他ノ一方又ハ第三者カ其定マリタル代金ノ對價ヲ負擔スル契約ナリ

買賣契約ハ下ノ規定ニ從フ外有償且雙務ナル契約ノ一般ノ規則ニ從フ

第二十五條 買賣ハ當事者ノ承諾ノミヲ以テ完全ニ成立ス
然レトモ當事者ハ買賣ノ成立ヲ各自ノ證據ニ供スル公正證書又ハ私署證書ノ調製ノ條件ニ關シムルコトヲ得

第二十六條 讓渡又ハ買受ノ一方ノミノ豫約アルトキハ契約者カ財注結第三百八條ノ條件及ヒ區別ニ從ヒテ契約ノ取結ヲ要求スル時ヨリ諾約者ハ其豫約ニ於テ定メタル代價及ヒ條件ヲ以テ契約ヲ取結フ義務ヲ負擔ス

第二十七條 諾約者カ契約ヲ取結フコトヲ拒ムトキハ裁判所ハ買賣カ成立シタリトノ判決ヲ爲ス
不動產權ノ買賣ニ關スルトキハ其判決ヲ登記ス

讓渡ノ豫約ヲ登記シタルトキハ右判決ハ登記ニ之ヲ附記ス其登記ハ賣主ノ承認人ニ對シ既往ニ廻リテ効力ヲ生ス

第二十八條 讓渡及ヒ買受ノ相互ノ豫約アルトキハ當事者ノ一方ハ前條ニ從ヒ他ノ一方ニ對シテ契約ノ取結ヲ強要スルコトヲ得

裁判所ハ此場合ニ於テ當事者ノ意思ヲ解釋シ買賣ノ豫約カ即時ノ買賣ノ効ヲ有スルモノト判決シ又期間ノ定アルトキハ其期間ハ履行ノミニ適用セラルルモノト判決スルコトヲ得

第二十九條 前四條ニ從ヒ當事者ノ雙方又ハ一方カ日後讓渡及ヒ買受ノ契約ヲ取結フ義務又ハ單ニ證書ヲ作ル義務ヲ負擔シタル場合ニ於テ豫約ノ擔保トシテ手附ヲ授受シタルトキハ契約ヲ取結フコト又ハ證書ヲ作ルコトヲ拒ム一方ハ其與ヘタル手附ヲ失ヒ又ハ其受ケタル手附ヲ二倍ニシテ還償ス

第三十條 即時ノ買受ニ於テハ手附ハ之ヲ與ヘタル者ノ利益ノ爲メニノミ解約ノ方法ト爲ル但買主ノ與ヘタル手附カ金錢ナルトキハ其地ノ慣習ニテ之ニ解約ノ性質ヲ付スル場合ノ外合意ニテ此性質ヲ明示スルコトヲ要ス

契約ノ全部又ハ一分ノ履行アリタルトキハ如何ナル場合ニ於テモ解約ヲ爲スコトヲ得ス

第三十一條 試驗ニテ爲ス買受ハ事情ニ隨ヒ買主ノ同意ノ停止條件又ハ拒絕ノ解除條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得

試味ノ慣習アル日用品ノ買受ハ適意ノ停止條件ヲ帶ヒテ之ヲ爲シタルモノト推定ス

第三十二條 前條ニ定メタル二箇ノ場合ニ於テ買主カ已レニ屬スル權能ノ行使ニ付キ期限ヲ定メサルトキハ短キ期間ニ於テ決答ス可キ催告ヲ受ク若シ其決答ヲ爲サスシテ讓渡物ノ引渡ヲ受ケタルトキハ買主ハ受諾シタリトノ推定ヲ受ケ反對ノ場合ニ於テハ拒絕シタリトノ推定ヲ受ク

第三十三條 買受ノ代價ハ全額ヲ以テセサルモ其目安ヲ契約ニ定ムルコトヲ要ス
又其代價ハ或ハ同種類ノ商品ノ現時又ハ近日ノ市價ニ委テ或ハ契約ヲ以テ指定シタル第三者ノ評價ニ委ヌルコトヲ得

右評價カ錯誤ニ出テタルカ又ハ明カニ公平ニ反スルトキハ其評價ニ異議ヲ爲スコトヲ得但其異議ハ損失ヲ受ケタリト主張スル一方カ評價ヲ知りタル時直チニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第三者ト當事者ノ一方トノ間ニ共謀ノ欺詐アルトキハ財産第四百三十二條及ヒ第四百四十四條ノ規

○財産取得編

定ヲ適用ス

乙二百

當事者ハ元本又ハ無期若クハ終身ノ年金權ヲ以テ代價ヲ定ムルコトヲ得然レトモ第三者ハ元本ヲ以テスルニ非サレハ之ヲ定ムルコトヲ得ス但當事者カ明示ニテ一層限キ權限ヲ第三者ニ與ヘタルトキハ此限ニ在ラス

第三十四條 賣買契約ノ費用ハ當事者雙方平分シテ之ヲ負擔ス但雙方カ別段ノ定ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

第二款 賣渡又ハ買受ノ無能力

第三十五條 配偶者ノ間ニ於テハ動産ト不動産トヲ間ハス賣買ノ契約ヲ禁ス

配偶者ノ一方カ他ノ一方ニ對シテ負擔スル眞實且正當ナル債務ヲ消滅セシムルニハ相互ニ代物辨濟ヲ爲スコトヲ得

右代物辨濟ハ相當ノ説明ヲ爲セル後裁判所ノ認許ヲ得タルニ非サレハ配偶者ノ間ニ於テ有效且完全ナラス

又此代物辨濟カ不動産物權ヲ目的トスルトキハ其代物辨濟ハ登記中ニ右認許ヲ附記シタルニ非サレハ第三者ニ對シテ效力ヲ有セス

第三十六條 前條ニ基キタル銷除ノ權限ハ賣渡又ハ認許ナキ代物辨濟ヲ爲シタル配偶者、其相續人又ハ承繼人ノミニ屬ス但其權限ハ財產編第五百四十四條以下ノ一般ノ規則ニ從フ

第三十七條 法律上、裁判上若クハ合意上ノ管理人ハ直接ニ自己ノ名ヲ以テスルモ間介人ニ依ルモ賣渡ノ任ヲ受ケタル財産ニ付キ協議上又ハ競賣ノ上取者得ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ競賣ヲ處理シ又ハ指押スルコトヲ法律ニ依リテ任セラレタル公吏ニ之ヲ適用ス

第三十八條 前條ノ規定ニ背キタル賣買ノ銷除權限ハ原所有者、其相續人及ヒ承繼人ノミニ屬ス

第三十九條 判事、檢事及ヒ裁判所書記ハ爭ニ係ル物權又ハ人權ニシテ其職務ヲ行フ裁判所ノ管轄ニ屬ス可キモノノ取得者ト爲ルコトヲ得ス

此制禁ハ右同一ノ條件ヲ以テ辯護士及ヒ公證人ニ之ヲ適用ス

第四十條 前條ヨリ生スル銷除權限ハ賣渡人、權利ヲ爭フ相手方、其雙方ノ相續人及ヒ承繼人ニ非サレハ之ヲ行フコトヲ得ス

又權利ヲ爭フ相手方、其相續人又ハ承繼人ハ讓受人ニ讓渡ノ現價ト辨濟ノ日ヨリノ利息トヲ辨償シテ其權利ノ受戻ヲ爲スコトヲ得

右ノ規定ハ違背者ニ對スル懲戒ノ罰ヲ妨ケス

第三款 賣渡スコトヲ得サル物

第四十一條 賣買カ性質ニ因リテ一般ニ融通スルコトヲ得サル物又ハ特別法ヲ以テ各人ニ處分ヲ禁ムタル物ヲ目的トスルトキハ其賣買ハ無効ナリ

此賣買ノ無効ハ抗辯ニ依ルモ既ニ依ルモ當賣者各自ニ之ヲ援用スルコトヲ得

當事者ノ一方カ詐欺ヲ以テ賣買ノ制禁ナルコトヲ隠蔽シタルトキハ損害賠償ノ責任任ス

第四十二條 他人ノ物ノ賣買ハ當事者雙方ニ於テ無効ナリ

然レトモ賣主ハ賣買ノ際其物ノ他人ニ屬スルコトヲ知ラサルニ非サレハ其無効ヲ援用スルコトヲ得ス

第四十三條 賣買契約ノ當時ニ於テ物カ既ニ全部滅失シルタトキハ其賣買ハ無効ナリ但賣主カ此滅失ヲ知リタルトキ又ハ賣主ニ之ヲ知ラサル過失アルトキハ善意ノ買主ニ對スル損害賠償ヲ妨ケス

○財産取得編

物ノ一分ノ滅失ノ場合ニ於テ買主之ヲ知ラザリシトキハ買主ハ其選擇ヲ以テ或ハ殘餘ノ部分カ用方ニ不十分ナルコトヲ證シテ賣買ヲ銷除シ或ハ割合ヲ以テ代價ヲ減少シテ賣買ヲ保持スルコトヲ得但此二箇ノ場合ニ於テ賣主ニ過失アルトキハ其損害賠償ヲ妨ケス

賣買銷除ノ請求ハ買主カ一分ノ滅失ヲ知りタル時ヨリ六個月ヲ過キ又代價減少ノ請求ハ此時ヨリ二个月ヲ過クレハ之ヲ受理セス

第二節 賣買契約ノ效力

第一款 所有權ノ移轉及ヒ危險

第四十四條 賣買契約ハ賣渡物ノ所有權ノ移轉及ヒ其物ノ危險ニ付テハ附注編第三百三十一條、第三百三十二條、第三百三十五條及ヒ第四百十九條ニ定メタル如キ普通法ノ規則ニ從フ

第四十五條 賣買ノ目的カ不動産ナルトキハ其契約ヲ以テ賣主ノ特定且善意ノ承繼人ニ對抗スルニハ附注編第三百四十八條以下ノ規定ニ從ヒテ登記ヲ爲スコトヲ要ス

財產編第三百四十六條及ヒ第三百四十七條ハ右同一ノ目的ヲ以テ有體動産及ヒ債權ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第二款 賣主ノ義務

第四十六條 賣主ハ定量物ノ所有權ヲ移轉スル義務ノ外尙ホ賣渡、物ヲ引渡ス義務引渡ニ至ルマテ其物ヲ保存スル義務及ヒ妨得、追奪ニ對シテ買主ヲ擔保スル義務ニ任ス

第一則 引渡ノ義務

第四十七條 賣主ハ賣渡物ヲ其合意シタル時期及ヒ場所ニ於テ現存ノ形狀ニテ引渡ス責ニ任ス但其保存ニ付キ懈怠アルトキハ買主ニ對シテ賠償ヲ負擔ス

引渡ノ時期及ヒ場所ニ付キ合意ヲ爲サザリシトキハ附注編第三百三十三條第六項及ヒ第七項ノ規定ニ從フ

然レトモ買主カ代金籌濟ニ付キ合意上ノ期間ヲ得ザリシトキハ買主ハ其籌濟ヲ受ケルマテ賣渡物ヲ留置スルコトヲ得

賣主ハ代金籌濟ノ爲メ期間ヲ許與シタルトキト雖モ買主カ賣買後ニ破産シ若クハ無資カト爲リ又ハ賣買前ニ係ル無資カヲ隱秘シタルトキハ尙ホ引渡ヲ遲延スルコトヲ得

第四十八條 賣主ハ契約ニ定メタル數量ヲ過不足ナク引渡スコトヲ要ス

然レトモ下ノ數條ニ定メタル場合及ヒ區別ニ從ヒテ賣主又ハ買主ハ約シタル數量ヨリ多ク隱渡シ又ハ取得スル責ニ任ス

第四十九條 賣渡物カ特定不動産ニシテ契約ニ其全面積ヲ明言シ且各坪ノ代價ヲ指示シタル場合ニ於テ現實ノ面積カ指示ノ面積ニ不足アルトキハ買主ハ面積ヲ擔保セサル旨ヲ明言シタルトキト雖モ割合ヲ以テ代價減少ノ要求ニ服ス

第五十條 現實ノ面積カ指示ノ面積ニ超過アルトキハ買主ハ割合ヲ以テ代價補足ノ要求ニ服ス

第五十條 全面積ヲ明言シ唯一ノ代價ヲ以テ不動産ヲ賣渡シ其面積ノ不足ノ場合ニ於テ賣主ハ善意ナルトキ又ハ善意ナルモ面積ヲ擔保シタルトキ又ハ不足ノ坪數カ少ナクモ二十分一ナルトキニ非サレハ代價減少ノ要求ニ服セス

面積ヲ擔保セス又ハ面積ハ概算ナリトノ附記ハ善意ナル賣主ノ責任ヲ減セス

超過ノ場合ニ於テハ買主ハ其超過カ二十分一ニ及ヘルトキニ非サレハ代價補足ノ要求ニ服セス

第五十一條 建物ノ存スルト否トテ間ハス數箇ノ土地ヲ一箇ノ契約ヲ以テ其各箇ノ面積ヲ指示シ唯

ノ代價ニテ賣渡シタル場合ニ於テ其面積カ一箇ノ土地ニ超過アリ一箇ノ土地ニ不足アルトキハ其坪ノ箇數ニ從ハス價額ニ從ヒテ相殺ス

此相殺ノ後猶ホ原價二十分一ノ過不足アルトキハ割合ヲ以テ代價ヲ増加シ又ハ之ヲ減少ス

第五十二條 買主ハ面積不足ノ爲メ代價減少ニ付キ權利ヲ有スル場合ニ於テ尙ホ損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得又買主ハ約シタル面積カ其用方ニ必要ナルコトヲ設シテ契約ノ銷除ヲモ請求スルコトヲ得但面積ヲモ擔保セサル旨ヲ明言シタル賣買ハ此限ニ在ラス

超過ノ場合ニ於テ買主ハ二十分一以上ノ代價補足ヲ辨償スルコトヲ要スルトキハ單純ニ契約ヲ銷除スルコトヲ得

第五十三條 上ノ規則ハ目方ノ員數及ヒ尺度ヲ以テ指示シタル數量カ買主ニ於テ容易且即時ニ調査ノルコトヲ得サル日用品及ヒ動産物ノ賣買ニ之ヲ適用ス

第五十四條 前數條ヨリ生スル代價改正ノ損害賠償又ハ契約銷除ノ權限ハ不動産ニ付テハ一个年動産ニ付テハ一个月ノ期間ニ之ヲ行フコトヲ要ス

右期間ノ經過ハ賣主ニ在テハ契約ノ日ヨリ買主ニ在テハ引渡ノ日ヨリ始マル

第五十五條 動産又ハ不動産ノ賣買ニ於テ錯誤カ其物ノ品質ニ存スルトキハ財産編第三百十條ノ規定ヲ適用ス

第二則 追奪擔保ノ義務

第五十六條 他人ノ物ヲ賣買シタル場合ニ於テ擔保ノ事ニ付キ何等ノ特別ナル合意モ有ラザリシトキハ買主ハ未タ追奪ノ恐アルニ至ラザルトキト雖モ賣買無効ノ判決ヲ求ムルコトヲ得又買主ハ契約ノ

當時其物ノ賣主ニ屬セサルコトヲ知り賣主カ之ヲ知ラザリシトキト雖モ亦同シ

第五十七條 買主カ惡意ナリシトキハ賣買ノ無効及ヒ追奪擔保ノ效果ハ買主ニ其獨ホ負擔スル代金給濟ノ義務ヲ免カレシメ又ハ其既ニ辨償シタル代金ヲ取戻スコトヲ許スニ在ルノミ

買主ハ買受物ノ價格カ減少シタルトキト雖モ右取戻ニ於テ代金ノ減少ヲ受クルコト無シ但價格ノ減少カ自己ノ詐欺ニ出テ又ハ自己ノ利益ト爲リタルトキハ此限ニ在ラス

如何ナル場合ニ於テモ買主カ其辨償シタル代金ヲ取戻シタルトキハ物ノ占有ハ賣主ニ返還スルコトヲ要ス

第五十八條 買主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ右ノ外尙ホ左ノ諸件ノ辨償ヲ受ク

第一 買主ノ支拂ヒタル契約費用ノ部分

第二 買受物ニ付キ買主カ支拂ヒタル費用ニシテ所有者ヨリ其辨償ヲ受クルコトヲ得サルモノ

第三 買受物ニ生シタル増價額但意外ノ事ニ因ルモ亦同シ

第四 所有者ノ請求後ニ收取シ之ニ返還スルコトヲ要スル果實

然レトモ買主ハ果實ニ據ヘテ之ニ對當スル時期間ノ買代金ノ法律上ノ利息ヲ受クルコトヲ欲スルトキハ之ヲ請求スルコトヲ得

又善意ナル買主ハ此他所有者ノ回復ノ訴ニ對スル答辯ノ費用及ヒ擔保請求ノ費用等總テノ損害賠償ヲ普通法ニ從ヒテ請求スルコトヲ得

第五十九條 賣主ハ契約ノ當時善意ナリシトキハ財産編第三百八十五條ニ從ヒテ正當ニ豫見スルコトヲ得ヘカリシ限度ニ非サレハ前條ノ第三號第三號及ヒ其項ニ定メタル賠償ヲ負擔セス

第六十條 善意ナル賣主ハ契約後ニ賣渡物ノ他人ニ屬スルコトヲ覺知シタルトキハ買主ヨリ代金ヲ提

○財産取得編

供スト雖モ其物ノ引渡ノ請求ヲ受クルニ當リ賣買ノ無効ヲ申立テ且抗辯ノ方法ニ依リテ擔保ノ定方ノ判決ヲ求ムルコトヲ得但買主カ追奪ノ場合ニ於ケル求償權ヲ拋棄スル旨ヲ明白ニ陳述シタルトキハ此限ニ在ラス

第六十一條 右覺知カ引渡後ニ在リタルトキハ賣主ハ買主カ即時ニ擔保權ヲ行フヤ又ハ已レト立會ヒ第五十八條ニ從ヒテ現時負擔ノ賠償額ヲ評定スルヤニ付キ買主ヲ遲滯ニ付スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ賣主ハ其受取リタル代金ト共ニ右評價ノ金額ヲ提供シテ供託シタルトキハ縱令擔保ノ請求アルモ此他ノ責任ヲ負擔セズ

供託シタル金額ヲ引取ルノ權利ヲ財產編第四百七十八條ニ從ヒテ行使シタル賣主ハ再ヒ本條ノ許與セル機能ヲ援用スルコトヲ得ス

第六十二條 他人ノ物ノ賣主ハ日後其物ノ所有者ト爲リタルトキハ買主ヲシテ賣買ヲ認諾スルヤ擔保義務ヲ行フヤノ一ヲ擇マシムルコトヲ何時ニデモ催告スルコトヲ得

右同一ノ權利ハ他人ノ物ノ賣主ノ相続人ト爲リタル眞所有者ニ屬ス

第六十三條 買受物ノ分割ノ部分カ完全所有權又ハ虛有權ニテ第三者ニ屬スル場合ニ於テ買主カ此部分ヲ取得スルヲ得サルコトヲ知レハ初ヨリ其物ヲ買ハサル可キ程ニ其性質又ハ瑕疵ニ因リテ有益ナルコトヲ設スルトキハ全部追奪ノ爲メ定メタル如ク損害ノ賠償ヲ得テ契約ヲ解除スルコトヲ得

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ其受ケタル直捷且現時ノ損失ノ限度ニ於テ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第六十四條 買受物ノ不分ノ部分カ第三者ニ屬スルトキハ其部分ノ重要ノ如何ニ拘ハラズ買主ハ損害賠償ヲ得テ契約ヲ解除スル權利ヲ有ス

買主ハ契約ノ解除ヲ求メサルトキハ買受物ノ價格ノ減少シタルトキト雖モ常ニ此ニ對當スル買受代金ト契約費用トノ部分ヲ取戻シ又其價格ノ増加シタルトキハ其損害ノ賠償ヲ受ク

第六十五條 或ハ賣渡シタル土地ニ屬スルモノトシテ契約ニ於テ述ヘタル働方地役ノ追奪アリタルトキ或ハ契約ニ於テ述ヘサル人爲ヲ以テ設定シタル受方地役ニ關シ又ハ財產ノ一分ニ存スル利益權、賃借權ニ關シテ第三者ノ要求アリタルトキハ第六十三條ノ規定適用ス財產ノ全部ニ存スル利益權、又ハ賃借權ニシテ其經過不可キ殘餘時期カ建物ニ付テハ一介年土地ニ付テハ二介年ヲ超エサルモノニ關シテモ亦同シ

賣買ノ財產ノ全部ニ存スル利益權又ハ賃借權繼續ノ時期カ建物ニ付テハ一介年土地ニ付テハ二介年ヲ超エ可キトキハ買主ハ尙ホ自己ニ殘存セル權利ノ不十分ナルヲ設スルコトヲ要セスシテ前條ニ從ヒ賣買ヲ解除スルコトヲ得

第六十六條 契約ニ於テ述ヘタルト否トテ間ハズ賣渡シタル土地ニ先取特權又ハ抵當權ノ負擔アリテ買主カ其代金ノ辨濟ノ前又ハ辨濟ノ時其土地ヲシテ此負擔ヲ免カレシムル爲メニ必要ナル方式ヲ履行セサルニ因リ賣主ノ債權者ノ爲メニ所有權ヲ取上ケラタルトレキハ買主ハ賣主ニ對シテ第五十八條及ヒ第五十九條ノ規定ニ從ヒテ擔保ノ求償權ヲ有ス

第六十七條 差押ヘタル財產ノ競落人カ追奪ヲ受ケタルトキハ被差押人ニ對シテ代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得若シ被差押人カ無資力ナルニ於テハ代金ノ配當ヲ受ケタル債權者ニ對シテ其代金ノ返還ヲ求ムルコトヲ得

競落人ハ差押人カ差押ノ際ニ其財產ノ債務者ニ屬セサルコトヲ知リタルニ非サレハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得又債務者カ其財產ニ存スル第三者ノ權利ヲ詐欺ヲ以テ隱蔽シタルニ非サ

○財產取得編

レハ之ニ對シテ損害賠償ヲ要求スルコトヲ得ス

競賣條件書ノ調製及ヒ競落ノ處理ニ任シタル公賣ハ其賦分ヲ缺キタル爲メ買主ノ錯誤ニ惹起シタルニ非サレハ損害賠償ノ責ニ任セス

第六十八條 債權ノ賣主ハ當然自己ノ債權ノ存立及ヒ其有效ノ擔保ノ責ニ任ス

又賣主ハ明示ニテ債務者ノ有資力ノ擔保ヲ諾約シタルニ非サレハ其擔保ノ責ニ任セス

有資力ノ擔保ニ任シタル場合ニ於テモ賣主ハ債權カ既ニ満期ト爲リタルトキハ讓渡ノ日ニ於ケル有資力ノミニ付キ且受取リタル代金ノ限度ニ從ヒテ其責ニ任ス但一層廣大ナル擔保ノ明約ト專書ヲ以テ讓渡ス商證券ノ特別規則トチ妨ケス

未タ満期ト爲ラサル債權ノ讓渡ニ於テ讓渡人カ他ノ特約ナクシテ債務者ノ將來ノ有資力ヲ擔保シタルトキハ其擔保ハ満期ヨリ一今年又無期年金ニ付キテハ其讓渡ヨリ十今年ニテ截止ス

第六十九條 物權ト人權トチ間ハス爭ニ依ル權利ノ讓渡ニ於テハ讓渡人ハ特別ノ合意ナク且讓受人カ爭アルコトヲ知りタルトキハ其主張ノ虛構ナラサルコトヲ擔保スルノミニシテ讓渡シタル權利ノ眞ノ成立ヲ擔保セス

裁判上ト裁判外トチ間ハス本權ニ關スル明白ノ爭ノ目的タル權利ニ付テノミ右ノ規定ヲ適用ス讓渡人ハ其主張ノ虛構ナリシ場合ニ於テハ讓渡代金ノ返還ノ外讓受人カ正當ニ期望シタル利益ノ賠償ヲ負擔ス

第七十條 會社ニ於ルケ自己ノ權利ヲ讓渡シタル者ハ其權利ノ存立及ヒ其賣買契約ニ示セル權利ノ度缺ニ付テノミ擔保ノ責ニ任ス

會社ノ從前ノ營業ヨリ生シ既ニ清算済ト爲リタル賣主ノ權利及ヒ義務ハ買主ニ利害ノ關係ヲ及ボス

コト無シ

賣主ト會社トノ間ニ於ケル特別ノ計算ニ付テモ亦同シ

第七十一條 上ノ場合ニ於テ無擔保ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルトキト雖モ買主カ追奪ヲ受ケタルニ於テハ賣主ハ代金ヲ返還スル責ニ任ス但買主カ賣買ノ時ニ於テ追奪ノ危險アルコトヲ了知シタルトキハ賣主ハ此返還ヲ負擔セス

賣主ハ買主ノ危險負擔ニテ賣買スルトノ契約ヲ爲シタルコトノミニ因リテ亦代金ヲ返還スル責ヲ免カル

然レトモ如何ナル場合ニ於テモ又如何ナル約款ニ依ルモ賣主ハ賣買ノ前後ヲ開ハス第三者ニ授與シタル權利ヨリ生スル妨礙又ハ追奪ノ擔保ヲ免カルコトヲ得ス

第七十二條 賣主カ擔保ノ義務ノ全部又ハ一部分ヲ買主ノ惡意ノ故ヲ以テ免カレント主張スルトキハ賣渡物ニ關スル行爲カ第三者ノ利益ノ爲メニ登記有リシト雖モ其登記ノミニテハ買主ノ惡意ヲ證スルニ足ラス尙ホ賣主ハ登記官吏ノ認證書ニ依リ又ハ其他ノ方法ヲ以テ買主カ賣買ノ前ニ此行爲ヲ了知シタル直接ノ證據ヲ供スルコトヲ要ス

第七十三條 財産編第百九十九條及ヒ第四百條ハ擔保ノ爲メニスル賣主ノ召喚ニ付キ及ヒ追奪ヲ受ケタル買主カ擔保人ヲ訴訟ニ參加セシメサル爲メニ生スル失權ニ付キ之ヲ適用ス

第三款 買主ノ義務

第七十四條 買主ハ合意シタル時期ニ於テ代金ヲ辨済スルコトヲ要ス又其時期ニ付キ特別ノ合意ナキトキハ引渡ノ時ニ於テ之ニ辨済スルコトヲ要ス

引渡ヲ日後ニ延フルノ合意アルトキハ代金ノ辨済ヲモ略ニ日後ニ延フルモノト推定ス

○財産取得編

賣主カ引渡ノ爲メ恩惠期限ヲ裁判所ヨリ得タルトキハ買主ハ代金辨濟ノ爲メ同一ノ期間ヲ享有ス
代金辨濟ノ恩惠期限ハ引渡ノ爲メ賣主亦之ヲ享有ス

第七十五條 代金辨濟ノ場所ヲ合意セサルトキハ其辨濟ハ有體動産ニ付テハ引渡ヲ爲ス場所不動産
債權ノ争ニ係ル權利又ハ會社ニ於ケル權利ニ付テハ證書ノ交付ヲ爲ス場所ニ於テ之ヲ爲ス
引渡ノ前又ハ後ニ代金ノ辨濟ヲ要求スルコトヲ得ヘキトキハ其辨濟ハ買主ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第七十六條 買受物カ果實其他金錢ニ見稱ルコトヲ得ヘキ定期ノ利益ヲ生スルトキハ買主ハ引渡ノ時
ヨリ當然代金ノ利息ヲ負擔ス
反對ノ場合ニ於テハ利息ハ特別ノ合意又ハ辨濟ノ催告ニ依ルニ非サレハ之ヲ負擔セス

第七十七條 買主カ物上訴權ニ因リテ妨礙ヲ受ケ又ハ妨礙ヲ受クル恐アル正當ノ事由ヲ有スルトキハ
賣主カ其妨礙若クハ危險ヲ止マシムルマテ又ハ追尋アリタルニ於テハ代金ヲ返還スル爲メノ保證人
ヲ立ツルマテ買主ハ此訴權ノ輕重ニ從ヒテ代金ノ全部又ハ一分ノ辨濟ヲ拒ムコトヲ得
此規定ハ買主カ買受物ノ他人ニ屬スルヲ直接ニ證スルコトヲ得ルトキハ賣買無効ノ判決ヲ求メ及ヒ
擔保ノ訴權ヲ行フコトヲ妨ケス

第七十八條 買受ケタル不動産ニ付キ抵當權又ハ先取特權ノ登記アルトキハ買主ハ擔除ノ方式ヲ行フ
タル後ニ非サレハ代金ヲ辨濟スル賣主ハ但法律上ノ期間ニ於テ擔除ヲ行フコトヲ要ス

第七十九條 前二條ノ場合ニ於テ賣主ハ其先取特權及ヒ第三者ニ對スル解除ノ權利ヲ保存スル爲メノ
公示ヲ爲ササリシトキハ當事者雙方ノ名ヲ以テ賣主ヲシテ猶豫ナク代金ヲ供託セシムルコトヲ得但
其代金ハ當事者雙方ノ承諾又ハ裁判所ノ判決ニ依リ且諸手續ノ終了後ニ非サレハ之ヲ引取ルコトヲ
得ス

第八十條 動産物ノ買主カ代金ヲ辨濟シタルト否トナ間ハ引渡ヲ受ケル權利ヲ有スル時ニ於テ其引
渡ヲ受ケルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ財産編第四百七十四條乃至第四百七十八條ニ從ヒテ其引渡
物ノ提供及ヒ供託ヲ爲スコトヲ得
然レトモ日用品其他速ニ收損ス可キ物ニ付テハ賣主ハ買主ノ爲メ之ヲ轉賣スルコトヲ得ルトキハ其
轉賣ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 賣買ノ解除及ヒ銷除

第一款 義務ノ不履行ニ因ル解除

第八十一條 當事者ノ一方カ上ニ定メタル義務其他特ニ負擔スル義務ノ全部若クハ一分ノ履行ヲ欲キ
タルトキハ他ノ一方ハ財産編第四百二十一條乃至第四百二十四條ニ從ヒ裁判上ニテ契約ノ解除ヲ請
求シ且損害アレハ其賠償ヲ要求スルコトヲ得

當事者カ解除ヲ明約シタルトキハ裁判所ハ恩惠期限ヲ許與シテ其解除ヲ延ヘシムルコトヲ得然レ
トモ此解除ハ履行ヲ欲キタル當事者ヲ遲滯ニ付シタルモ猶ホ履行セサルニ非サレハ當然其効力ヲ生
セス

第八十二條 買主カ辨濟其他ノ義務ヲ缺キタル爲メノ解除ハ買主ノ猶ホ代金ノ全部若クハ一分ノ負擔
又ハ他ノ負擔ヲ明示シタル賣買證書ニ依リ登記ヲ爲シタルニ非サレハ賣主ヨリ轉得者ニ對シテ之ヲ
請求スルコトヲ得ス但債權擔保編第八十二條ノ規定ヲ妨ケス

第八十三條 辨濟期限ノ定アル動産ノ賣買ニ於テ其引渡ヲ實行シタルトキハ辨濟ヲ缺キタル爲メ賣主
ノ解除ノ權利ハ買主ノ他ノ債權者ヲ害シテ之ヲ行フコトヲ得ス
辨濟期限ノ定ナキ賣買ニ付テハ賣主ハ引渡ヨリ八日內ニ賣買ヲ解除スルコトヲ得然レトモ善意ナル

◎財産取得編

第三者ノ既得ノ物權ヲ害スルコトヲ得ス

第二款 受戻權能ノ行使

第八十四條 賣主ハ賣買證書ニ明記シタル受戻ノ約款ニ依リ買主ノ辨濟シタル代金ト費用ノ部分トヲ指定ノ期間ニ買主ニ返還スルニ於テハ其賣買ヲ解除ス可キコトヲ要約スルヲ得

右期間ハ不動産ニ付テハ五十年、動産ニ付テハ二年年ヲ超ユルコトヲ得ス此ヨリ長キ時期ノ要約ハ當然之ヲ此期限ニ短縮ス

一旦期間ヲ定メタル以上ハ右制限内ト雖モ之ヲ伸長スルコトヲ得ス

然レトモ其伸長ハ之ヲ再賣買ノ豫約ト看做スコトヲ得此場合ニ於テハ第二十六條及ヒ第二十七條ノ期定ニ從フ

賣買後ニ於テ爲シヌハ別證書ヲ以テ爲シタル受戻ノ要約ニ付テモ亦同シ

賣主ハ代金ノ半額以上ノ辨濟ノ爲メ期限ヲ與ヘ且其期限カ受戻ノ爲メ定メタル期間ノ半以上ニ及ヘルトキハ有效ニ受戻ノ權能ヲ要約スルコトヲ得ス

第八十五條 不動産ニ付テハ法律ノ定メタル期間ニ其定メタル條件ヲ以テ爲シタル受戻權能ノ行使ハ買主カ第三者ニ授與シヌハ第三者カ買主ノ權ニ基キテ取得シタル物權ヲ排除シテ其不動産ヲ賣主ニ復セシム但賃借權ニシテ殘期ノ一年年ヲ超エサルモノハ此限ニ在ラス

動産物ニ付テハ受戻ノ權能ハ善意ニテ其動産物上ニ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス

第八十六條 賣主ノ債權者ハ賣主ニ代ハリテ受戻ノ權能ヲ行フコトヲ得

然レトモ買主ハ右債權者カ豫メ其債務者ノ無資力ヲ證シ且財産編第三百三十九條ニ從ヒテ受戻權能

ノ行使ノ爲メ裁判上ニテ賣主ニ代位スルヲ要求スルコトヲ得

買主ハ同一ノ場合ニ於テ鑑定人ノ評價シタル買受物ノ現時ノ價額ト第八十八條ニ從ヒテ賣主ヨリ已レニ返還ス可キ金額トノ差額ニ違スルマテ賣主ノ債務ヲ辨濟シテ債權者ノ既止ニルコトヲ得

第八十七條 賣主カ受戻ノ約款ニテ賣渡シタル物ヲ日後抵當トシヌハ之ニ其他ノ物權ヲ負擔セシメタルトキハ其權利ノ效力ハ賣主又ハ其債權者ノ受戻權能ヲ行ヒタル後ニ非サレハ生セス

賣主カ受戻ニ服スル物ノ所有權ヲ讓渡シタルトキハ讓渡人ハ自己ノ名ヲ以テ受戻ヲ爲スコトヲ得然レトモ讓渡前ニ賣主カ他人ニ對シテ承諾シ且登記ヲ經タル此他ノ物權ヲ負擔スルコトヲ得ス但其他ノ保狀權ヲ失フコト無シ

第八十八條 賣主カ受戻ノ權能ヲ行ハントスルトキハ指定ノ期間ニ賣買代價及ヒ契約費用ノ外尙ホ物ノ保存費用ヲ買主ニ辨償スルコトヲ要ス

買主ナ右金額ヲ受取ルコトヲ拒ミタルトキハ賣主ハ猶豫ナク之ヲ供託スルコトヲ要ス

賣主ハ物ノ改良費用ヲモ辨償スルコトヲ要ス然レトモ裁判所ハ此辨償ニ付テハ賣主ニ猶豫ヲ許スコトヲ得

買主ハ右金額ノ皆得テ受クルマテ其物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第八十九條 不動産ノ共有者ノ一人カ其不分ノ部分ヲ受戻約款ニテ賣リタル場合ニ於テ買主カ他ノ共有者ヨリ促カサレタル競賣ニ因リテ競賣人ト爲リタルトキハ賣主ハ前條ニ掲ケタル金額ニ競賣ノ代金ヲ加ヘテ其不動産ノ全部ニ對スルニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ヌ又買主ハ之ニ故障ヲ遺フルコトヲ得ス

買主カ自ら競賣ヲ促シタルトキハ賣主ハ其賣渡シタル部分ニ付テノ受戻ヲ爲スコトヲ得又買主ハ

全部ノ受戻ニ故障ヲ遭フルコトナ

第九十條 教レヨリ競賣ヲ促カシタルト間ハス買主ニ非サル共有者ノ一人又ハ外人ノ競落シタル場合ニ於テ賣主ハ競賣ニ召喚セラレサリシトキハ其賣渡シタル部分ニ付テヨミ競落人ニ對シテ受戻ノ權利ヲ有シ之ニ反スルトキハ其權利ヲ失フ

第九十一條 現物ヲ以テ分割シタルトキ賣主カ其分割ニ召喚セラレタルニ於テハ賣主ハ教レヨリ分割ヲ促カシタルト間ハス他ノ所有者ニ歸シタル部分ニ付キ何等ノ要求ヲモ爲スコトヲ得スシテ買主ニ歸シタル部分ノミヲ受戻スコトヲ得但買主ノ供與シ又ハ受取りタル補足代金ヲ賣主買主ノ間互ニ計算スルコトヲ妨ケス

賣主カ分割ニ召喚セラレサリシトキハ賣主ハ選擇ヲ以テ或ハ其分割ヲ認諾シ買主ニ對シテ前項ニ示シタル權利ヲ行ヒ或ハ第八十八條ニ掲ケタル金額ヲ買主ニ賠償シ共有者ニ對シテ再分割ヲ促カスコトヲ得

第九十二條 不分割ノ共有者カ一箇ノ契約及ヒ唯一ノ代價ニテ其物ヲ受戻ノ約款ヲ以テ賣渡シタルト

キハ買主ハ一分ニ付キ受戻ヲ受クル得ナシ

又買主ハ賣主ノ一人ヨリ爲ス全部ノ受戻ニ故障ヲ遭フルコトヲ得

之ニ反シテ數人ノ共有者カ各別ノ契約ヲ以テ各自ノ部分ヲ賣渡シタルトキハ各別ニ受戻ヲ爲スコトヲ得但第八十九條及ヒ第九十二條ノ規定ハ之ヲ此場合ニ適用スルコトヲ得

第九十三條 數人ノ買主カ一箇ノ契約又ハ各別ノ契約ヲ以テ一箇ノ財産ヲ受戻ノ約款ニテ取得シタルトキ賣主カ買主ノ間ニ分割ヲ爲ササル前ニ受戻ヲ爲サント欲スルニ於テハ賣主ハ總買主ニ對シ又ハ一人若クハ數人ノ買主ニ對シテ其各自ノ部分ニ付キ受戻ヲ爲スコトヲ得

既ニ分割ヲ爲シタルトキハ賣主ハ各買主ニ對シ分割又ハ競賣ニ因リテ其各自ニ歸シタル部分ノミニ非サレハ受戻ヲ爲スコトヲ得ス

第三款 隠レタル瑕疵ニ因ル賣買廢却權

第九十四條 動産ト不動産トノ間ハス賣渡物ニ賣買ノ當時ニ於テ不表見ノ瑕疵アリテ買主之ヲ知ラズ又修補スルコトヲ得ス且其瑕疵カ物ヲシテ其性質上若クハ合意上ノ用方ニ不適當ナラシメ又ハ買主其瑕疵ヲ知レハ初ヨリ買受クサル可キ程ニ物ノ使用ヲ減セシムルトキハ買主ハ其賣買ノ廢却ヲ請求スルコトヲ得

此場合ニ於テハ買主ハ賠償代金ト契約費用トヲ取戻シ其代金ノ利息ハ請求ノ日ニ至ルマテノ物ノ收益又ハ使用ト之ヲ相殺ス

第九十五條 買主カ隠レタル瑕疵ノ賣買廢却權ヲ行フ可キ程ニ重大ナルヲ證スルコト能ハス又ハ物ヲ保有スルコトヲ欲スルトキハ買主ハ便益ヲ失フ割合ニ應シテ代價ノ減少ヲ請求スルコトヲ得

第九十六條 買主カ賣買ニ對シ賣買ノ廢却又ハ代價ノ減少ヲ得タルニ拘ハラズ賣主カ初ヨリ其瑕疵ヲ知リタルトキハ買主ハ尙ホ其受ケタル損害又ハ失ヒタル利益ニ付テノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

第九十七條 隠レタル瑕疵ヲ擔保セストノ要約ハ賣主ヲシテ初ヨリ自ラ了知シ且詐欺ヲ以テ隱秘シタル瑕疵ニ付テノ責任ヲ免カレシメス

第九十八條 賣買ノ當時ニ於テ物ニ瑕疵アリタルコト其瑕疵ヨリ買主ニ損害ヲ生シタルコト及ヒ買主又ハ賣主カ其瑕疵ヲ了知シタルコトハ入證、鑑定其他ノ法律上ノ證據方法ヲ以テ之ヲ證ス

第九十九條 賣買廢却 代價減少及ヒ損害賠償ノ限ハ左ノ期間ニ於テ之ヲ起スコトヲ要ス

第一 不動産ニ付テハ六個月

○財産取得編

第二 動産ニ付テハ三个月

第三 動物ニ付テハ一个月

右期間ハ引渡ノ時ヨリ之ヲ起算ス
然レトモ此期間ハ買主カ瑕疵ヲ知レル證據アリタル日ヨリ其半ニ短縮ス但其殘期カ此半ヲ超ユルト
キニ限ル

買主カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ右期間ニ隠レタル瑕疵ヲ覺知スル能ハサリシコトヲ證スルト
キハ其期間ノ滿了後ニ於テモ訴テ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ意外ノ事又ハ不可抗力ノ止ミタル時
ヨリ通常期間ノ三分一ヲ以テ新期間ト爲ス

第百條 隠レタル瑕疵ニ基キタル代價減少ノ訴權ハ買主カ買受物ヲ無償又ハ有償ニテ譲渡シタルモ之
ヲ失ハス但有償ノ譲渡ノ場合ニ於テハ其瑕疵ノ爲メ買主カ損失ヲ受ケタルトキ又ハ譲受人ヨリ訴ヘ
ラレ若クハ訴ヘラレルノ恐アルトキニ限ル

第百一條 譲渡物カ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ全部又ハ半以上滅失シタルトキハ賣買廢却既權ヲ
行フコトヲ得ス

滅失部分ノ多少ニ拘ハラズ代價減少ノ訴權ハ殘存部分ノ割合ニ應シテ存立ス

如何ナル場合ニ於テモ買主ハ隠レタル瑕疵ヨリ生スル全部又ハ一分ノ滅失ノ責ニ任ス

第百二條 合式ノ限制賣却ハ賣買廢却既權ヲモ代價減少既權ヲモ生セス

第百三條 或ル動物又ハ日用品ノ隠レタル瑕疵ニ付テハ特別法ヲ以テ其買賣上ノ效果ヲ定ムルニ至ル
マテ本法ノ規定ヲ適用ス

第四節 不分物ノ競賣

第百四條 不分財産ノ分割ヲ爲スニ當リ共有者ノ一人タリトモ現物ノ分割ヲ拒ム者アルトキハ其財産
ノ協議賣却又ハ競賣ヲ爲シ各共有者ノ權利ノ限度ニ應シテ其代金ヲ配當ス

第百五條 共有者カ其一人若クハ第三者ニ協議賣却ヲ爲シ又ハ相互ノ間ニ競賣ヲ爲スニ付キ一致ヲ得
ル能ハサルトキ又ハ共有者中ニ失踪者若クハ無能力者アルトキハ裁判所又ハ裁判所ノ指定シタル公
吏ノ前ニ於テ不分物ノ競賣ヲ爲ス但民事訴訟法ニ定メタル競賣方式ニ從フコトヲ要ス

共同競賣人ノ各自ハ當ニ競賣ニ外人ノ參與ヲ許スヲ要求スルコトヲ得共有者ノ一人カ失踪シ又ハ無
能力ナルトキハ外人ノ參與ハ當然且必要ナリトス

第百六條 共有者ノ一人カ不分物ノ全部ヲ取得シタルトキハ其競賣又ハ協議賣却ハ共有者間ノ分割ノ
行爲ト看做サレ會社ノ分割ニ關シ規定シタル效力ヲ生ス

第百七條 競落又ハ協議賣却ヲ爲シタルトキハ其賣買ハ第三者ト原共有者トノ間ニ於テ本章ニ規定シ
タル賣買ノ効力ヲ生ス

第四章 交換

第百七條 交換ハ當事者ノ一方カ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ヨリ取得シ又ハ之ヲシテ請約
セシメ其對價トシテ或ル物ノ所有權其他ノ權利ヲ他ノ一方ニ移轉シ又ハ移轉スルコトヲ請約スル契
約ナリ

相互ノ權利ノ價額カ均一ナラサルトキハ金錢其他ノ物ノ補足ヲ以テ之ヲ均一ニス
金錢ノ補足カ交換ニ供シタル物ノ價額ヲ超ユルトキハ其契約ハ之ヲ賣買ト看做ス

第百八條 當事者ハ交換ニ供シ又ハ請約シタル物又ハ權利ニ對スル妨礙及ヒ追奪ノ擔保ヲ相互ニ負擔
ス

當事者ノ一方カ他ノ一方ノ諾約シタル物又ハ權利ヲ取得スルコトヲ得サリシトキハ其諾約ヲ以テ或ハ金錢ノ對價ヲ要求スルコトヲ得或ハ契約ノ解除ヲ請求シテ自己ノ供與シタルモノヲ取戻スコトヲ得但孰レノ場合ニ於テモ損害アレハ其賠償ヲ受ク

右解除ノ權利ハ取戻ニ服スル不動産ニ付テ權利ヲ取得シタル第三者ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ス但財産編第三百五十二條第一項ニ從ヒテ請求ノ公示前ニ其第三者ノ權原ヲ登記アリタルトキニ限ル

第九條 買賣ノ規則ハ左ノ例外ヲ以テ交換ニ之ヲ適用ス
交換ハ配偶者ノ間ニ之ヲ爲スコトヲ許ス但交換物ノ價額ノ差カ間接ノ利益ヲ成ストキハ贈與ヲ禁制シ又ハ之ヲ制限スル規則ニ從フ

當事者ノ一方又ハ雙方カ指定ノ期間ニ於テ任意ニ交換ヲ解除スルコトヲ要約シタルトキハ第二十七條ニ依リ買賣ノ豫約ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ル條件ニ從フニ非サレハ其解除ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五章 和解

第十條 和解ハ當事者カ交互ノ讓合又ハ出捐ヲ爲シテ既ニ生シタル爭ヲ落着セシメ又ハ生スルコト有ル可キ爭ヲ豫防スル契約ナリ

和解ノ成立有效、效力及ヒ證據ハ下ノ規定ヲ除ク外合意ニ關スル一般ノ規則ニ從フ

第十一條 和解ハ法律ノ錯誤ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但其錯誤カ相手方ノ詐欺ニ起ス因ルトキハ此限ニ在ラス

第十二條 和解ハ偽造ノ書類又ハ無効ノ行爲ニ依リ承諾シタルコトヲ理由トシテ之ヲ銷除スルコトヲ得ス但此等ノ申立ヲ爲スヲ得ヘキ當事者ニ於テ其書類ノ偽造ヲ知ラス又ハ其行爲ヲ法律ニ於テ無

效ナラシムル所ノ事實ヲ知ラザリシトキハ此限ニ在ラス

第十三條 定マリタル爭ニ付キ爲シタル和解ハ新ニ發見シタル證據ニ因リテ當事者ノ一方カ爭ノ目的ニ付キ何等ノ權利ヲモ有セス又ハ他ノ一方カ其目的ニ付キ完全且爭フ可カラサル權利ヲ有スルコトノ顯ハレタルトキハ事實ノ錯誤ノ爲メ亦之ヲ銷除スルコトヲ得

確定シタル判決又ハ攻取スルヲ得サル契約ニ因リ既ニ爭ヲ落着シタル場合ニ於テ其判決又ハ契約ヲ知ラスシテ和解ヲ爲シタルトキモ亦同シ

然レトモ和解カ從前ノ原因ヨリ生スルコト有ル可キ總テノ爭ヲ落着セシメ又ハ之ヲ豫防スルヲ目的トシタルトキハ當事者ノ一方ノ利益タル確定證據ノ發見ハ其和解ノ銷除ヲ生セス但其證據カ相手方ノ所爲ニ因リテ控留セラレタルトキハ此限ニ在ラス

第十四條 有效ノ和解ハ當事者ノ相互ニ追認シタル權利又ハ利益ニシテ既ニ生シ又ハ豫見シタル爭ノ目的タルモノニ付テハ當事者間ニ在テハ確定判決ノ權利ト均シキ認定ノ效力ヲ生ス此場合ニ於テハ其權利又ハ利益ハ從前ノ原因ニ由リテ保持シタルモノト看做ス但當事者雙方ニ更改ヲ爲ス意思アリシトキハ此限ニ在ラス

之ニ反シテ相互ニ供與シ又ハ諾約シタル權利又ハ利益ノ全部若クハ一分ニシテ爭ノ目的タラザリシモノニ付テハ和解ハ物權又ハ人權ヲ生シ之ヲ移轉シ若クハ之ヲ消滅セシムル有價合意ノ規則ニ從フ

第六章 會社

第一節 會社ノ性質及ヒ設立

第十五條 會社ハ數人カ各自ニ適當ノ可キ利益ヲ收ムル目的ニテ或ル物ヲ共通シテ利用スル爲メ又ハ或ル事業ヲ成シ若クハ或ル職業ヲ營ム爲メ各社員カ定マリタル出資ヲ爲シ又ハ之ヲ諾約スル契約

○財産取得編

ナリ

第百十六條 商事會社ニ特別ナル規則ハ商法ヲ以テ之ヲ定ム

第百十七條 社員ノ出資ハ或ハ動産又ハ不動産ノ所有權若クハ收益權或ハ金錢又ハ技術、勞力ヲ以テスルコトヲ得

出資ハ不均一ナルコトヲ得

第百十八條 民事會社ハ當事者ノ意思ニ因リテ之ヲ法人ト爲スコトヲ得

此場合ニ於テハ會社ニ社名ヲ付シ且其契約ハ商事會社ノ公示ノ爲メ法律ニ規定シタル方式ニ從ヒテ之ヲ公示スルコトヲ要ス但社名ヲ付シ又ハ公示ヲ爲シタルトキハ其會社ヲ法人ト爲ス意思アリト推定ス

第百十九條 合意ノ一般ノ規則殊ニ當事者ノ承諾、能力、合意ノ目的、原因及ヒ證據ニ關スルモノハ會社ニ之ヲ適用ス

第百二十條 會社ハ其目的ノ商事ニ在ラサルモ資本ヲ株式ニ分ツトキハ商法ノ規定ニ從フ

第二節 社員ノ權利及ヒ義務

第百二十一條 會社ハ契約ノ日ヨリ開始ス但明示又ハ默示ニテ他ノ期限ヲ定メ又ハ條件ヲ附シタルトキハ此限ニ在ラス

各社員ハ會社ノ開始スル時ニ於テ其諸約シタル出資ヲ差入ルルコトヲ要ス之ヲ差入レザルトキハ其社員ハ出資ニ生スル果實及ヒ利息ヲ當然負擔ス且遲延ノ爲メ損害ヲ生シタルトキハ出資ノ金錢ヲ以テスルトキト雖モ其賠償ヲ負擔ス

第百二十二條 技術又ハ勞力ノ出資ヲ諸約シタル社員カ其諸約ヲ缺キタルトキハ其社員ハ他ノ社員ノ

選擇ニ從ヒ會社ニ對シテ或ハ其義務ノ履行ヲ缺キタル當時ヨリ會社ノ受ケタル損害ヲ賠償シ或ハ其勞力ヲ會社外ニ用ヰテ得タル利益ヲ分與スル責ニ任ス

第百二十三條 動産ト不動産トヲ間ハス特定物ノ所有權ヲ出資ト爲スコトヲ諸約シタル社員ハ會社ニ對シ賣主ト同シク其物ノ妨碍、追奪又ハ而積、數量ノ不足及ヒ隠レタル瑕疵ニ付キ擔保ノ責ニ任ス又社員カ物ノ收益權ノミヲ出資ト爲スコトヲ諸約シタルトキハ貸與人ト同シク擔保ノ責ニ任ス

第百二十四條 會社契約ヲ以テ社員中ヨリ一人又ハ數人ノ業務擔當人ヲ選任シタルトキハ其各員ハ受任ノ權限ヲ豫ムルコトヲ得ス

權限ノ定マラサル業務擔當人ハ共同又ハ各別ニテ通常ノ管理行為ヲ爲スニ止マル

又業務擔當人ハ會社ノ目的中ノ重要ナル行為ニ付テハ共同ニテ之ヲ爲スコトヲ得但異議アル場合ニ於テハ其行為ヲ中止シ總社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ決ス

第百二十五條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セザル場合ニ於テ總社員ノ一致ニテ之ヲ選任セザル間ハ社員ノ各自ハ前條ニ規定シタル行為ヲ其條件ニ從ヒテ爲ス權ヲ有ス

第百二十六條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ニ選任セラレタル社員ハ正當ノ原因アルトキ又ハ其承諾及ヒ總社員ノ同意ヲ得タルトキニ非サレハ委任ノ期限内ニ之ヲ解任スルコトヲ得ス
會社設立以後ノ契約ヲ以テ選任シタル業務擔當人ハ之ヲ選任シタルト同一ノ方法ヲ以テ其承諾ヲ要セズシテ之ヲ解任スルコトヲ得

第百二十七條 業務擔當人ヲ選任シタル方法ノ如何ヲ問ハス其中ノ一人又ハ數人ノ死亡、辭任又ハ解任アリテ此等ノ事件ノ爲メニ會社ノ解散セザルトキハ總社員ノ過半数ヲ以テ其補闕者ヲ選任ス
第百二十八條 右ノ外會社定款ノ執行ニ關スル總テノ處分ハ亦社員ノ過半数ヲ以テ之ヲ定ム

○財産取得編

定款ニ反スル行爲又ハ定款外ノ行爲ニ付テハ總社員ノ一致ヲ得ルヲ必要トス
本條ハ定款又ハ法律ノ之ニ反スル規定ヲ妨ケス

第三百二十九條 第三者カ會社ト業務擔當社員ノ一人トニ對シテ同性質ノ債務ヲ負擔シタルトキ其第三
者カ二箇ノ債務ヲ消滅セシムルニ足ラサル金額又ハ有價物ヲ此社員ニ轉渡スルニ於テハ其社員ハ會
社ノ債權額ト自己ノ債權額トノ割合ニ應スルニ非サレハ自己ノ債權ノ轉渡ニ之ヲ充當スルコトヲ得
ス但債務者ノ爲シタル充當ヲ變更スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ正當ノ利益ナクシテ社員ノ債權額ノ全部ニ充當シタルトキハ社員ハ其轉渡ノ額内
ヨリ右ノ割合ニ應スル部分ヲ會社ニ分與スル責ニ任ス

債務者又ハ社員カ有效ナル充當ヲ爲ササルトキハ財産編第四百七十二條ニ從ヒテ法律上ノ充當ノ規
則ヲ適用ス

第三百三十條 業務擔當人タルト否トナ問ハス社員ニシテ會社ノ債務者ヨリ會社ニ對スル債務ノ一分ヲ
受取リタル者ハ場合ノ如何ニ拘ハラズ會社ニ其利益ヲ得セシムルコトヲ要ス但自己ノ持分トシテ受
取證書ヲ與ヘタルトキト雖モ亦同シ

第三百三十一條 業務擔當人タルト否トナ問ハス各社員ハ其過失又ハ懈怠ニ因リテ會社ニ加ヘタル損害
ヲ賠償スル責ニ任ス

此損害ハ社員カ會社營業ノ他ノ事件ニ付キテ會社ニ得セシメタル利益ト相殺スルコトヲ得ス但其事
件ノ互ニ連絡シタルトキハ此限ニ在ラス

第三百三十二條 會社契約ヲ以テ業務擔當人ヲ選任セサルカ爲メニ業務ヲ取扱フ社員ハ自己ノ業務ニ於
ケルト同一ノ注意ヲ加ヘサルトキニ非サレハ其過失ノ責ニ任セス

第三百三十三條 各社員ハ會社資本中ニ於テ使用スルコトヲ得ル金額ナキトキハ會社ノ所屬物ニ關スル
必要及ヒ保持ノ費用ヲ自己ノ權利ノ割合ニ應シテ分擔スル責ニ任ス

第三百三十四條 業務擔當人タルト否トナ問ハス各社員ハ會社ヲシテ自己ノ出資外ニ會社ノ爲メ有益ニ
立替ヘタル金額ヲ返還セシメ又ハ會社ノ利益ノ爲メ善意ニテ負擔シタル義務ヲ認諾セシメ又ハ會社
ノ營業ノ爲メ自己ノ財産ニ受ケタル避ケルヲ得サル損害ヲ賠償セシムルコトヲ得

第三百三十五條 會社營業ノ爲メ社員ノ立替ヘタル金額ハ其使用ノ日ヨリ當然利息ヲ生ス
之ニ反シテ各社員ハ自己ノ營業ノ爲メ會社資本中ヨリ引出シタル金額ニ付テハ當然會社ニ對シテ其
利息ヲ負擔シ尙ホ損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

第三百三十六條 社員ハ會社解散ノ際ニ現在スル資本ニ於ケル各自ノ持分ヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ
以テ隨意ニ定ムルコトヲ得但第三百三十八條ニ掲ケタル二箇ノ場合ハ此限ニ在ラス

第三百三十七條 社員ハ其一人又ハ數人ノ持分カ利益及ヒ損失ニ於テ同一ナラサルヲ合意スルコトヲ得
然レトモ利益ノミヲ豫見シテ右ノ持分ヲ定メタルトキハ損失ニ付テモ同一ノ定方ヲ合意シタリトノ
推定ヲ受ク

如何ナル場合ニ於テモ受ケタル損失ヲ控除シ會社ノ貸方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ配當ス可キ
利益ト看做サス又右貸方ヲ竭シタル後借方トシテ殘ル所ノモノニ非サレハ損失ト看做サス

然レトモ會社ノ存立中ニ詐害ナクシテ既ニ爲シタル利益又ハ損失ノ一分ノ配當ハ之ヲ變更セス

第三百三十八條 會社資本ノ全部又ハ會社ノ得タル利益ノ全部ヲ社員中ノ一人ニ歸ス可キ約款ハ無効ナ
リ

技術又ハ勞力ヲ出資ト爲シタル社員ニ非サル社員ニ全ク損失ノ負擔ヲ免レシム可キ約款モ亦同レ

○財産取得編

會社契約ニ右ノ約款ヲ附記シタルトキハ其約款ハ契約ヲシテ全ク無効ナラシム又日後ニ右ノ約款ヲ追加シタルトキハ其約款ハ契約ノ存立ヲ妨ケスシテ會社ノ清算ハ第四百四十一條ニ從ヒテ之ヲ爲ス

第三百二十九條 社員ハ自己ノ選任セシ又ハ選任ス可キ社員又ハ外人タル一人若クハ數人ノ仲裁人ヲシテ會社解散ノ際各自ノ持分ヲ定メシムルコトヲ會社契約又ハ其後ノ契約ヲ以テ合意スルコトヲ得仲裁人ノ爲シタル定方ハ仲裁人カ仲裁ノ適法ノ方式又ハ仲裁契約ヲ以テ授ケラレタル條件ヲ履行セサルカ又ハ明カニ公平ヲ失シタルトキニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得ス

右定方ノ無効ノ請求ハ此ニ因リテ害ヲ受ケタリト主張スル社員ニ在テハ其社員カ定方ノ執行ニ加ハリタルトキ又ハ其定方ヲ知リタルヨリ三ヶ月ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第四百十條 會社契約ヲ以テ持分ノ定方ヲ仲裁人ニ委任ス可キコトヲ定メタル場合ニ於テ少ナクトモ社員ノ過半数カ仲裁人ヲ選任スルコトニ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ其選任ヲ爲ス

選任セラレタル仲裁人カ定方ヲ爲スコトヲ欲セス又ハ之ヲ爲スコト能ハサルニ當リ社員カ其改選ニ付キ一致セサルトキモ亦同シ

第四十一條 社員自身ニテ若クハ仲裁人ヲ以テ持分ノ定方ヲ爲サス又ハ仲裁人ノ定方ノ無効ト爲リタルトキハ會社資本及ヒ利益又ハ損失ハ社員ノ出資額ノ割合ニ應ジテ之ヲ配當ス

社員ノ出資ト爲シタル技術又ハ勞力ノ評價ヲキトキハ裁判所ハ各般ノ事情ヲ斟酌シテ其出資ノ價額ヲ定ム

技術又ハ勞力ト財産ト出資ト爲シタル社員ハ前項ニ定メタル價額ノ外尙ホ其財産ノ價額ニ從ヒテ計算シタル持分ノ配當ヲ受ク

第四百十二條 各社員ハ自己ノ持分ニ第三者ヲ組合サシムルコトヲ得又其持分ヲ買入シ又ハ之ヲ讓渡スコトヲ得然レトモ此等ノ行爲ハ之ヲ以テ會社ニ對抗スルコトヲ得ス但會社契約ヲ以テ社員ニ此種利ヲ認許シタルトキハ此限ニ在ラス此場合ニ於テ會社社員ノ讓渡サント欲スル持分ヲ消却スル爲メ先買權ヲ留保シタルトキハ自己ノ持分ヲ讓渡サントスル社員ハ會社カ其先買權ヲ行フカ拋棄スルカニ付之ヲ遲滞ニ付スルコトヲ要ス

第四百十三條 業務擔當人カ會社ノ名ヲ以テ又ハ會社ノ營業ノ爲メ有效ニ負擔シタル義務ハ會社カ法人ヲ成セルトキハ各社員ノ一身上ノ債權者ニ先タチ會社資本ヲ以テ之ヲ擔保ス

會社資本ノ不十分ナル場合又ハ既追償權者ニ其資本ヲ示ササル場合ニ於テハ總社員ハ連帶シテ會社ノ義務ヲ負擔ス會社カ法人ヲ成ササルトキモ亦同シ

第三節 會社ノ解散

第四百十四條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ當然解散ス

第一 會社契約ヲ以テ指定シタル期間ノ滿了又ハ解除條件ノ成就

第二 會社ノ目的タル事業ノ成功又ハ其成功ノ不能

第三 會社資本ノ全部又ハ半額以上ノ損失

第四 社員ノ一人ノ技術、勞力又ハ收益ヲ以テスル繼續ノ出資ヲ爲スノ不能

第五 社員ノ一人ノ死亡、禁治産、破産又ハ顯然ノ無資力但第四百十七條ノ規定ヲ妨ケス

第四百十五條 會社ハ左ノ諸件ニ因リテ之ヲ解散スルコトヲ得

第一 如何ナル場合ヲ問ハズ社員ノ一致ノ意思

○財産取得編

第二 會社ニ明示又ハ默示ノ一定ノ期間ナキ場合ニ於テ惡意ニ非ス又不都合ノ時期ニ非スシテ解散ノ請求ヲ爲ストキハ社員一人ノ意思

第三 會社ニ一定ノ期間アルトキト雖モ社員ノ一人ノ義務不履行ニ基キタル解除ノ訴又ハ正當ノ理由ニ基キタル解散ノ請求

第四百十六條 社員ハ會社ノ期間ノ滿了前ニ明示又ハ默示ニテ其期間ヲ伸長スルコトヲ得默示ノ伸長ハ一定ノ期間ノ滿了後ニ於テ社員ノ一人タモ故障ヲ爲サスシテ會社營業ノ繼續シタル事實ヨリ生スルコトヲ得此場合ニ於テ會社ハ前條第二號ニ從ヒ社員ノ一人ノ意思ヲ以テ之ヲ解散スルコトヲ得
第四百十七條 社員ハ第四百十四條第五號ニ掲ケタル原因ニ由リテ會社ヲ解散セス且社員ノ持分ヲ定メ他ノ社員ニテ之ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得
又社員ハ死亡シタル社員ノ相続人又ハ無能力ト爲リタル社員ト共ニ會社ヲ繼續スルヲ合意スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ相続人又ハ無能力者ノ合式ノ代人ノ新ナル承諾ヲ要ス

第四節 會社ノ清算及ヒ分割

第四百十八條 會社ノ解散シタルトキハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ清算ヲ請求スルコトヲ得
清算ハ分割前ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但社員ノ多數カ全部又ハ一分ノ分割ヲ先ニスルコトヲ請求シタルトキハ此限ニ在ラス

又會社ノ各債權者ハ清算前ニ分割ヲ爲スコトニ付キ故障ヲ申立ツルコトヲ得

第四百十九條 清算ハ左ノ諸件ヲ包含ス

第一 着手シタル業務ノ成就

第二 會社ノ債務ノ總額及ヒ其債權ノ取立

第三 各社員ト會社トノ間ノ特別ナル計算

第四 分割ス可キ貸方又ハ負擔ス可キ借方ニ於ケル各社員又ハ其代人ノ持分ノ指定

第四百五十條 會社契約ニ清算人ノ選任及ヒ其權限ニ關スル約款ナキトキハ清算ハ或ハ總社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ委任シタル一人若クハ數人ノ社員之ヲ爲シ或ハ社員ノ一致ヲ以テ選任シタル第三者之ヲ爲ス

社員カ清算人ノ選任ニ付キ一致セサルトキハ裁判所ニ於テ之ヲ選任ス

第四百五十一條 清算人ハ如何ナル場合ナ間ハ迅速ニ毀損又ハ滅盡ス可キ物ヲ讓渡スコトヲ要ス
滿期ト爲リタル債務ノ總額ノ爲メ必要ナルトキハ其他ノ動産ヲ讓渡スコトヲ得
不動産ニ付テハ清算人ハ社員ノ特別ナル委任ヲ受クルニ非サレハ之ヲ抵當トシ又ハ讓渡スコトヲ得

前項ノ讓渡ハ競賣競落ニ依ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得但協議上ノ讓渡ヲ許シタル場合ハ此限ニ在ラス孰レノ場合ニ於テモ社員ノ過半数ヲ以テ決スルコトヲ要ス

清算人ハ社員ノ名ヲ以テ原告又ハ被告トシテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

清算人カ會社ノ債務又ハ債權ニ付キ承諾シタル和解及ヒ仲裁ハ第三者ト通謀シタル詐欺ノ爲メニ非サレハ之ヲ攻撃スルコトヲ得

第四百五十二條 清算ニ於ケル總計算ハ社員ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

右ノ計算ヲ認可スルニハ社員ノ過半数ノ議決ヲ以テ足レトス

此議決ハ總計算ニ付キ之ヲ爲シ又ハ計算ノ或ル部分ニ付キ各別ニ之ヲ爲スコトヲ得

○財産取得編

認可ヲ得サル計算ニシテ仕直スコトヲ得ヘキモノナルトキハ清算人其費用ヲ以テ之ヲ爲ス若シ仕直スコトヲ得サルトキハ清算人ハ代理ノ規則ニ從ヒ其過失ニ因リテ加ヘタル損害ノ責ニ任ス
清算人ノ受任シタル權限ニ依リ又ハ前條ニ從ヒテ爲シタル行爲ハ善意ナル第三者ニ對シテ之ヲ取消スコトヲ得ス

第五百十三條 會社ノ清算後ハ不分ニテ存スル財産ノ分割ハ社員ノ各自又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得但當事者カ財産編第三十九條ニ從ヒ不分ニテ存スルコトヲ會社ノ解散後ニ合意シタルトキハ此限ニ在ラス

第五百十四條 分割部分ノ定方又ハ其配付ニ付キ當事者ノ一致セサルトキハ財産共通ノ分割ノ爲メ別ニ定メタル規則ニ從フ

第五百十五條 會社資本中ノ物ニテ分割ニ依リ各社員ニ歸シタルモノニ關スル其社員ノ權利ハ會社解散ノ日ニ遡リテ効力ヲ有シ又清算中他ノ社員ヨリ其物ニ付キ第三者ニ授與シタル權利ハ之ヲ解除ス
第五百十六條 分割者ハ分割ニ因リテ取得ス可キ權利ノ上ニ受クルコト有ル可キ妨礙及ヒ追奪ニ付キ其各自ノ部分ニ應シテ相互ニ擔保ヲ爲ス

分割者ノ一人カ無資力ナルトキハ其一人ノ負擔シタル賠償ノ部分ハ被擔保人ヲ併セテ他ノ共同分割者ノ間ニ之ヲ分ツ

第七章 射倖契約

總則

第五百十七條 射倖契約トハ當事者ノ雙方若クハ一方ノ損益ニ付キ其効力カ將來ノ不確定ナル事件ニ關ル合意ヲ謂フ

第五百十八條 射倖契約ニハ其性質ニ因ルモノ有リ當事者ノ意思ニ因ルモノ有リ

博戲賭事終身年金權其他終身權利ノ設定陸上海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ性質ニ因ル射倖ノモノナリ

此他成立又ハ効力ヲ停止又ハ解除ノ偶成ノ條件ニ關ラシムル契約ハ當事者ノ意思ニ因ル射倖ノモノナリ

第五百十九條 陸上海上ノ保險及ヒ冒險貸借ハ商法ヲ以テ之ヲ規定ス

第一節 博戲及ヒ賭事

第六十條 博戲ハ博戲者ノ勇氣力量巧技ヲ發達ス可キ性質ナル體操運動ヲ目的トスルニ非ラザレハ其義務履行ノ爲メ訴權ヲ許サス

賭事ニ基ク訴權ハ右ノ如キ體操運動ヲ爲ス人ノ爲メ又ハ賭者ノ直接ニ關係スル農工商業ノ進歩ノ爲メニ非サレハ亦之ヲ許サス

右ノ博戲又ハ賭事ニ於テ諾約シタル金額又ハ有價物カ專斷ニ照シテ過度ナリト見ユルトキハ裁判所ハ之ヲ減少スルコトヲ得スシテ全ク其請求ヲ棄却スルコトヲ要ス

第六十一條 前條ノ場合ノ外博戲及ヒ賭事ハ自然義務ヲモ生セス且其債務ノ追認更改又ハ保證ハ總テ無効ナリ

然レトモ右博戲又ハ賭事ニ因ル有能力者ノ任意ノ辨濟ハ之ヲ取戻スコトヲ許サス但勝者ニ於テ詐欺又ハ欺瞞アリタルトキハ此限ニ在ラス

第六十二條 官許ヲ得サル富麗ハ訴權ナキ博戲及ヒ賭事ト同視ス
商品又ハ公ノ證券ノ授機ノ定期賣買ニ付テモ初ヨリ當事者カ諾約シタル金額又ハ有價物ノ引渡及ヒ

○財産取得編

辨濟ヲ實行スルニ欲ナク單ニ相場昂低ノ差額ヲ計算スルノミチ目的トシタルコトヲ被告ノ証スルトキモ亦同シ

第百六十三條 前二條ノ場合ニ於テ被告ヨリ無効ノ抗辯ヲ申立テサルトキハ判事ハ無効ヲ以テ其無効ヲ言渡スコトヲ得但契約又ハ請求ニ於テ博識富識又ハ相場差額ノ賭事カ債務ノ原因タルコトヲ明言セシトキニ限ル

第二節 終身年金權

第一款 終身年金權ノ設定

第百六十四條 終身年金權ハ動産若クハ不動産ナル元本ノ讓渡ノ報酬又ハ既往若クハ將來ノ勤勞ノ報酬トシテ有償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

又贈與又ハ遺贈ヲ以テ無償ニテ之ヲ設定スルコトヲ得

又終身年金權ハ有償又ハ無償ニテ讓渡シタル元本ノ上ニ留存シテ之ヲ設定スルコトヲ得

第百六十五條 終身年金權ハ對價物ノ供與者ニ非サル人ノ利益ノ爲メ之ヲ要約スルコトヲ得

此場合ニ於テハ要約者ト諾約者トノ間ニ在テハ有償契約ノ規則ニ從ヒ要約者ト得益者トノ間ニ在テハ贈與ノ規則ニ從フト雖モ贈與ノ方式ニ從フコトヲ要セス

第百六十六條 終身年金權ハ債權者若クハ債務者ノ終身ヲ期シ又ハ第三者ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得

此末ノ場合ニ於テ契約カ有償ナルトキハ其成立ニ付キ第三者ノ承諾ヲ必要トス然レトモ此承諾前ニ辨濟シタル年金ハ之ヲ取戻スコトヲ得ス

第百六十七條 終身年金權ハ同時又ハ順次ニ數人ノ債權者ノ終身ヲ期シテ之ヲ設定スルコトヲ得

此場合ニ於テハ財産編第百條ノ利益權ニ關スル期定ヲ適用ス

第百六十八條 有償ノ終身年金權ノ契約ハ其設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ死亡シタルトキハ當事者雙方其死亡ヲ知ラスト雖モ無効ナリ

右ノ人カ合意ノ當時ニ於テ既ニ罹レル疾病ノ爲メ六十日內ニ死亡シタルトキハ其契約ハ當然之ヲ解除ス

第百六十九條 無償ノ終身年金權ハ設定者ニ於テ之ヲ讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルモノト定ムルコトヲ得

右約款ハ設定證書ニ記入シタルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

差料トシテ無償ニテ設定シタル終身年金權ハ當然讓渡スコトヲ得ス且差押フルコトヲ得サルモノナリ

本條ノ規定ハ贈與者ノ利益ノ爲メ贈與財産ノ上ニ留存シタル終身年金權及ヒ支拂時期ノ至リタル年金ニ之ヲ適用セス

第百七十條 終身年金權ノ讓渡及ヒ差押ノ禁止ハ其一事ノミチ要約シタルトキト雖モ二事共ニ存立ス

第百七十一條 債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ生存中ハ其年金權ノ年金ヲ支拂フコトヲ要シ且買戻ヲ爲スコトヲ得ス但其買戻ニ付キ特別ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第百七十二條 年金ハ毎月又ハ此ヨリ長キ時期ニ於テ其支拂ヲ爲スコキト雖モ債權者日割ヲ以テ之ヲ取得ス

然レトモ年金ヲ前拂ス可キトキハ債務者ハ既ニ支拂時期ノ始マリタル全一期分ヲ負擔ス

○財産取得編

第百七十三條 債權者ハ解除ノ權利ヲ留保セサルトキハ年金支拂ノ欠缺ノ爲メ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得ス只其債務者ノ財産中ニ於テ年金ヲ受クルニ足ル可キ部分ヲ差押ヘ之ヲ賣却セシメ其賣却代金ヨリ生スル利息ヲ以テ年金ノ支拂ニ充ツルコトヲ得但他ノ債權者ノ競取ヲ拒ムコトヲ得ス終身年金權ヲ無償ニテ設定シ又ハ贈與若クハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタルトキモ亦右ト同一ニ處辨ス

第百七十四條 終身年金權ノ債務者ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ支拂ノ時期ニ生存セシコトヲ債權者ヨリ生存認證書ヲ以テ證セサルトキハ其年金ノ支拂ヲ拒ムコトヲ得此認證書ハ其人ノ現住地ノ受持公證人又ハ身分取扱人ノ之ヲ交付ス

第三款 終身年金權ノ消滅

第百七十五條 有償ノ終身年金權ノ債務者カ年金支拂ノ爲メ附約シタル擔保ヲ供セヌ又ハ供シタル擔保ヲ減少スルトキハ債權者ハ契約ノ解除ヲ請求スルコトヲ得但既ニ取得シタル年金ヲ返還スル價ヲシ

贈與又ハ遺贈ノ元本ノ上ニ留存シタル終身年金權ノ債權者モ亦右ト同一ノ權利ヲ有ス右ノ解除ハ年金權ノ設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人カ確定判決前ニ死亡シタルトキハ之ヲ宣告セ

第百七十六條 普通法ニ於テ許シタル銷除及ヒ廢權ノ原因ハ終身年金權ニ之ヲ適用ス

終身年金權ハ此他尙ホ更改ノ合意上ノ免除ノ混同ノ時效及ヒ要約シタル受戻ニ因リテ消滅ス然レトモ終身年金權カ第百六十九條及ヒ第百七十條ニ從ヒ法律又ハ人爲ニ依リテ消滅スコトヲ得ス又ハ差押フルコトヲ得サルモノナルトキハ其年金權ハ時效ニ罹ラス

如何ナル場合ニ於テモ年金ハ支拂時期後五ヶ年ニシテ時效ニ罹ル

第百七十七條 終身年金權ハ其設定ノ爲メ終身ヲ期セラレタル人ノ死亡ニ因リテ消滅ス但第百六十八條ノ規定ヲ妨ケス

然レトモ終身ヲ期セラレタル人カ債務者ノ責ニ歸ス可キ不正ノ原因ニ由リテ死亡シタル場合ニ於テ其年金權ヲ有償ニテ又ハ贈與若クハ遺贈ノ負擔トシテ設定シタルトキハ其契約又ハ遺與ハ之ヲ解除ス且債務者ハ既ニ支拂ヒタル年金ヲ取戻サスシテ其取得シタル財産ヲ返還スルコトヲ要ス右ト同一ノ死亡ノ場合ニ於テ其年金權ヲ直接ニ贈與シ又ハ遺贈シタルトキハ其年金ノ支拂ハ裁判所カ終身ヲ期セラレタル人ノ生命ノ繼續期ト推測スル期間之ヲ繼續セシム

第八章 消費貸借及ヒ無期年金權

第一節 消費貸借

第百七十八條 消費貸借ハ當事者ノ一方カ代替物ノ所有權ヲ他ノ一方ニ移轉シ他ノ一方カ或ル時期後ニ同數量及ヒ同品質ノ物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ

第百七十九條 當事者カ返還ノ時期ヲ定メザリシトキハ裁判所ハ當事者ノ意思ヲ推測シ且事情ヲ斟酌シテ之ヲ定ム

返還ノ場所ノ定マラザリシトキハ無利息ノ貸借ニ付テハ貸主ノ住所又利息附ノ貸借ニ付テハ借主ノ住所ニ於テ其返還ヲ爲ス

第百八十條 不可抗力ニ因リテ借用物ヲ返還スルコト能ハサルトキハ借主ハ其物ノ不可抗力ニ罹リシ日及ヒ場所ノ相場ニ從ヒテ算定シタル其物ノ價額ヲ負擔ス

第百八十一條 貸主ニ屬セサル物ノ貸借ハ無効ナリ其貸借カ利息附ニシテ且借主カ善意ナリシトキハ

○財産取得編

一 貸主ハ借主ニ對シテ擔保ノ責ニ任ス

然レトモ此貸借ハ左ノ場合ニ於テハ有效ナリ

第一 借主カ善意ニテ借用物ヲ消費シタルトキ

第二 借主カ時効ニ因リ眞所有者ノ回復ノ請求ヲ排却シタルトキ

第三 眞所有者カ貸借ヲ認諾シタルトキ

乙二百三十四

第百八十二條

貸借物ニ借主ノ了知セスシテ貸主ノ了知シタル限ニテ取壊シアリテ借主爲メニ損害ヲ受ケタルトキト雖モ貸主ハ無利息ノ貸借ニ付テハ其損害ノ責ニ任セス但貸主ニ詐欺アリ又ハ加害ノ意思アリタルトキハ此限ニ在ラス
此貸借カ利息附ナルトキハ貸主ノ了知セザリシ限ニテ取壊シト雖モ之ヲ了知スルコトヲ得ヘキトキハ其實ニ任ス

此他消費廢却所權ニ關スル第九十四條乃至第一百一條ノ規定ハ之ヲ消費貸借ニ適用スルコトヲ得

第百八十三條 財産編第四百六十三條乃至第四百六十六條ハ正貨又ハ強制通用ノ紙幣ニテ爲シタル消費貸借ニ之ヲ適用ス

然レトモ貸主カ財産編第四百六十五條ノ許セル金貨若クハ銀貨ヲ以テ指定シタル價額ノ消費貸借ヲ受ケ又ハ此等ノ正貨ノ一ヲ以テ消費貸借ヲ受クルコトヲ要スルニハ同性質ノ正貨又ハ他ノ正貨若クハ紙幣ヲ以テ對當ノ價額ヲ實際ニ貸付スルコトヲ要ス

第百八十四條 貸借ヲ金銀塊ニテ爲シタルトキハ借主ハ他ノ商品ノ貸借ノ如ク同一ノ性質、重量及ヒ價格ノ金銀塊ヲ返還スルコトヲ要ス

第百八十五條 金錢、日用品又ハ商品ノ借主ハ使用ノ報酬トシテ元本ノ外ニ利息ノ名目ヲ以テ借用物

ノ割合ニ應スル金額又ハ有價物ノ消費貸借ノ利息ノ割合ニ應スルコトヲ得

第百八十六條

利息ハ要約シタルニ非サレハ借主ニ對シテ之ヲ要求スルコトヲ得ス
借主ヨリ利息ヲ消費ス可キノ合意アリテ其額ノ定ナキトキハ其割合ハ法律上ノ利息ニ從フ
要約セラレサル利息ヲ法律ノ制限内ニテ任意ニ消費シタル借主ハ之ヲ取戻シ又ハ之ヲ元本ノ消費ニ充當スルコトヲ得ス

第百八十七條 合意上ノ利息ハ法律上ノ利息ヲ超エルコトヲ得但法律ヲ以テ特ニ定メタル合意上ノ利息ノ制限ヲ超エルコトヲ得ス

法律ノ制限ヲ超エテ顯然ニ利息ヲ定メタルトキハ之ヲ法律ノ制限ニ取却シ此制限ヲ超エテ爲シタル消費ハ之ヲ元本ノ消費ニ充當シ又ハ之ヲ取戻スコトヲ得

債權者カ實際ニ貸付シタル元本ヲ超エル元本ヲ認メシメ又ハ其他ノ方法ヲ以テ不正當ノ利息ヲ隱秘シタルトキハ債務者ハ其不正當ノ利息ヲ消費スルコトヲ要セス若シ消費シタルトキハ之ヲ取戻スコトヲ得

第百八十八條 貸主拂ハ支時期ノ至リタル利息ニ付キ異議ヲ爲サスシテ元本ノ全部又ハ一分ヲ受取リタルトキハ其利息ヲ受取リ又ハ之ヲ拋棄シタリトノ推定ヲ受ク但反對ノ證據アルトキハ此限ニ在ラス

第百八十九條 十年ヲ超エル期間ヲ以テ利息附ノ貸借ヲ爲シタルトキハ借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ十年後ハ常ニ消費ヲ爲ス機能ヲ有ス

然レトモ年賦金ヲ以テ利息ノ外尙ホ元本ノ幾分ヲ漸次ニ消費ス可キトキハ其取越消費ヲ爲スコトヲ得ス

○財産取得編

乙二百三十五

第百九十條 第百八十六條乃至第百八十九條ノ規定ハ消費貸借ヨリ生スル義務ヲ除ク外金銭又ハ定量物ノ義務及ヒ合意上ノ法律上ノ利息ニ之ヲ適用ス

乙二百三十六

第二節 無期年金權ノ契約

第百九十一條 貸主ハ元本ノ要求ヲ爲スコトヲ自ラ禁止シ年金ノミヲ受取ルコトヲ要約スルコトヲ得之ヲ無期年金權ノ設定ト謂フ

此禁止ハ明示ナルカ又ハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス

第百九十二條 無期年金ノ債務ヲ負擔スル借主ハ如何ナル反對ノ合意アルモ常ニ其受取リタル元本ノ辨濟ヲ爲スコトヲ得

然レトモ借主ハ十個年ヲ超エサル或ル時期前ニ辨濟ヲ爲ササルヲ約スルコトヲ得

右期間ハ常ニ之ヲ更新スルコトヲ得然レトモ亦十個年ヲ超エルコトヲ得ス若シ之ヲ超エルトキハ十個年ニ短縮ス

辨濟ハ反對ノ合意アラサルトキハ全部タルコトヲ要ス

債務者ハ六个月前ニ辨濟ヲ爲ス意思ヲ具備者ニ豫告スルコトヲ要ス但當事者ニ於テ他ノ期間ヲ定メタルトキハ此限ニ在ラス

債務者ハ自己ノ定メタル時期ニ於テ辨濟ヲ爲ササルトキハ其損害賠償ノ責ニ任ス然レトモ辨濟ノ要ヲ受クルコト無シ但更改アリタルトキハ此限ニ在ラス

第百九十三條 債務者ハ財産編第四百五條第一號乃至第三號ニ依リテ尋常ノ債務者カ權利上ノ期限ノ利益ヲ失フ場合又ハ合式ノ付還滯ヲ受ケタル後引續キ二個年間年金ノ辨濟ヲ缺キタル場合ニ於テハ元本辨濟ノ要ヲ受ケ

此末ノ場合ニ於テ裁判所ハ財産編第四百六條ニ從ヒ債務者ニ恩惠上ノ期限及ヒ分割給付ヲ許スルコトヲ得

第百九十四條 前二條ノ規定ハ不動産讓渡ノ代價若クハ條件トシテ設定シ又ハ無償ニテ設定シタル無期年金權ニ之ヲ適用ス

右孰レノ場合ニ於テモ辨濟ハ當事者ノ評定シタル元本ヲ以テ之ヲ爲シ又元本ノ評定ナキトキハ法律上ノ利息ノ割合ニ從ヒテ計算シタル年金ヲ生ス可キ元本ヲ以テ之ヲ爲ス

日用品ヲ以テ年金ニ充ツルトキハ辨濟ハ特別ノ合意アルニ非サレハ前十個年間ノ其平均代價ニ基キ計算シタル元本ヲ以テ之ヲ爲ス

第九章 使用貸借

第一節 使用貸借ノ性質

第百九十五條 使用貸借ハ當事者ノ一方カ他ノ一方ノ使用ノ爲メニ之ニ動産又ハ不動産ヲ交付シ明示又ハ默示ニテ定メタル時期ノ後他ノ一方カ其借受ケタル原物ヲ返還スル義務ヲ負擔スル契約ナリ此貸借ハ本無來償ナリ

第百九十六條 借主ハ使用ノ物ヲ取得セズ單ニ貸主及ヒ其相續人ニ對シテ人權ヲ取得ス

借主ノ權利ハ其相續人ニ移轉セズ但相續人カ當事者ノ意思ノ之ニ異ナルトテ設スルモ此限ニ在ラス又其相續人カ他ヨリ同種ノ物ノ使用ヲ得ル爲メ裁判所ヨリ返還猶豫ノ期限ヲ受クルトテ妨ケス

第二節 使用貸借ヨリ生シ又ハ其貸借ニ際シテ生スル義務

第百九十七條 借主ハ借用物ノ性質又ハ合意ニ因リテ定マリタル用方ニ從ヒ且貸借期間ニ非サレハ其物ヲ使用スルコトヲ得ス

○財産取得編

借主ハ此他ノ使用又ハ期限後ノ使用ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ニ付テハ勿論又其使用ニ際シ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル滅失又ハ毀損ニ付テモ其責ニ任ス

第九十八條 借主ハ自己ノ物ヲ用テ借用物ノ滅失又ハ毀損ヲ免カレシムルコトヲ得ヘキトモ又ハ自己ノ物ト借用物トカ同時ニ危険ヲ受クルニ際シ自己ノ物ノミナ救護シタルトキモ亦意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル借用物ノ滅失又ハ毀損ノ責ニ任ス

第九十九條 借主ハ借用物保持ノ通常費用ヲ負擔シ借主ニ對シテ其償還ヲ求ムルコトヲ得ス

第二百條 借主ハ合意セシ時期ニ於テ借用物ヲ返還スルコトヲ要ス其時期前ト雖モ許サレタル使用ヲ終リシトキハ亦同シ但第二百三條第二項ノ規定ヲ妨ケス

返還ノ時期ヲ定メス且物ノ使用ヲ繼續ス可キモノナルトキハ裁判所ハ貸主ノ請求ニ因リテ返還ノ爲メ相應ナル時期ヲ定ム

第二百一條 借主カ借用物ノ第三者ニ屬スルコトヲ了知スルトキト雖モ貸主又ハ其代人ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス但第三者カ其返還ニ付キ合式ニ故障ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

此未ノ場合ノ外返還ハ貸主又ハ其代人ノ住所ニ於テ之ヲ爲ス

第二百二條 數人聯合シテ同時又ハ交互ニ用ユル爲メ一箇ノ物ヲ借用シタルトキハ各自聯帶ニテ上ノ義務ヲ負擔ス

第二百三條 貸主ハ明示又ハ默示ニテ借主ニ許シタル期限前ニ貸付物ノ返還ヲ要求スルコトヲ得ス

然レトモ其物ニ付キ急迫ニシテ且豫期セサル要用ノ生シタルトキハ貸主ハ裁判所ニ請求シテ期限前ニ一時又ハ永久ノ返還ヲ爲サシムルコトヲ得

第二百四條 貸主ハ借主カ借用物保存ノ爲メ支出シタル必要且急迫ナル費用ヲ之ニ賠償スル責ニ任ス

又貸主ハ貸付物ノ瑕疵ノ爲メニ借主ノ受ケタル損害ニ付テハ第百八十二條第一項ノ規定ヲ適用ス

第十章 寄託及ヒ保管

第一節 寄託

第二百六條 寄託ハ一人カ動産ヲ交付シ他ノ一人カ之ヲ看守シ要求次第直チニ原物ヲ返還スル契約ナリ

寄託ハ本來無償ナリ

寄託ニハ任意ノモノ有リ急迫ノモノ有リ

第一款 任意寄託

第二百七條 任意ノ寄託ハ寄託者カ寄託ノ時日、場所及ヒ受寄者ヲ自由ニ選擇スルコトヲ得ル場合ニ於テ成ルモノナリ

第二百八條 寄託ハ所有者ノミナラス尙ホ物ノ看守及ヒ保存ニ付キ利害ノ關係アル人又ハ其代理人之ヲ爲スコトヲ得

又寄託ハ無能力者ノ法律上ノ代人之ヲ爲スコトヲ得

第二百九條 寄託ハ契約ヲ爲ス完全ノ能力ヲ有スル者ニ非サレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

然レトモ無能力者ハ猶ホ自己ノ手ニ存スル寄託物ノ返還又ハ寄託ニ因リテ得タル利益ノ返還ニ付キ民事上其責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百十條 受寄者ハ受寄物ノ看守及ヒ保存ニ付テハ自己ノ財産ニ加フルト同一ノ注意ヲ爲スコトヲ要ス

○財産取得編

然レトモ受寄者カ自ラ求メテ寄託ヲ受ケ又ハ單ニ自己ノ利益ヲ目的トシ要用ニ從ヒ受寄物ヲ使用スルノ許諾ヲ得テ寄託ヲ受ケタルトキハ受寄者ハ善真ナル管理人ノ注意ヲ爲ス費ニ任ス但此末ノ場合ニ於テ受寄者カ其物ヲ使用シタルトキハ第九十八條ノ規定ヲ適用ス

第二百一十條 受寄物返還ノ遲滞ニ付セラレタル受寄者ハ普通法ニ從ヒ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因ル滅失ノ責ニ任ス

第二百一十二條 寄託者カ受寄者ニ寄託物ノ性質ヲ隱秘シタルトキハ受寄者之ヲ知ラント探求スルコトヲ得ス又其性質ヲ受寄者ノミニ知ラシメタル場合ニ於テモ受寄者之ヲ他人ニ漏洩スルコトヲ得ス若シ之ヲ漏洩シタル爲メ損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

第二百一十三條 受寄者ハ受寄物ヲ使用シ又ハ其果實ヲ消費スルコトヲ得ス但此カ爲メ寄託者ノ明示又ハ默示ノ許諾アリタルトキハ此限ニ在ラス

第二百一十四條 受寄者ハ其收取シタル果實及ヒ產出物ト又之ヲ金錢ニ換ヘサルヲ得サリシトキハ其代金ト共ニ原物ヲ返還スルコトヲ要ス但前條ノ規定ヲ妨ケス

受寄者カ受寄物ニ付キ或ル償金又ハ或ル權利若クハ利益ヲ取得シタルトキハ之ヲ寄託者ニ移轉スルコトヲ要ス

又受寄者カ故意ニテ受寄物ヲ消費シ讓渡シ又ハ隱匿シタルトキハ遲滞ニ付セラレルコト無クシテ當然損害賠償ノ責ニ任ス但背信ニ付テノ公訴ヲ妨ケス

第二百一十五條 受寄者ノ相續人カ受寄物ナルコトヲ知ラスシテ其物ヲ消費シ又ハ之ヲ讓渡シタルトキハ其相續人ハ此ニ因リテ得タル利益ノ額ニ滿ツルマテ賠償ノ責ニ任ス

右ノ規定ハ遺忘又ハ錯誤ニ因リ自己ノ物トシテ受寄物ヲ處分シタル受寄者ニ之ヲ適用ス

第二百一十六條 寄託物ノ返還ハ寄託者又ハ其法律上若クハ合意上ノ代人ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

第二百一十七條 返還ニ付キ場所ヲ定メサリシトキハ受寄者カ受寄物ヲ移置シタルモ其現在ノ場所ニ於テ之ヲ返還ス但寄託者ヲ詐害スル意思アルトキハ此限ニ在ラス

第二百一十八條 寄託者ノ要求次第物ヲ返還ス可キ受寄者ノ義務ハ左ノ場合ニ於テ消滅ス

第一 受寄者カ其物ノ自己ニ屬スルコトヲ證スルコトヲ得ルトキ

第二 受寄者カ次條ニ從ヒテ留置權ヲ行フコトヲ得ルトキ

第三 受寄者カ拂渡差押ノ合式ノ告知ヲ受ケタルトキ

第四 受寄者カ受寄物ノ盜品ナルコトヲ覺知シ且其所有者ヲ知リタルトキ但此場合ニ於テ受寄者ハ所有者ニ其受託ヲ受ケタルコトヲ通知シ且指定セル相應ノ期間ニ寄託者ト立合ノ上ニテ其物ヲ要求ス可ク若シ此期間ヲ過クルモ立會ハサルトキハ寄託者ニ返還ヲ爲ス可キ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

第二百一十九條 寄託者ハ寄託物ノ保存ノ爲メ受寄者ノ支出シタル必要ノ費用ト其物ノ爲メニ受寄者ノ受ケタル損害トヲ賠償スルコトヲ要ス

右賠償ノ皆濟ヲ受クルマテ受寄者ハ受寄物ノ上ニ留置權ヲ行フコトヲ得

第二款 急迫寄託及ヒ旅店寄託

第二百二十條 寄託者カ火災、洪水、地震、地震又ハ暴動ノ如キ不測ニシテ且不可抗ノ事變ニ因リ止ムヲ得ス寄託ヲ爲ストキハ之ヲ急迫ノ寄託ト謂フ

急迫ノ寄託ハ請般ノ方法ニ依リ又ハ事情ヨリ生スル事實ノ推定ニ依リテ之ヲ證スルコトヲ得

○財産取得編

此他急迫寄託ハ任意寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十一條 旅店及ヒ下宿屋ノ主人ハ其止宿セシムル旅人ノ攜帶シタル手荷物ノ受託ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

舟車運送人其他水陸運送ノ營業人モ亦其運送ヲ任セラレタル荷物ニ付テハ之ヲ急迫ノ受寄者ト看做ス

然レトモ本條ノ受寄者ハ有償合意ヨリ生スル通常ノ義務ヲ負擔ス

第二節 保管

第二百二十二條 保管トハ數人ノ間ニ於テ爭論ノ目的タル物ヲ第三者ニ寄託スルヲ謂フ

保管ハ動産又ハ不動産ヲ目的トスルコトヲ得

保管ニハ合意上ノモノ有リ裁判上ノモノ有リ

第二百二十三條 合意上ノ保管ハ其保管ニ付テモ當事者ノ選定ニ付テモ當事者ノ承諾アルコトヲ要ス

裁判上ノ保管人ハ當事者カ其選定ニ付キ一致セサルトキニ非サレハ裁判所ハ職權ヲ以テ之ヲ選定スルコトヲ得ス

裁判所ハ當事者ノ一人ヲ保管人ニ選任スルコトヲ得

第二百二十四條 合意上ト裁判上トナ間ハス保管人ハ報酬ヲ受クルコトヲ得此場合ニ於テ保管人ハ善真ナル管理人ノ通常ノ注意ヲ保管物ニ加フル責ニ任ス

第二百二十五條 裁判上ノ保管人ハ財産編第百十九條ニ從ヒテ保管物ヲ貸貸スルコトヲ得然レトモ合意上ノ保管人ハ當事者ノ特別ノ委任ヲ受クルニ非サレハ貸貸スルコトヲ得ス

裁判上又ハ合意上ノ保管人ハ其占有ヲ保持シ又ハ之ヲ回收スル爲メ占有訴訟ヲ行フコトヲ得

保管人ノ占有ハ爭訟ニ於テ確定ニ勝テ得タル當事者ヲ利ス

第二百二十六條 保管ニ付シタル物ハ勝テ得タル當事者ニ之ヲ返還スルコトヲ要ス

然レトモ保管人ハ自己ノ責任ヲ免カルル爲メ當事者ノ許諾又ハ裁判所ノ命令ヲ求ムルコトヲ得

第二百二十七條 右ノ外合意上及ヒ裁判上ノ保管ハ通常ノ寄託ノ規則ニ從フ

第二百二十八條 差押物ニ於ケル裁判上ノ保管及ヒ債務者カ締濟ニ提供シテ債權者ノ受取ルコトヲ拒ミタル金錢若クハ有價物ノ供託ハ特別法ヲ以テ之ヲ規定ス

第十一章 代理

第一節 代理ノ性質

第二百二十九條 代理ハ當事者ノ一方カ其名ヲ以テ其利益ノ爲メ或ル事ヲ行フコトヲ他ノ一方ニ委任スル契約ナリ

代理人カ委任者ノ利益ノ爲メニスルモ自己ノ名ヲ以テ事ヲ行フトキハ其契約ハ仲買契約ナリ

第二百三十條 代理ハ默示ニテ之ヲ委任シ及ヒ之ヲ受諾スルコトヲ得

第二百三十一條 代理ハ無償ナリ但反對ノ明示又ハ默示ノ合意アルトキハ此限ニ在ラス

第二百三十二條 代理ニハ總理ノモノ有リ部理ノモノ有リ

總理代理ハ爲ス可キ行爲ノ限定ナキ代理ニシテ委任者ノ資産ノ管理ノ行爲ノミヲ包含ス

代理力或ハ管理或ハ處分或ハ義務ニ關シテ一箇又ハ數箇ノ限定セル行爲ヲ目的トスルトキハ其代理ハ部理ナリ

第二百三十三條 凡ソ代理ハ總理ナルト部理ナルトナ間ハ其目的タル行爲ヨリ必然ニ生ス可キ事ヲ

○財産取得編

ヲ暗ニ包含ス

乙二百四十四

然レトモ元本ヲ請約スル委任ハ其辨濟ヲ爲ス委任ヲ包含セス
元本ヲ要約スル委任ハ其辨濟ヲ受クル委任ヲ包含セス

訴訟ヲ爲ス委任ハ仲裁人ヲ選任シ請求ニ承服シ訴訟ヲ取下ケ又ハ和解ヲ爲ス委任ヲ包含セス
和解ヲ爲ス委任ハ仲裁人又ハ裁判所ヲシテ争論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス
仲裁人ヲ選任スル委任ハ和解ヲ爲シ又ハ裁判所ヲシテ其争論ヲ裁決セシムル委任ヲ包含セス

第二百三十四條 代理ハ無能力者ニモ有效ニ之ヲ委任スルコトヲ得然レトモ其代理人ハ委任者ニ對シ
テハ無能力者ノ制限アル責任ノミヲ負擔ス

第二百三十五條 代理人ハ其管理行為ノ全部又ハ一分ニ付キ他人ヲシテ自己ニ代ハフシムルコトヲ得
但此ヲ明示ニテ禁止セサルトキ又ハ事件ノ性質ニ因リテ專ラ代理人ノミニ委任シテト看做ス可シ
ラサルトキニ限ル此場合ニ於テ代理人ハ自己ノ管理ニ於ケル如ク其復代人ノ管理ノ責ニ任ス
委任者カ復代人ヲ指定シタルトキハ代理人ハ其指定ニ從フコト能ハサル場合ニ於テモ他人ヲ選任ス
ルコトヲ得ズ代理人カ其指定ニ從ヒ選任ヲ爲シタル場合ニ於テハ代理人ハ其復代人ノ無能又ハ不誠
實ニ付キ委任者ニ之ヲ告知スルコトヲ怠リ又ハ復代人ヲ解任スルコトヲ怠リタルニ非サレハ其責ニ
任セス

委任者ノ禁止シタルニ拘ハラズ復代人ヲ選任シ又ハ其許諾セサル人ヲ選任シタル場合ニ於テハ代理
人ハ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ生スル損害ニ付テモ其責ニ任ス但此復代人ノ選任ヲ爲サザレハ
其損害ノ生セサル可カリシトキニ限ル

第二百三十六條 前條第一項及ヒ第二項ノ場合ニ於テ委任者ハ復代人ニ對シ其管理ニ關スル既權ヲ直

接ニ行フコトヲ得又之ニ對シ直接ニ責任ヲ負擔ス

同條第三項ノ場合ニ於テ委任者ハ直接既權ト代理人ノ名ヲ以テスル間接既權トノ間ニ選擇權ヲ有ス
然レトモ直接既權ヲ行ヒタルトキハ其復代人ノ選任ヲ認諾シタルモノト看做ス

第二節 代理人ノ義務

第二百三十七條 代理ノ終了セサル間ハ代理人ハ委任ノ本旨ニ從ヒ且明示ナキモ自己ノ了知シタル委
任者ノ意思ヲ斟酌シテ委任事件ヲ成就スル責ニ任ス此ニ違フトキハ損害賠償ヲ負擔ス
全部ノ履行ヲ爲スヲ得サルトキハ委任者ニ有益ナルニ非サレハ代理人ハ一分ノ履行ヲ爲ス資ナク且
之ヲ爲スコトヲ得ス

第二百三十八條 指定ノ代價ニテ物ヲ買入ルル委任ヲ受ケタル代理人カ其指定ヲ超ユル代價ヲ以テス
ルニ非サレハ之ヲ得ル能ハサリシトキハ代理人ハ其超過額ヲ拋棄シテ買入ノ認諾ヲ委任者ニ要求ス
ルコトヲ得又委任者ハ代理人ノ辨濟シタル代價ヲ以テ物ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得

物ヲ賣却スル委任ヲ受ケタル場合ニ於テ代理人カ指定ノ代價以下ニテ之ヲ賣却シタルトキハ代理人
ハ代價ノ差額ヲ補足シテ其賣却ヲ認諾セシムルコトヲ得

第二百三十九條 代理人ハ委任事件ヲ成就セシムルコトニ付テハ善良ナル管理人タルノ注意ヲ爲ス責
ニ任ス

然レトモ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ過失ハ較ヤ寛大ニ之ヲ査定ス

第一 代理人カ無償ニテ代理ヲ爲ストキ

第二 代理人カ自ら求メテ代理ヲ爲シタルニ非サルトキ

第三 委任者カ代理人ノ不熟練ナルコトヲ了知シ又ハ之ヲ推置シタルトキ

○財産取得編

乙二百四十五

第四 代理人カ管理ノ或ル行爲ニ付キ委任者ヲシテ其豫期セザリシ利益ヲ得セシメタルトキ
第二百四十四條 代理人ハ代理ノ終了シタルトキハ證據書類ヲ添ヘテ其計算ヲ爲ス費ニ任ス其終了前ト
雖モ委任者ノ之ヲ求メタルトキハ亦同シ

第二百四十一條 代理人ハ委任者ノ名ヲ以テ又ハ管理ニ關シ自己ノ名ヲ以テ受取リタル金額若クハ有
價物ヲ委任者ニ返還スルコトヲ要ス又委任者カ正當ニ受取ルコトヲ得ス又ハ代理人ニ受取ルコトヲ
託セザリシ金額若クハ有價物ト雖モ之ヲ受取リタルトキハ亦同シ然レトモ次節ニ從ヒテ委任者ヨリ
受取ル可キ金額ヲ控除ス

代理人ハ自己ノ收取スルコトヲ忘リ又ハ自己ノ過失ニ因リテ減失セシメタル金額若クハ有價物ノ價
額ヲ前數條ニ依リテ負擔スル損害賠償ト共ニ前項ノ返還中ニ附加ス

第二百四十二條 委任者ノ許諾ヲ受ケスシテ其元本ヲ自己ノ利益ニ用非タル代理人ハ其使用ノ日ヨリ當
然利息ヲ負擔ス其他損害アルトキハ賠償ノ責ニ任ス

計算殘餘ノ金額ニ付テハ代理人ハ其遲滞ニ付セラレタル日ヨリ利息ヲ負擔ス

第二百四十三條 一箇ノ事件ニ付キ數人ノ代理人アルトキハ唯一ノ證據ヲ以テ之ヲ委任シタルト各別
ノ證據ヲ以テ之ヲ委任シタルトテ間ハ各代理人ハ自己ノ過失ニ付テノミ其責任ニシ運帶ヲ要約シ
タルトキ又ハ過失ノ連合ナルトキニ非サレハ其間ニ運帶ヲ成サス

第二百四十四條 代理人カ委任者ノ爲メ委任者ノ名ヲ以テ前三者ト爲シタル行爲ノ履行ニ付テハ代理
人ハ其第三者ニ對シテ責ニ任セス但代理人カ明示ニテ履行ノ責ニ任シ又ハ第三者ニ對シテ已レノ有
セサル權限ヲ有スルモノノ如ク示シタルトキハ此限ニ在ラス

第三節 委任者ノ義務

第二百四十五條 委任者ハ代理人ニ對シテ左ノ義務ヲ負擔ス

第一 代理人カ代理ノ履行ノ爲メ支出シタル立替金又ハ正當ノ費用ノ補償及ヒ其支出シタル日以
來ノ法律上ノ利息ノ辨償

第二 合意シタル謝金ノ辨償

第三 代理人カ其管理ニ因リ又ハ其管理ヲ爲スニ際シ自己ノ過失ニ非スシテ受ケタル損害ノ賠償
但豫見シタル損害ニシテ其全部又ハ一分ニ付キ特ニ謝金ヲ請約スル理由ト爲リタルモノハ此限
ニ在ラス

第四 代理人カ其管理ニ因リテ負擔シタル一身上ノ義務ノ解除又ハ其賠償

第二百四十六條 代理人ハ前條ニ掲ケタル支出ヲ爲スコトヲ約セザルトキハ其責ニ任セス然レトモ委
任者ヨリ必要ナル資金ヲ供スルコトヲ拒絶シ又ハ遲延セシコトノ證據ナキニ於テハ支出ヲ約セザル
爲メ代ノ理履行ヲ遲延スルコトヲ得ス

第二百四十七條 謝金ハ代理ノ全部履行アリタル後ニ非サレハ委任者之ヲ負擔セス但一分ヲツ辨償ス
可キコトヲ請約シタルトキハ此限ニ在ラス

代理人ノ責ニ歸セザル原因ニ由リテ全部ノ履行ニ妨礙アリタルトキハ謝金ハ其履行ノ割合ニ應ジテ
委任者之ヲ負擔ス

第二百四十八條 委任者カ義務ヲ辨償スルニ至ルマテ代理人ハ代理ニ依リテ所持シ且債權者ト爲レル
原因タル物ノ上ニ留置權ヲ有ス

第二百四十九條 數人カ唯一ノ證據又ハ各別ノ證據ヲ以テ共同事件ノ爲メ代理ヲ委任シタルトキハ委
任者ノ各自ハ運帶シテ上ノ義務ヲ負擔ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

○財産取得編

第二百五十條 委任者ハ代理人カ委任ニ從ヒ委任者ノ名ニテ約束セシ第三者ニ對シテ負擔シタル義務ノ責ニ任ス

乙二百四十八

委任者ハ左ノ場合ニ於テハ代理人ノ權限外ニ爲シタル事情ニ付テモ亦其實ニ任ス

- 第一 委任者カ明示又ハ默示ニテ代理人ノ行爲ヲ認許シタルトキ
- 第二 委任者カ代理人ノ行爲ニ因リテ利益ヲ得タルトキ但其利益ノ限度ニ從フ
- 第三 第三者カ善意ニシテ且代理人ニ權限アリト信スル正當ノ理由ヲ有シタルトキ

第四百節 代理ノ終了

第二百五十一條 代理ノ履行又ハ其履行ノ不能及ヒ代理ニ付シタル期限ノ到來又ハ條件ノ成就ノ外尙ホ代理ハ左ノ諸件ニ因リテ終了ス

- 第一 委任者ノ爲シタル廢罷
 - 第二 代理人ノ爲シタル拋棄
 - 第三 委任者又ハ代理人ノ死亡、破産、無資カ若クハ禁治産
 - 第四 委任者カ代理ヲ委任シ又ハ代理人カ之ヲ受諾セシ原因タル資格ノ絶止
- 第二百五十二條 委任者ノミノ利益ノ爲メニ委任セシ代理ノ廢罷ハ謝金ヲ諾約シタルトキト雖モ委任者ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ爲スコトヲ得
- 第二百五十三條 廢罷ハ將來ニ向ヒテノミ有效ナリ且其廢罷前ニ有效ニ爲シタル事情ヲ害セス
- 第二百五十四條 數人ノ委任者アルトキハ其中ノ一人ノ爲シタル廢罷ハ他ノ人ノ代理ヲ終了セシメス
- 第二百五十五條 代理ノ廢罷ハ默示タルコトヲ得默示ノ廢罷ハ同一ノ事件ニ付キ新代理人ノ選任又ハ委任者ノ管理ノ回復其他ノ事情ヨリ生スルモノナリ

第二百五十六條 代理ノ拋棄カ委任者ニ損害ヲ生セシメタルトキハ代理人ハ其賠償ノ責ニ任ス但正當又ハ已ムヲ得サル原因ニ基キタルトキハ此限ニ在ラス

代理ノ拋棄モ亦默示ニテ之ヲ爲スコトヲ得

第二百五十七條 代理終了ノ原因ハ委任者ヨリ出テタルト代理人ヨリ出テタルトナ問ハス當事者カ其告知ヲ受ケタルカ又ハ確實ニ之ヲ知りタルトキニ非サレハ當事者互ニ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

當事者ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ヨリ告知スルコトヲ要ス

第二百五十八條 委任者カ代理人ヨリ委任狀ヲ取戻シタルトキト雖モ解任ナシニ代理ノ終了ヲ知ラス

シテ代理人ト約束シタル第三者ニハ代理終了ノ原因ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第二百五十九條 代理力上ニ拘ケタル原因ノ一ニ由リテ終了セシトキハ代理人又ハ其相續人ハ委任者又ハ其相續人カ既ニ生シタル利益ヲ自ラ處理シ又ハ新代理人ヲシテ之ヲ處理セシムルコトヲ得ルニ至ルマテ其利益ヲ處理スルコトヲ要ス

此規定ハ代理ノ終了カ代理人ノ拋棄ニ因レルトキハ委任者ノ廢罷ニ因レリトキヨリモ一層嚴ニ之ヲ適用ス

第十二章 雇傭及ヒ仕事請負ノ契約
第一節 雇傭契約

第二百六十條 使用人、番頭、手代、職工其他ノ雇傭人ハ年、月又ハ日ヲ以テ定メタル給料又ハ賃銀ヲ受ケテ勞務ニ服スルコトヲ得

雇傭ハ地方ノ慣習ニ因リ定マリタル時期ニ於テ又ハ確定ノ慣習ナキトキハ何時ニテモ一方ヨリ豫メ

○財産取得編

乙二百四十九

解約申入ヲ爲スニ因リテ終了ス但其解約申入ハ不利ノ時期ニ於テ之ヲ爲サス又惡意ニ出テサルコトヲ要ス

第二百六十一條 雇傭ノ期間ハ使用人ノ番頭、手代ニ付テハ五ヶ年職工其他ノ雇傭人ニ付テハ一ヶ年ヲ超ユルコトヲ得ス但習業契約ニ關スル下ノ規定ヲ妨ケス

此ヨリ長キ時期ヲ約シタルニ於テハ當事者ノ一方ノ隨意ニ右ノ時期ニ之ヲ短縮ス但更新ヲ爲ス權能ヲ妨ケス

第二百六十二條 雇傭ハ時期ヲ定メタルトキト雖モ當事者ノ一方ノ義務不履行ニ因ル解除ノ爲メ又ハ一方ヨリ出テタル正當ニシテ且已ムヲ得サル原因ノ爲メ其定期前ニ於テ終了ス

如何ナル場合ニ於テモ主人ノ一身ニ關スル雇傭ハ其死亡ノ爲メ當然終了ス
第二百六十三條 雇傭ヲ終了セシムル正當ノ原因カ主人ヨリ出テ且地方ノ慣習ニ從ヒ雇傭ノ新契約ヲ爲スニ困難ナル季節ニ生シタルトキハ裁判所ハ事情ニ從ヒテ定ムル償金ヲ雇傭人ニ付與セシムルコトヲ得

第二百六十四條 如何ナル場合ニ於テモ雇傭人ノ死亡ハ契約ヲ終了セシム但其相続人ハ給料又ハ賃銀ノ取越過額ヲ返還ス

第二百六十五條 上ノ規定ハ角力、俳優、音曲師其他ノ藝人ト座元興行者トノ間ニ取結ヒタル雇傭契約ニ之ヲ適用ス

第二百六十六條 醫師、辯護士及ヒ學藝教師ハ雇傭人ト爲ラス此等ノ者ハ其患者、訴訟人又ハ生徒ニ諸約シタル世話ヲ與ヘ又ハ與ヘ始メタル世話ヲ繼續スルコトニ付キ法定ノ義務ナシ又患者、訴訟人又

ハ生徒ハ此等ノ者ノ世話ヲ求メテ諸約ヲ得タル後其世話ヲ受クル責ニ任セス
然レトモ實際世話ヲ與ヘタルトキハ相互ノ分限ト慣習及ヒ合意トナ酌量シテ其謝金又ハ報酬ヲ裁判上ニテ要求スルコトヲ得

此等ノ者ノ世話ヲ受クルコトヲ諸約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ受クルコトヲ拒絕シタル者ハ其拒絕ヨリ此等ノ者ニ金錢上ノ損害ヲ生セシメタルトキハ其賠償ノ責ニ任ス之ニ反シテ世話ヲ與フルコトヲ諸約シタル後正當ノ原因ナクシテ之ヲ拒絕シタル者ハ因リテ加ヘタル損害ヲ賠償スル責ニ任ス

第二節 習業契約

第二百六十七條 工業人、工匠又ハ商人ハ習業契約ヲ以テ習業者ニ自己ノ職業上ノ知識ヲ實驗トシ傳授シ習業者ハ其人ノ勞務ニ助カスルヲ約スルコトヲ得

未成年者ハ其父、後見人其他自己ニ對シテ權力ヲ有スル人ノ保佐又ハ名代ニ依ルニ非サレハ習業契約ヲ取結フコトヲ得ス

第二百六十八條 合式ニ保佐ヲ受クル未成年者又ハ其代人ノ取結ヒタル習業契約ハ其未成年ノ時期ヲ超ユルコトヲ得ス但習業者カ成年ニ達シタル後其契約ヲ更新シ又ハ之ヲ伸長スルコトヲ妨ケス

第二百六十九條 習業契約ハ當事者相互ノ義務ノ性質及ヒ嚴狹ヲ定ム

習業契約ノ不備ハ師匠又ハ親方ノ其職業ヲ行フ地方ノ慣習ニ從ヒテ之ヲ補完スルコトヲ得

第二百七十條 師匠又ハ親方ハ習業者ニ衣食及ヒ職業ノ器具ヲ與ヘ且日常ノ使用ヲ足ラシムルコトヲ要ス但反對ノ合意ナク且地方ノ慣習ノ此ニ異ナラサルトキニ限ル

○財産取得編

師匠又ハ親方ハ習業者ニ其習業契約ノ目的タル職業ヲ學ブコトヲ得セシムル爲ノ必要ナル時間ヲ與ヘ世話を爲シ及ヒ膳敷ノ便利ヲ圖ルコトヲ要ス

未成年ノ習業者カ未タ算筆ヲ知ラサルトキハ師匠又ハ親方ハ何等ノ反對ノ合意アルモ習業者ニ算筆修習ノ爲メ休憩時間外ニ於テ毎日少ナクトモ一時間ヲ與フルコトヲ要ス

第二百七十一條 習業者ハ其習ハント欲スル職業ニ關シ日日ノ時間及ヒ勞務ヲ師匠又ハ親方ニ供スルコトヲ要ス

第二百七十二條 習業者カ自己又ハ其親屬ノ疾病其他不可抗ノ原因ニ由リテ一个月以上引續キ勞務ヲ供スルコト能ハサルトキハ習業者ハ其成年ニ達シタル後ト雖モ習業契約ノ期限滿了後ニ於テ前契約ニ同シキ相互ノ條件ヲ以テ休業シタル時間ヲ補足スルコトヲ要ス

第二百七十三條 習業契約ハ左ノ諸件ニ因リテ當然終了ス

第一 師匠、親方又ハ習業者ノ死亡

第二 師匠、親方又ハ習業者ノ陸海軍ノ現役

第三 師匠、親方又ハ習業者ノ重罪又ハ三個月ヲ超ユル禁錮ノ處刑

第四 合意又ハ法律ヲ以テ定メタル期間ノ滿了

第二百七十四條 左ノ原因アルトキハ解除ノ利益ヲ得ル一方ノ當事者ノ請求ニ因リ裁判所ハ契約ノ解除ヲ宣告スルコトヲ得

第一 相互ノ義務ノ不履行但不可抗ノ原因ニ由ルトキモ亦同シ

第二 習業者ニ對スル師匠又ハ親方ノ苛酷ナル取扱

第三 習業者ノ平常ノ不品行

第四 前條ニ掲ケタル場合ノ外師匠、親方又ハ習業者ノ犯罪

第五 契約ヲ履行ス可キ土地外ニ師匠又ハ親方ノ轉居

本條ニ依リテ解除ノ宣告ヲ受ケタル當事者ノ一方ハ自己ニ過失アルトキハ他ノ一方ニ對シテ尙ホ其損害ヲ賠償ス可キノ言渡ヲ受ク前條ニ掲ケタル處刑言渡ノ場合ニ於テモ亦同シ

第三節 仕事請負契約

第二百七十五條 工技又ハ勞力ヲ以テスル或ル仕事ヲ其全部又ハ一分ニ付キ豫定代價ニテ爲スノ合意ハ注文者ヨリ主タル材料ヲ供スルトキハ仕事ノ請負ナリ若シ請負人ヨリ主タル材料ト仕事トヲ供スルトキハ仕事ヲ爲ス可キ條件附ノ賣買ナリ

第二百七十六條 前條ニ掲ケタル二箇ノ場合ニ於テ物ノ全部又ハ一分ニ付キ既ニ仕事ヲ爲シタル後ニ意外ノ事又ハ不可抗力ニ因リテ其物ノ滅失セシトキハ材料ノ滅失ハ其材料ノ属スル者之ヲ負擔シ請負人ハ仕事費ヲ損失ス

當事者ノ一方カ其所爲ニ因リテ滅失ヲ來タシタルカ又ハ引渡若クハ受取ニ付キ運搬ニ在ルトキハ其一方ノミ材料及ヒ仕事費ニ付キ其滅失ヲ負擔ス但損害アルトキハ其賠償ノ責ニ任ス

請負人ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テ一分ノ滅失又ハ單一ナル毀損カ物ニ其價額ノ半以上ヲ失ハシムルトキハ之ヲ全部ノ滅失ト同視ス又其賠償力半以下ニ在ルトキハ財産編第四百十六條、第四百十九條第三項及ヒ第四百二十條ノ規定ヲ適用ス

注文者ヨリ材料ヲ供シタルトキハ注文者ハ滅失又ハ毀損ノ後存在スル材料ノ部分ヲ増價シタル限度

○財産取得編

ニ從ヒテ仕事賃ヲ辨濟スル責ニ任ス

第二百七十七條 注文者ヨリ材料ヲ供シタル場合ニ於テハ仕事完成ノ後ニ非サレハ引渡ヲ實行セサル可キトキト雖モ一分宛仕事ヲ調査シ且之ヲ受取ルヲ合意スルコトヲ得

此場合ニ於テ注文者カ既成ノ仕事ヲ調査シテ受取リタルトキ又ハ之ヲ調査スルコトノ遅滞ニ在ルトキハ請負人ハ既成ノ仕事ニ付キ其危険ノ責ヲ免カレ

仕事中心注文者ヨリ前金又ハ内金ヲ供シタルモ此ヲ以テ既成ノ仕事ヲ受取リタリト看做サス然レトモ物カ注文者ノ明白ナル受取又ハ其付運前ノ以前ニ滅失シタルトキハ注文者ハ既成ノ仕事ヲ超ユル部分ニ非サレハ前金又ハ内金ヲ取戻スコトヲ得ス

第二百七十八條 注文者カ異議ヲ留メシテ工作物ヲ受取リタルモ後日其物ノ使用ニ不適當ナル隠レタル瑕疵ヲ發見スルトキハ注文者ハ其受取ヲ取消シテ代價ノ減殺又ハ其一分ノ返還ヲ請求スル權利ヲ失ハス

此權利ニ基キタル瑕疵ハ注文者ニ属スル動産又ハ不動産ノ上ニ施シタル仕事ニ付テハ全部ノ工作物ヲ受取リタル後ノ三ヶ月ニテ消滅ス

職工ヨリ材料ヲ供シタル製作物ニ付テハ第九十九條ノ規定ヲ適用ス

第二百七十九條 建物、牆壁其他地上ニ於ケル大ナル工作物ヲ請負ニテ築造シタルトキハ請負人ハ築造ノ瑕疵又ハ地盤ノ瑕疵ヨリ生シタル其工作物ノ全部若クハ一分ノ滅失又ハ重大ナル損壞ノ責ニ任ズ但請負人カ他人ノ土地ニ築造シタルト自己ノ土地ニ築造シタルト材料ヲ供シタルト否トテ區別セ

右責任ハ左ノ時期ノ間繼續ス

第一 牆壁其他土工ニ付テハ其受取後二個年

第二 木造ノ建物ニ付テハ三個月

第三 石又ハ煉瓦ノ建物及ヒ土蔵ニ付テハ十個月

第二百八十條 右ノ責任ニ基キタル賠償限額ハ左ノ時期ヲ以テ時效ニ屬ル

第一 物ノ全部ノ滅失ノ場合ニ於テハ其滅失ノ時ヨリ一箇年

第二 物ノ一分ノ滅失又ハ重大ノ毀損ノ場合ニ於テハ請負人ノ責ニ任ス可キ期間ノ満了ノ時ヨリ六個月

第二百八十一條 經畫ノ變更ヨリ代價ノ増減ヲ生ス可キモ書面ヲ以テ之ヲ定メサルトキハ其變更ヲ口實トシテ請負人ハ原代價ノ増加ヲ請求シ注文者ハ其減少ヲ請求スルコトヲ得ス

請負中ニ包含シタル建築ト全ク別ナル建築ヲ爲シ又ハ請負中ノ區分アル建築ヲ屬セシトキハ此規定ヲ適用セス此場合ニ於テ當事者ノ間ニ一致ヲ得サルトキハ裁判所原代價ノ増減ヲ定ム

請負人ハ經畫又ハ其變更カ注文者ノ指圖ニ出テタルコトヲ口實トシテ第二百七十九條ニ定メタル責任ヲ免カルルコトヲ得ス但請負人カ書面ヲ以テ此責任ヲ免カルルコトヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第二百八十二條 請負人カ仕事ノミヲ供スルト材料ヲ併セ供スルト期間ハ注文者ハ常ニ自己ノ意思ノミヲ以テ契約ヲ解除スルコトヲ得然レトモ注文者ハ請負人ノ既成ノ仕事ノ貸銀及ヒ準備ノ材料ニ受ケタル損失其他ノ損害ヲ賠償シ且其契約ニ因リテ得ヘキ正當ナル利益ノ全部ヲ辨濟スル義務ヲ負

第二百八十三條

乙二百五十六

他人ノ契約ヲ以テ仕事ノ全部ニ供シタルト一分ニ供シタルト又其仕事ヲ實行シタルト契約ヲ解除シタルトト間ハス請負人ハ仕事ノ爲メ又ハ解除ノ賠償ノ爲メ自己ノ受ク可キ金額ノ皆濟ニ至ルマテ其材料ヲ留置スルコトヲ得但此留置權ハ動産物ノミニテ適用ス

第二百八十四條 注文者カ請負人其者ノ仕事ヲ主眼トシテ契約ヲ取結ヒタルトキハ其契約ハ請負人ノ死亡又ハ其仕事ノ不能ニ因リテ之ヲ解除スルコトヲ得

右二箇ノ場合ニ於テ注文者ハ自己ノ期望セシ目途ニ付キ利シタル仕事又ハ材料ノ價額ノミヲ請負人又ハ其相續人ニ辨濟スル責ニ任ス

第二百八十五條 仕事ノ一分ニ任シタル下請負人ト請負人トノ關係ニ付テハ上ノ規定ニ從フ

請負人カ下請負人ニ對シテ負擔スル金額ヲ辨濟セサルトキハ下請負人ハ自己ノ名ヲ以テ直接ニ注文ニ對シ其注文者ノ尙ホ請負人ニ辨濟ス可キ債務ノ限度ニ於テ厥ヲ起スコトヲ得

職工モ亦已レテ雇ヒタル者カ貸銀ヲ辨濟セサルトキハ注文者ニ對シテ右ト同一ノ權利ヲ有ス

第十三章 相続

總則

第二百八十六條 相続ニ二種アリ家督相続及ヒ遺産相続是ナリ

第一節 家督相続

第二百八十七條 家督相続トハ戶主ノ死亡又ハ隱居ニ因ル相続ヲ謂フ

第一款 家督相続ノ通則

第二百八十八條 家督相続ヲ爲スハ一家一人ニ限ル

何人ト雖モ二家以上ノ家督相続ヲ爲スコトヲ得ス

第二百八十九條

婚姻又ハ養子縁組ニ因リ他家ニ入りテ其家ニ在ル者ハ實家其他ノ家ノ家督相続ヲ爲スコトヲ得ス

第二百九十條 一人ニシテ數家ノ家督相続人ニ指定セラレ又ハ選定セラレタル者ハ其中ノ一ヲ選擇スルコトヲ得

第二百九十一條 推定家督相続人ハ他家ノ家督相続人ニ指定セラレ又ハ選定セラレタルモ其指定又ハ選定ハ無効トス

第二百九十二條 被相続人ヲ死ニ致シ又ハ死ニ致サントシタル爲メ刑ニ處セラレタル者ハ相続ヨリ除斥セラル但過失ニ因ルモノハ此限ニ在ラス

第二百九十三條 相続人除斥ノ所屬ハ被相続人ノ明示ノ有免ニ因リテ消滅ス

第二百九十四條 家督相続人ハ姓氏、系統、實號及ヒ一切ノ財産ヲ相続シテ戶主ト爲ル

系譜、世襲財産、祭具、墓地、商號及ヒ商標ハ家督相続ノ特權ヲ組成ス

第二款 家督相続人ノ順位

第二百九十五條 法律ニ於テ家督相続人ト爲ル可キ者ノ順位ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一 被相続人ノ家族タル昇屬親中親等ノ最モ近キ者

第二 昇屬親中同親等ノ男子ト女子ト有ルトキハ男子

第三 男子數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子トアルトキハ嫡出子

第四 女子ノミ數人アルトキハ其先ニ生マレタル者但嫡出子ト庶子又ハ私生子ト有ルトキハ嫡出子

然レトモ右ノ規定ニ從ヒテ家督相続人タル可キ者カ被相続人ニ先タチテ死亡シ又ハ第二百九十七條

○財産取得編

乙二百五十七

ニ掲ケタル原因ニ由リテ廢除セラレタル場合ニ於テ其者ニ男屬親アルトキハ其男屬親ハ法定ノ順位ニ依リテ家督相続人ト爲ル

第二百九十六條 被相続人ハ正當ノ原因アルニ非サレハ法定ノ推定家督相続人ヲ廢除スルコトヲ得ス
第二百九十七條 法定ノ推定家督相続人ヲ廢除スルコトヲ得ヘキ正當ノ原因ハ左ノ如シ

第一 失踪ノ宣言

第二 民事上禁治産及ヒ准禁治産

第三 重禁錮一年以上ノ處刑

第四 家政ヲ執ルニ堪ヘサル不治ノ疾病

第五 祖父母ハ父母ニ對スル罪ノ處刑

第六 重罪ニ因レル處刑

第二百九十八條 推定家督相続人ノ廢除ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲シ又ハ身分取扱更ニ申述シテ之ヲ爲スコトヲ得

申述ニ基ク家督相続人ノ廢除ハ被相続人之ヲ取消スコトヲ得
廢除ノ取消ハ身分取扱更ニ申述シテ之ヲ爲ス

第二百九十九條 法定ノ家督相続人アルトキハ被相続人ハ家督相続人ヲ指定スルコトヲ得ス但此規定ニ違ヒタル指定ト雖モ被相続人ノ死亡ノ日ニ法定ノ家督相続人アラサルトキハ有效トス

第三百條 家督相続人ノ指定ハ遺言書ヲ以テ之ヲ爲ス可シ

第三百一條 法定又ハ指定ノ家督相続人アラサル場合ニ於テ其家ニ死亡者ノ父アルトキハ父、父アラサルトキハ母ハ左ノ順序ニ從ヒ家族中ヨリ家督相続人ヲ選定ス

第一 兄弟

第二 姉妹

第三 兄弟姉妹ノ男屬親中親等ノ最も近キ男子若シ男子アラズ又ハ拋棄シタルトキハ女子

第三百二條 前條ノ場合ニ於テ父母アラサルトキハ家督相続人選定ノ權利ハ親族會ニ歸ス但親族會ハ前條ニ定メタル選定ノ順序ヲ變更スルコトヲ得ス

第三百三條 第三百一條ノ規定ニ從ヒ選定ス可キ家督相続人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキハ其家ニ在ル尊屬親中親等ノ最も近キ者任意ニ家督相続人ヲ爲スコトヲ得

第三百四條 前條ノ家督相続人アラサルトキハ配偶者家督相続人ヲ爲スコトヲ得

第三百五條 親族會ハ前數條ニ記載シタル相続人アラサルトキ又ハ皆拋棄シタルトキニ非サレハ他人ヲ選定スルコトヲ得ス

第三款 隱居家督相続ノ特別規則

第三百六條 隱居ヲ爲スニハ左ノ條件ノ具備スルコトヲ要ス

第一 滿六十年以上ナルコト

第二 任意ニ出タルコト

第三 成年ニシテ且實際家政ヲ執ルノ能力アル家督相続人カ單純ノ受諾ヲ爲シタルコト

第四 配偶者ノ承諾シタルコト

第三百七條 隱居者カ重病其他ノ原因ノ爲メニ實際家政ヲ執ル能ハサルトキ又ハ分家ノ戶主カ本家ヲ承繼スルノ必要アルトキハ本人ノ申立ニ因リ區裁判所ハ年齢ノ條件ヲ宥恕スルコトヲ得

○財産取得編

第三百八條 隠居者ノ配偶者親族及ヒ檢事ハ左ノ原因ノ一ニ基キ隠居届出ノ日ヨリ六十日以内ニ故障ヲ申立ルコトヲ得

第一 第三百六條第一號乃至第三號ノ條件ニ違ヒタル事實

第二 家督相続ヲ爲ス者カ推定家督相続人ニ非サル事實

又隠居カ任意ニ出テサリシ場合ニ於テハ隠居者モ亦故障ヲ申立ツルコトヲ得

第三百九條 隠居カ第三百六條第四號ノ條件ニ違ヒタル事實アルトキハ隠居者ノ配偶者ニ限り故障ヲ申立ツルコトヲ得

又隠居者カ債權者ヲ詐害スルノ意思ヲ以テ隠居ヲ爲サントスルトキハ債權者ハ故障ヲ申立ツルコトヲ得

前條ノ期間ハ本條ニモ亦之ヲ適用ス

第三百十條 隠居ヲ爲ストキハ常事者ヨリ其旨ヲ身分取扱吏ニ届出ツ可シ

第三百十一條 隠居家督相続ハ届出前ノ利害關係人ニ對シテハ第三百八條ニ定メタル期間満限ノ日ヨリ又故障アリタルトキハ其故障ノ棄却確定シタル日ヨリ死亡ニ因ル相続ト同一ノ効力ヲ生ス但隠居者ノ終身ヲ限度トスル權利及ヒ義務ヲ消滅セシメス

第二節 遺産相続

第三百十二條 遺産相続トハ家族ノ死亡ニ因ル相続ヲ謂フ

第三百十三條 家族ノ遺産ハ其家族ト家ヲ同フスル昇属親之ヲ相続シ昇属親ナキトキハ配偶者之ヲ相続シ配偶者ナキトキハ戸主之ヲ相続ス

第三百十四條 昇属親カ遺産ヲ相続スル場合ニ於テハ第二百九十五條ノ規定ヲ適用ス

第三節 國ニ屬スル相続

第三百十五條 相続人アラサル財産ハ當然國ニ屬ス

國ハ限定ノ受諾ヲ以テ相続ス

第三百十六條 國ニ屬ス可キ相続財産ハ其領收ヲ爲スニ至ルマテ相続人曠缺ノ財産ヲ管理スル如ク之ヲ管理ス

第四節 相続ノ受諾及ヒ拋棄

第三百十七條 相続人ハ相続ニ付キ單純若クハ限定ノ受諾ヲ爲シ又ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得但法定家督相続人ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス又隠居家督相続人ハ限定ノ受諾ヲ爲スコトヲ得ス

第三百十八條 隠居家督相続ヲ除ク外相続人ハ相続財産ヲ調査スル爲メ相続ノ日ヨリ三個月ノ期間ヲ有ス但裁判所ハ情况ニ因リ更ニ三個月内ノ延期ヲ許スコトヲ得

受諾又ハ拋棄ヲ決定スル爲メ一個月ノ期間ヲ有ス此期間ハ調査期間満限ノ日又ハ其前ニ實際ノ調査ヲ終了シタル日ヨリ之ヲ算ス

第三百十九條 相続人ハ調査又ハ決定ノ期間内相続財産ニ關スル一切ノ訴訟手續ヲ停止セシムルコトヲ得

第三百二十條 相続財産ニ關スル訴訟ニ要セシ費用ハ法律上ノ期間内ニ係ルモノト裁判所ノ許シタル延期内ニ係ルモノトナ間ハス總テ相続財産ノ負擔トス但相続人ノ所爲又ハ過失ニ因リテ要セシ費用ハ此限ニ在ラス

○財産取得編

第三百二十一條 相續財産中ニ相取シ易ク又ハ保存スルニ苦シキ費用ヲ要スル物品アルトキハ其物又ハ決定ノ期間内ト雖モ區裁判所ノ認可ヲ得テ其物品ヲ競賣ニ付スルコトヲ得但日用品ハ裁判所ノ認可ヲ經スシテ之ヲ處分スルコトヲ得

第一款 單純ノ受諾

第三百二十二條 相續人カ被相續人ノ財産ニ關シ明示又ハ默示ニテ其代表者ト爲ルノ意思ヲ顯ハストキハ單純ノ受諾トス

第三百二十三條 左ノ如キ場合ニ於テハ默示ノ受諾アリトス

第一 相續財産ノ一箇又ハ數箇ニ付キ他人ノ爲メニ所有權ヲ讓渡シ又ハ其他ノ物權ヲ設定シタルトキ但財産編第百十九條以下ノ制限ニ從ヒタル賃借權ノ設定ハ此限ニ在ラス

第二 相續人カ第三百十八條ノ期間内ニ限定受諾又ハ拋棄ヲ爲ササルトキ

右ノ外尙ホ第三百二十七條第二號ノ場合ハ單純ノ受諾ヲ成ス

第三百二十四條 受諾ハ左ノ原因ノ一アルニ非サレハ之ヲ銷除スルコトヲ得ス

第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ受諾シタルトキ

第二 詐欺ノ爲メニ受諾シタルトキ

第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ受諾シタルトキ

第四 受諾ノ時成立セルコトヲ知ラサル債務ノ爲メ破産又ハ無資力ト爲ルニ至ル可キトキ

此銷除既權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル銷除既權ノ期間及ヒ條件ニ從フ

第二款 限定ノ受諾

第三百二十五條 相續人カ相續財産ノ限度マテニ非サレハ債務ノ弁償ノ責ニ任セサルトキハ限定ノ受

諾トス

第三百二十六條 相續人ニシテ限定ノ受諾ヲ爲スノ意思ヲ有スル者ハ第三百十八條ノ期間内ニ調査シタル財産ノ目錄ヲ相續地ノ區裁判所ニ差出タシ其申述ヲ爲シ裁判所ハ別段ニ備ヘタル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第三百二十七條 左ノ場合ニ於テハ相續人ハ限定受諾ヲ爲スノ權利ヲ失フ

第一 單純ノ受諾ヲ爲シタルトキ

第二 相續財産ヲ私取シ若クハ隱匿シ又ハ惡意ヲ以テ財産調査目錄中ニ相續財産ノ幾分ヲ記載セザリシトキ

第三百二十八條 限定受諾者ハ其特有財産ニ於ケルト同一ノ注意ヲ以テ相續財産ヲ管理シ債權者及ヒ受遺者ニ其計算ヲ爲ス可シ但此計算ハ債務及ヒ遺贈ノ辨濟ノ爲メ相續財産ヲ抽盡シタル後一个月内ニ之ヲ完了スルコトヲ要ス

第三百二十九條 限定受諾者ハ動産ト不動産トヲ開ハス總テ相續財産ノ發却ヲ要スルトキハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付ス可シ

第三百三十條 限定受諾者ハ適法ニ發却シタル財産ノ各箇ニ付テ得タル代價ヲ混同セス其各箇ニ付テ優先權ヲ有スル債權者ニ順次ニ辨濟ス可シ

第三百三十一條 相續ノ負擔スル債務又ハ遺贈ノ辨濟ヲ差押ヘ又ハ其辨濟ニ付キ異議ヲ述フル債權者又ハ受遺者アルトキハ限定受諾者ハ裁判ヲ以テ定メタル順次及ヒ方法ニ從フニ非サレハ其辨濟ヲ爲スコトヲ得ス

○財産取得編

第三百三十二條

前條ノ差押又ハ異議アラサルトキハ債權者又ハ受遺者ノ要求ニ從ヒテ辨濟ヲ爲ス
辨濟ノ爲メニ相續財産ヲ拂盡シタル後ト雖モ第三百二十八條ニ規定シタル計算ヲ完了セサル前ニ要
求ヲ爲ス債權者又ハ受遺者ハ左ノ區別ニ從ヒ既ニ辨濟ヲ得タル債權者及ヒ受遺者ニ對シテ求償權ヲ
行フコトヲ得

乙二百六十四

- 第一 債權者ハ先ツ受遺者ニ對シテ次ニ債權者ニ對スルコト
- 第二 受遺者ハ單ニ受遺者ニ對スルコト

第三百三十三條 相續人カ計算ノ完了ヲ遲延シタル場合ニ於テハ債權者中未タ辨濟ヲ得サル者ヨリ既
ニ辨濟ヲ得タル受遺者及ヒ債權者ニ求償スルコトヲ得ヘキ額ヲ直チニ相續人ノ特有財産ニ付テ求償
スルコトヲ得

第三百三十四條 相續財産ヲ拂盡シ計算ヲ完了シタル後ニ要求ヲ爲ス債權者ハ單ニ辨濟ヲ得タル受遺
者ニ對スルニ非サレハ求償權ヲ行フコトヲ得ス

第三百三十五條 前三條ノ求償權ハ三ヶ年之間ヲ行フコトヲ得但此期間ハ計算ノ完了前ニ係ルトキハ
初メ相續人ニ要求シタル日又完了後ニ係ルトキハ其完了ノ日ヨリ之ヲ算ス

第三款 拋棄

第三百三十六條 相續ヲ拋棄セントスル相續人ハ相續地ノ區裁判所ニ其旨ヲ申述シ裁判所ハ別段ニ備
ヘタル帳簿ニ之ヲ記載ス可シ

第三百三十七條 拋棄シタル相續ハ他ニ受諾シタル相續人アラサル間ハ拋棄者更ニ之ヲ受諾スルコト
ヲ得然レトモ此受諾ハ第三百十八條ノ期間内ニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但相續財産ニ付テ第三

者ノ有效ニ得タル權利ヲ害スルコト無シ

第三百三十八條 相續ヲ拋棄シタル者ハ他ニ受諾シタル相續人アリト雖モ左ノ場合ニ於テハ其拋棄ヲ
銷除スルコトヲ得

- 第一 身體又ハ財産ニ強暴ヲ加ヘラレタルニ因リテ拋棄シタルトキ
- 第二 詐欺ノ爲メニ拋棄シタルトキ
- 第三 無能力者又ハ後見人カ方式ニ違ヒテ拋棄シタルトキ

此銷除既權ハ財産編第五百四十四條以下ニ規定シタル期間及ヒ條件ニ從フ

第三百三十九條 債權者ヲ詐害スル意思ニ出テタル拋棄ハ財産編第三百四十一條以下ニ定メタル區別
及ヒ期間ニ從ヒ債權者自己ノ利益ノ爲メ之ヲ廢止スルコトヲ得

第三百四十條 遺法ニ受諾シ又ハ受諾者ト推定セラレタル者ハ拋棄ヲ爲スコトヲ得ス

第三百四十一條 相續ニ包含スル物ヲ私取シ又ハ隱匿シタル相續人ハ其相續ヲ拋棄スル權利ヲ失フ
第四款 相續人ノ廢缺セル相續財産ノ處分

第三百四十二條 相續人現出セス相續人ノ有無分明ナラス又ハ相續人相續ヲ拋棄シタルトキハ相續人
ノ廢缺セルモノト看做ス

第三百四十三條 相續地ノ區裁判所ハ利害關係人又ハ檢事ノ請求ニ因リテ相續財産ノ管理人ヲ命ス可
シ

第三百四十四條 管理人ハ利害關係人ヲ召喚シテ相續財産ヲ調査シ其目錄ヲ作り財産ノ形狀ヲ檢閲セ
シト可シ

管理人ハ此手續ヲ終了シタル後相續ニ屬スル權利ヲ行使シ之ヲ廢求シ又其相續ニ對スル請求ニ答辯

◎財産取得編

乙二百六十五

金錢ハ相續財産中ニ存スルモノト其賣却ヨリ得タルモノトナリハス供託所ニ之ヲ供託ス可シ
相續ノ負擔スル債務ハ區裁判所ノ許可ヲ得ルニ非サレハ之ヲ辨濟スルコトヲ得ス

第三百四十五條 限定受諾者ノ義務及ヒ責任ニ關シ第三百二十八條以下ニ定メタル規則ハ管理人ニ之ヲ適用ス

第三百四十六條 管理人ハ計算ヲ完了シテ尙ホ相續財産ノ存スルニ於テハ區裁判所ノ許可ヲ得テ之ヲ競賣ニ付シ其得タル金額ヲ供託所ニ供託ス可シ
管理人ハ其領收證ヲ區裁判所ニ差出タシ區裁判所ハ之ヲ保存ス可シ

第三百四十七條 相續人現出スルトキハ其相續人ハ區裁判所ヨリ供託所ノ領收證及ヒ相續人タル身分ノ證明書ヲ得テ之ヲ供託所ニ提出シ供託金額ヲ領收ス可シ

第三百四十八條 相續人アラサルコト確實ニ至リタルトキハ國ハ特別法ニ從ヒ供託金額ヲ領收ス可シ

第十四章

贈與及ヒ遺贈

總則

第三百四十九條 贈與トハ當事者ノ一方カ無償ニテ他ノ一方ニ自己ノ財産ヲ移轉スル要式ノ合意ヲ需フ

第三百五十條 贈與ハ單純、有期又ハ條件附ナルコト有り
贈與ハ法律ノ認メタル原因アルニ非サレハ之ヲ廢罷スルコトヲ得ス

第三百五十一條 贈與者ハ贈與物ノ妨碍及ヒ追奪ヲ擔保セス但其贈與以後ニ係ル贈與者ノ所爲ヨリ生シタル妨碍及ヒ追奪ハ此限ニ在ラス

第三百五十二條 遺贈トハ當事者ノ一方カ他ノ一方ニ無償ニテ自己ノ財産ヲ遺言ニ因リテ死亡ノ時ニ移轉スル行爲ヲ謂フ
遺贈ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢罷スルコトヲ得

第三百五十三條 遺言書中ニ存スル不能又ハ不法ノ條件ハ之ヲ記セサルモノト看做ス
贈與書中ニ不能又ハ不法ノ條件アルトキハ其贈與ヲ無効ト爲ス

第一節 贈與又ハ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力

第三百五十四條 法律上特ニ無能力者ト定メタル者ヲ除ク外何人ニ限ラズ贈與及ヒ遺贈ヲ爲シ又ハ收受スル能力ヲ有ス

第三百五十五條 左ニ掲クル者ハ贈與ヲ爲ス能力ヲ有セス

第一 贈與ヲ爲ス時ニ於テ喪心シタル者

第二 禁治產者

第三 瘋癲ノ爲メ病院又ハ監獄ニ在ル者

第四 未成年者但夫婦財産契約ノ爲メ法律ノ特ニ許ス場合ハ例外トス

第三百五十六條 准禁治產者ハ財産讓渡ノ爲メ法律ノ要スル方式ニ從フニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ス

第三百五十七條 左ニ掲クル者ハ遺贈ヲ爲ス能力ヲ有セス

第一 遺贈ヲ爲ス時ニ於テ喪心シタル者

第二 民事上ノ禁治產者

第三 瘋癲ノ爲メ病院又ハ監獄ニ在ル者

○財産取得編

第四百 未成年者但自治産者ハ此限ニ在ラス

乙二百六十八

第二款 贈與

第一款 贈與ノ方式

第三百五十八條 贈與ハ分家ノ爲メニスルモノト其他ノ原因ノ爲メニスルモノトナ間ハス普通ノ合意ノ成立ニ必要ナル條件ヲ具備スル外尙ホ公正證書ヲ以テスルニ非サレハ成立セス
然レトモ慣習ノ贈物及ヒ單一ノ手渡ニ成ル贈與ニ付テハ此方式ヲ要セス

第三百五十九條 贈與ハ贈與者ノ現有ノ財産ノミチ包含ス若シ將來ノ財産ヲ包含シタルトキハ其財産ニ付テハ贈與ハ無効トス
然レトモ數額ノ定モマリタル金錢又ハ定量物ノ贈與ハ贈與者ノ現有スルト否トナ間ハス有効トス

第三百六十條 贈與ノ性質又ハ諾約ニ因リテ受贈者カ贈與者ノ債務ヲ轉濟スル義務ヲ負ヒタルトキハ其義務ハ贈與ノ時既ニ在存シタル債務ニ非サレハ包含セス
受贈者カ贈與者ノ將來ノ債務ヲ轉濟ス可キノ諾約ヲ爲シタルトキハ其諾約ハ無効トス

第三百六十一條 贈與者ハ自己ノ利益ニ於テスルニ非サレハ自己ニ先タテ受贈者ノ死亡スルトキ其贈與ヲ解除ス可キ條件ヲ要スルコトヲ得ス
若シ贈與者カ其相續人又ハ第三者ノ利益ニ於テ此解除條件ヲ要スルタルトキハ其條件ハ無効トス

第三百六十二條 前條第一項ノ規定ニ從ヒテ有効ニ要スル解除條件ノ成就ハ受贈者ノ相續人ニ對スルト第三者ニ對スルトナ間ハス普通ノ合意ニ於テ要スル解除條件ト同一ノ効力ヲ生ス
然レトモ受贈者ノ婦ハ解除ニ拘ハラズ左ノ二箇ノ條件具備スルトキハ贈與財産ニ付キ法律上ノ抵當

權ヲ保有ス

第一 贈與カ夫婦財産契約ヲ以テ夫ノ爲メ爲サレタルモノナルトキ

第二 贈與財産ノ外ナル夫ノ財産ヲ以テ婦ノ特有財産ノ返還ヲ擔保スルニ足ラサルトキ

第二款 贈與ノ廢止

第三百六十三條 贈與ハ合意ヲ無効ト爲ス普通ノ原因ノ外尙ホ贈與者ノ要スル條件ノ不履行ノ爲メ之ヲ廢止スルコトヲ得

第三百六十四條 條件ノ不履行ニ基ク贈與ノ廢止ハ贈與者又ハ其承繼人ヨリ之ヲ請求スルコトヲ得

第三百六十五條 條件ノ不履行ニ基キ贈與ヲ廢止シタル場合ニ於テハ受贈者ニ對スルト第三者ニ對スルトナ間ハス未決條件ノ成就ニ因リテ合意ヲ解除シタルトキ同一ノ効力ヲ生ス

第三款 夫婦間ノ贈與ノ特例

第三百六十六條 未成年ノ夫又ハ婦ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ人ノ許諾及ヒ立會ヲ得且夫婦財産契約ヲ以テスルニ非サレハ贈與ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十七條 夫婦間ノ贈與ハ何等ノ約款アルニ拘ハラズ婚姻中贈與者隨意ニ之ヲ廢止スルコトヲ得

贈與ノ廢止ハ第三者ニ對シテ効力ヲ有セス但贈與ノ登記ニ廢止ノ狀ヲ附記シタル後ニ受贈者ノ遺産所持者ヨリ贈與財産ニ付キ物權ヲ取得シタル第三者ニ對シテハ此限ニ在ラス

第四節 遺贈

第一款 遺言ノ方式

第三百六十八條 遺言ハ遺言者ノ自筆ノ證書、公正證書又ハ秘密ノ方式ニ依リテ之ヲ爲スコトヲ得

◎財産取得編

乙二百六十九

然レトモ二人以上ノ人ハ一箇ノ證書ヲ以テ遺言ヲ爲スコトヲ得ス

第三百六十九條 自筆ノ遺言書ハ遺言者カ其全文、日附及ヒ氏名ヲ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其效ヲ有セス

第三百七十條 公正證書ニ依ル遺言ハ公證人一人及ヒ證人二人ノ前ニ於テ遺言者カ遺言ノ旨趣ヲ口授シ公證人之ヲ筆記シ朗讀シタル後遺言者及ヒ證人各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルニ非サレハ其效ヲ有セス

然レトモ氏名ヲ自書スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ證書ニ記載スルヲ以テ足ル

第三百七十一條 秘密ノ方式ニ依ル遺言書ハ遺言者ノ自書シタルト他人ノ之ヲ寫シタルトテ間ハス左ノ諸件ヲ具備スルニ非サレハ其效ヲ有セス

第一 遺言者カ氏名ヲ自書シテ捺印シタルコト

第二 遺言書ヲ封シテ遺言者カ之ニ封印シタルコト

第三 遺言者カ公證人一人及ヒ證人二人ノ前ニ封書ヲ提出シテ自己ノ遺言書タル旨ヲ陳述シタルコト

第四 公證人カ遺言者ノ陳述ト之ヲ聽キタル日附トヲ封紙ニ記シテ遺言者及ヒ證人ト共ニ各其氏名ヲ自書シテ捺印シタルコト但此場合ニ於テ氏名ヲ自書スル能ハサル證人アルトキハ公證人其事由ヲ封紙ニ記スルヲ以テ足ル

公證人ハ遺言者ノ死亡ノ後其相続人ノ立會ノ上ニ非サレハ開封セサル旨ヲ記シタル領收書ヲ遺言者又ハ其指定シタル證人中ノ一人ニ授付ス可シ

第三百七十二條 秘密ノ方式ニ依ル遺言トシテ有效ナル爲メ前條ニ定メタル條件ニ缺クルモノ有リト

雖モ其全文、日附及ヒ氏名共ニ遺言者ノ自書ニ係ルトキハ自書ノ遺言書トシテ有效トス

第三百七十三條 受遺者、遺言ニ立會フ公證人ノ筆生其他普通ノ無能力者ハ證人ト爲ルコトヲ得ス

第二款 遺言ノ特別方式

第三百七十四條 軍人及ヒ軍屬ニシテ遠征中ニ在ル者又ハ内地ト雖モ交戦中若クハ合圍中ニ在ル者ハ將校一人證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十五條 遠征中、交戦中又ハ合圍中ニ在ル軍人及ヒ軍屬ニシテ疾病又ハ傷疾ノ爲メ病院ニ在ル者ハ其院ノ醫官及ヒ事務官ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十六條 傳染病ノ爲メ行政處分ヲ以テ交通ヲ遮斷シタル地方ニ在ル者ハ其疾病中ナルト否トテ間ハス醫察官一人及ヒ證人一人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十七條 航海中ニ在ル者ハ軍艦ニ在テハ將校一人其他ノ艇船ニ在テハ事務員一人及ヒ證人二人ノ補助ヲ以テ遺言書ヲ作ルコトヲ得

第三百七十八條 海上ニテ遺言書ヲ作りタルトキハ其旨ヲ航海日誌ニ記載ス可シ

第三百七十九條 本款ノ規定ニ從ヒテ作りタル遺言者ニハ遺言書、代書者及ヒ立會人各其氏名ヲ自書シテ捺印ス可シ

氏名ヲ自書シ又ハ捺印スル能ハサル者アルトキハ其事由ヲ遺言書ニ記載スルヲ以テ足ル

第三百八十條 外國ニ在ル日本人ハ第三百六十九條ニ定メタル自筆ノ方式ニ依リ又ハ其地ニ用ニル公正ノ方式ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三百八十一條 外國ニ於テ作りタル遺言書ハ遺言者ノ日本國內ニ有スル住所ノ區裁判所ノ領事ニ之ヲ登録シ若シ住所ノ知レサトキルハ最終居所ノ區裁判所ノ領事ニ之ヲ登録シタル後ニ非サレハ日本

○財産取得編

國內ニ在ル財産ニ付キ其遺言ヲ執行スルコトヲ得ス

又其遺言書ニ日本國內ニ在ル不動産ノ處分ヲ包含スルトキハ其不動産所在地ノ區裁判所ニ登記ヲ求メタル後ニ非サレハ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第三百八十二條 日本ニ在ル外國人ハ日本ノ法律ニ從ヒ又ハ其本國ノ法律ニ從ヒテ遺言ヲ爲スコトヲ得

第三款 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ノ部分

第三百八十三條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル財産ト相續人ニ貯存ス可キ財産トノ部分ヲ定ムルニハ家督相續ノ特權ヲ組成スルモノヲ控除ス

第三百八十四條 法定家督相續人アルトキハ被相續人ハ相續財産ノ半額マテニ非サレハ他人ノ爲メ遺贈ヲ爲スコトヲ得ス

家族ノ遺産ヲ相續スル男屬親アルトキモ亦同シ

第三百八十五條 利益權ノ如キ其存立時間ノ不確實ナル權利ハ相續ノ時ニ於ケル價額ヲ査定シテ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ定ム

其權利ノ價額ヲ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スルトキハ相續人ハ或ハ被相續人ノ遺贈ヲ履行シ或ハ遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ノ完全ナル所有權ヲ與ヘテ其權利ヲ受戻スコトヲ得

第三百八十六條 遺贈ヲ爲スコトヲ得ル部分ヲ超過スル遺贈ハ之ヲ其部分マテニ減殺ス

第三百八十七條 減殺ス可キ分量ハ相續ノ時ニ現存スル總テノ財産ノ評價額ヨリ被相續人ノ債務額ヲ控除シタル剩餘額ニ付キ之ヲ算定ス

第三百八十八條 遺贈ノ幾分ヲ減殺シテ貯存ス可キ財産ノ分量ヲ組成ス可キトキハ包括ノ遺贈ト特定

ノ遺贈トナ間ハ其價額ノ割合ヲ以テ總テノ遺贈ヲ減殺ス可シ

第四款 遺言ノ効力及ヒ執行

第三百九十條 單純又ハ有期ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ受遺者ノ知ルト否トナ間ハ包括ノ遺贈ニ付テハ其包含スル財産及ヒ債務ヲ受遺者ニ移轉シ特定ノ遺贈ニ付テハ其遺贈物ノ權利ヲ受遺者ニ

移轉ス然レトモ有期ノ遺贈ハ満期ニ至ルマテ其執行ヲ止ム
停止又ハ解除ノ條件附ニ於ケル遺贈ノ効力ハ合意ノ事項ニ關シテ規定シタル如ク其條件ノ成就如何ニ從フ

遺贈ノ目的物カ代替物ナルトキハ其所有權ハ財産編第三百三十二條ノ規定ニ從ヒテ移轉ス

如何ナル場合ニ於テモ受遺者ハ遺贈ヲ拋棄スルコトヲ得

第三百九十一條 遺言者カ不分ノ權利ヲ有スル物ヲ遺贈シタルトキハ受遺者ハ遺言者ト同一ナル權利ヲ取得ス

第三百九十二條 受遺者ハ遺贈物ノ引渡ヲ要求シタル時ヨリ後ニ非サレハ遺贈物ノ果實ヲ收受スル權利ヲ有セス但期限ノ到來シ又ハ未必條件ノ成就シタルコトヲ要ス
然レトモ左ノ三箇ノ場合ニ於テハ受遺者ハ遺言者ノ死亡ノ滿期又ハ條件成就ノ時ヨリ要求ヲ待タスシテ直チニ果實ヲ收受スル權利ヲ有ス

- 第一 遺言者カ果實ヲ收受スル權利ヲ明示シタルトキ
- 第二 遺贈カ養料ノ性質ヲ有スルトキ
- 第三 相續人カ惡意ヲ以テ遺言ヲ隠蔽シタルトキ

○財産取得編

第三百九十三條 遺贈物ハ其遺贈ノ單純ナルトキハ當然ノ附從物ト共ニ遺言者ノ死亡ノ時ニ於ケル現
狀ニテ之ヲ引渡ス可シ其遺贈ノ有期又ハ未必需條件附ナルトキハ引渡ヲ請求スルコトヲ得ヘキ時ニ於
ケル現狀ニテ之ヲ引渡ス可シ

相續人カ遺贈物ニ加ヘタル改良又ハ毀損ハ相續人ト受遺者トノ間相互ニ賠償ヲ請求スル權利ヲ生ズ
解除ノ未必需條件ヲ以テ遺贈ヲ爲シタル場合ニ於テ其條件ノ成就シタルトキハ受遺者又ハ其相續人コ
リ遺贈物ヲ現狀ニテ返還ス可シ但人爲ニ因ル改良又ハ毀損ニ付キ雙方ノ間ニ於ケル相互ノ賠償ヲ妨
ケス

第三百九十四條 遺言者カ遺言ノ後ニ取得シタル土地又ハ建物ハ遺贈ノ不動産ニ接著シ又ハ其不動産
ノ利用ヲ改良スル爲メニ供ヘタルモノト雖モ其不動産ノ受遺者ヲ利セス

第三百九十五條 遺言書ハ公正證書ヲ除ク外相續地ノ區裁判所ノ檢認ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ執行
スルコトヲ得ス

封印アル遺言書ハ區裁判所ニ於テスルニ非サレハ開封スルコトヲ得ス
前二項ノ規定ニ違フ者ハ百圓以下ノ過料ニ處ス

第三百九十六條 遺言ノ執行及ヒ遺贈物ノ引渡ニ關スル費用ハ相續財産ノ負擔トス但貯存財産ニ負擔
セシムルコトヲ得ス

第三百九十七條 不動産物權ノ遺贈ハ遺言者ノ死亡ノ後受遺者カ其遺贈ヲ知リタル時ヨリ三十日內ニ
之ヲ登記シタルニ非サレハ遺言者ノ死亡ノ日ニ溯リテ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス
登記ノ費用ハ受遺者ノ負擔トス

第三百九十八條 遺言者ハ合意又ハ遺言ヲ以テ遺贈ノ執行ヲ一人又ハ數人ニ委託スルコトヲ得

遺言執行者ハ代理人ノ普通義務ニ服ス

第五款 遺言ノ廢絶及ヒ失効

第三百九十九條 遺言ハ遺言者隨意ニ之ヲ廢絶スルコトヲ得廢絶ハ明示又ハ默示ヲ以テ之ヲ爲スコト
ヲ得

第四百條 遺言者カ遺言ノ方式ニ從ヒ遺言ノ全部又ハ一分ヲ廢絶スル意思ヲ證書ニ記載シタルトキハ
其廢絶ハ明示ノモノトス

第四百一條 後ノ遺言ヲ以テ前ノ遺言ニ包含スル特定物ヲ處分シタルトキハ其物ニ付テハ前ノ遺言ヲ
默示ニテ廢絶シタルモノトス

遺言者カ生存中遺言ニ包含スル特定物ヲ有償又ハ無償ニテ處分シタルトキモ亦同シ

第四百二條 廢絶ニ歸シタル遺言ハ前條ノ處分ノ無効ト爲ルトキト雖モ有效ニ復セス

第四百三條 遺言ハ受遺者ノ條件不履行ノ爲メ又ハ遺言者ヲ死ニ致シタル原因ノ爲メ相續人ヨリ廢絶
ヲ請求スルコトヲ得

第四百四條 遺言ハ方式上完全ノモノト雖モ左ノ場合ニ於テハ其効ヲ失フ

第一 受遺者カ遺言者ヨリ先ニ死亡シタルトキ

第二 停止條件附ノ遺言ニ付キ其條件ノ成就前ニ受遺者ノ死亡シタルトキ

第四百五條 廢絶又ハ失効ニ歸シタル遺言ノ部分ニ付テハ曾テ遺言アラサリシモノト看做ス但遺言者
カ明示ヲテ以其部分ヲ利得ス可キ者ヲ指定シタルトキハ此限ニ在ラス

第五節 包括ノ遺贈又ハ遺贈ニ基ク不分財産ノ分割

第四百六條 包括ノ贈與又ハ遺贈ヲ爲シタルニ因リ贈與者又ハ相續人ト受贈者又ハ受遺者トノ間ニ不

◎財産取得編

乙二百七十六
分財産ヲ生シタルトキハ下ノ規定ニ從ヒ之ヲ分割ス受遺者又ハ受遺者數人アルトキモ亦同シ

第一款 分割

第四百七條 不分財産ノ所有者ノ各自ハ其財産ノ分割ヲ要求スルコトヲ得但財産篇第三十九條ノ規定ニ從ヒテ分割セサルコトヲ約シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百八條 分割ハ明示ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ要ス財産ヲ區別シテ收益スル事實ハ分割トセス

第四百九條 不分財産ノ分割ハ所有者各自ノ合意ヲ以テ自由ニ之ヲ爲スコトヲ得然レトモ左ノ場合ニ於テハ裁判ヲ以テスルニ非サレハ其分割ヲ爲スコトヲ得ス

第一 所有者中ニ未成年者、禁治産者又ハ瘋癲者アリテ其後見人又ハ假管理人アラサルトキ

第二 所有者中ニ不在者アリテ有效ニ分割ヲ承諾スル權限ヲ有スル合意上ノ代理人アラサルトキ

第三 所有者ニ合意上ノ分割ヲ承諾セサル者アルトキ

第四百十條 裁判上ノ分割ヲ要スルトキハ相續地ノ區裁判所ハ相續人、債權者又ハ檢事ノ請求ニ因リ封印ヲ爲シ及ヒ目錄ヲ作ラシム可シ

第四百十一條 裁判上ノ分割ヲ要セサルトキト雖モ債權者ハ區裁判所ノ許可ヲ得テ封印及ヒ目錄調製ヲ請求スルコトヲ得但執行力アル證書ヲ有スルトキハ此許可ヲ要セス

第四百十二條 所有者ノ各自ハ不分財産ノ現物ニテ其部分ノ引渡ヲ要求スルコトヲ得但債權者其引渡ヲ差押ヘタルトキ又ハ所有者ノ多數ヲ以テ其財産ノ負擔スル債務及ヒ費用ヲ豫メ擔保スル爲メ賣却ヲ必要ト決シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十三條 未成年者、禁治産者、瘋癲者又ハ不在者ノ爲メ定メタル規則ニ違ヘル分割ハ其者ノ利益

ニ於テノミ假定ノモノトス

第四百十四條 分割ノ際利益ノ相反スル無能力者又ハ不在者ノ數人アルトキハ其各自ノ爲メ臨時侯佐人又ハ管理人ヲ指定ス可シ

第四百十五條 分割ノ終了シタルトキハ各所有者ハ其領收シタル物ノ證書ヲ保有ス

所有者ノ總體又ハ數人ニ分割シタル一箇ノ物ノ證書ハ其最大ノ部分ヲ領收シタル者之ヲ保有ス最大ノ部分ヲ領收シタル者ナキトキハ各所有者ノ協議ヲ以テ其保有者ヲ定ム若シ協議ハサルトキハ裁判所之ヲ指定ス

何レノ場合ニ於テモ證書ノ保有者ハ他ノ所有者ノ求メニ應シテ之ヲ使用セシム可シ

第四百十六條 所有者ハ各自ニ受クル部分ノ割合ヲ以テ債務ヲ分擔ス

第二款 分割ノ効力及ヒ擔保

第四百十七條 分割ノ効力ニ付テハ第五百五十五條ノ規定ヲ適用ス

第四百十八條 各所有者ハ分割前ノ原因ニ基ク分割物ノ妨礙及ヒ追尋ニ付キ互ニ擔保ノ責ニ任ス但別段ノ合意ヲ以テ擔保ヲ免除シタルトキハ此限ニ在ラス

第四百十九條 債權ニ付テハ分割ノ當時ニ於ケル債務者ノ資力ノ限度マテニ非サレハ各所有者擔保ノ責ニ任セス

第三款 分割ノ銷除

第四百二十條 分割ハ財産編第三百四條以下ニ定メタル區別ニ從ヒ不成立又ハ無効タル外尙ホ所有者ノ一人カ其領收シタル部分ニ付キ四分一以上ノ缺損ヲ被フリタルトキハ其缺損ノ爲メ之ヲ銷除スルコトヲ得

○財産取得編

換取ノ査定ハ分割ノ時ニ於ケル物ノ價格ニ從ヒテ之ヲ爲ス可シ
第四百二十一條 分割銷除ノ既經ハ財産編第五百四十四條以下ニ定メタル時及ヒ遺諾ニ因リテ消滅ス

第十五章 夫婦財産契約

第一節 總則

第四百二十二條 夫婦財産契約ハ婚姻ノ儀式前ニ之ヲ爲シ及ヒ公證人ヲシテ其設置ヲ作ラシムルニ非サレハ成立セズ

婚姻ノ儀式後ハ契約ヲ變更スルコトヲ得ス

第四百二十三條 婚姻ヲ爲スコトヲ得ル未成年者ハ婚姻ノ許諾ヲ與フ可キ尊屬親又ハ後見人ノ立會ニテ財産契約ヲ爲スコトヲ得

第四百二十四條 財産契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタルトキハ財産ノ關係ハ法定ノ制ニ從フ

第四百二十五條 日本ニ於テ財産契約ヲ爲サスシテ婚姻ヲ爲シタル外國人ハ夫タル者ノ本國ニ行ハルル普通ノ制ニ從ヒタルモノト看做ス

第二節 法定ノ制

第四百二十六條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ現ニ所有シ又ハ將來ニ所有ス可キ特有財産ヨリ婚姻中ニ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ婚姻中ニ得タル所得ハ婚姻中ノ費用分擔ノ爲メニ之ヲ配偶者ニ供出シタルモノト看做ス

第四百二十七條 夫又ハ戸主タル婦カ配偶者ノ特有財産ニ付テ有スル權利ハ用益者ノ權利ニ同シ

又配偶者ノ特有財産ニ關シテ收益ヲ爲ス夫又ハ戸主タル婦ハ用益者ノ負擔スル修繕其他收益ヲ以テ

補濟ス可キ義務ヲ負フ

第四百二十八條 夫ハ婦ノ特有財産入夫ハ戸主タル婦ノ財産ヲ管理ス

第四百二十九條 夫又ハ入夫ハ婦又ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婦ノ特有財産又ハ戸主タル婦ノ財産ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但人事編第二百二十九條及ヒ第二百七十五條ノ場合ハ此限ニ在ラズ

第四百三十條 入夫ハ戸主タル婦ノ承諾ヲ得ルニ非サレハ婚姻中ノ所得ヲ讓渡シ又ハ之ヲ擔保ニ供スルコトヲ得ス但其特有財産ヨリ生スル果實及ヒ自己ノ勞力ニ因リテ得タル所得ハ此限ニ在ラズ

第四百三十一條 夫カ婦ノ特有財産ニ付キ入夫カ戸主タル婦ノ財産ニ付キ其承諾ヲ得スシテ爲ス實債借ニ關シテハ財産編第十九條以下ノ規定ヲ適用ス

第四百三十二條 管理ノ失當ニ因リ夫又ハ入夫カ婦ノ特有財産又ハ戸主タル婦ノ財産ヲ危險ニ置クトキハ婦又ハ戸主タル婦ハ自ら其財産ヲ管理セント請求スルコトヲ得

第四百三十三條 婦又ハ入夫カ婚姻ノ儀式ノ時ニ於テ負ヘル債務及ヒ婚姻中ニ生スル債務ニ付テハ債權者ハ婦又ハ入夫ノ特有財産ニ對シテ權利ヲ行フコトヲ得

第四百三十四條 婦ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ付テハ債權者ハ其債務カ家事管理ノ爲メニ生シタルコトヲ證スルコトヲ得

入夫ノ名ヲ以テ生セシメタル債務ニ付テハ債權者ハ其債務ノ財産管理ノ爲メニ生シタルコトヲ證スルコトキニ限リ戸主タル婦ニ對シテ其補濟ヲ請求スルコトヲ得

第四百三十五條 婦又ハ入夫ノ特有財産タルコトヲ證セサル財産ハ總テ夫又ハ戸主タル婦ニ戻スルモノト看做ス

○財産取得編

○債權擔保編目錄

總則

第一部 對人擔保

第一章 保證

第一節 保證ノ目的及ヒ性質
第二節 保證ノ効力

第一款 保證人債權者間ノ保證ノ効力

第二款 保證人債務者間ノ保證ノ効力

第三款 共同保證人間ノ保證ノ効力

第三節 保證ノ消滅

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶

總則

第一節 債務者間ノ連帶

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第二款 債務者間ノ連帶ノ効力

第三款 債務者間ノ連帶ノ終了

第四款 全部義務

乙二百八十

二百八十四丁

二百八十五丁

企 丁

企 丁

二百八十七丁

二百八十八丁

二百九十丁

二百九十二丁

二百九十三丁

二百九十四丁

企 丁

企 丁

二百九十五丁

企 丁

二百九十八丁

二百九十九丁

第三節 債權者間ノ連帶

第一款 債權者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第二款 債權者間ノ連帶ノ効力

第三款 債權者間ノ連帶ノ終了

第三章 任意ノ不可分

第二部 物上擔保

第一章 留置權

第二章 動產質

第一節 動產質契約ノ性質及ヒ成立

第二節 動產質契約ノ効力

第三章 不動產質

第一節 不動產質ノ目的、性質及ヒ組成

第二節 不動產質ノ効力

第四章 先取特權

總則

第一節 動產及ヒ不動產ニ係ル一般ノ先取特權

第一款 一般ノ先取特權ノ原因

第二款 訟事費用ノ先取特權

○債權擔保編

乙三百八十一

企 丁

三百十三丁

企 丁

三百十二丁

企 丁

三百十一丁

企 丁

三百八丁

企 丁

三百六丁

企 丁

三百四丁

企 丁

三百三丁

企 丁

三百一丁

企 丁

第三則 最後疾病費用ノ先取特權	全	乙二百八十二
第四則 雇人給料ノ先取特權	全	三百十四
第五則 日用品供給ノ先取特權	全	全
第二款 一般ノ先取特權ノ効力及ヒ順位	全	全
第二節 動産ニ係ル特別ノ先取特權	全	三百十五
第一款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的	全	全
第一則 不動産質貸人ノ先取特權	全	三百十六
第二則 種子及ヒ肥料ノ供給者ノ先取特權	全	三百十八
第三則 農業稼人及ヒ工業職工ノ先取特權	全	全
第四則 動産物有保者ノ先取特權	全	全
第五則 動産物賣主ノ先取特權	全	全
第六則 旅店主人ノ先取特權	全	三百十九
第七則 舟車運送營業人ノ先取特權	全	全
第八則 職務上ノ所爲ニ對スル債權者ノ先取特權	全	三百二十
第九則 保證金貸主ノ先取特權	全	全
第二款 動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ順位	全	全
第三節 不動産ニ係ル特別ノ先取特權	全	三百二十一
第一款 不動産ニ係ル特別ノ先取特權ノ原因及ヒ目的	全	全
第一則 讓渡人ノ先取特權	全	三百二十二

第二則 共同分割者ノ先取特權	全	丁
第三則 工匠、技師及ヒ工事請負人ノ先取特權	全	三百二十三
第四則 金錢貸主ノ先取特權	全	三百二十四
第二款 債權者間ニ於ケル不動産ノ特別先取特權ノ効力及ヒ順位	全	三百二十五
第三款 第三所持者ニ對スル不動産先取特權ノ効力	全	三百二十八
第五章 抵當	全	三百二十九
第一節 抵當ノ性質及ヒ目的	全	全
第二節 抵當ノ種類	全	三百三十一
第一款 法律上ノ抵當	全	丁
第二款 合意上ノ抵當	全	三百三十二
第三款 遺言上ノ抵當	全	三百三十三
第三節 抵當ノ公示	全	全
第一款 登記ノ條件及ヒ期間	全	丁
第二款 登記ノ抹消減少及ヒ正誤	全	三百三十六
第四節 債權者間ノ抵當ノ効力及ヒ順位	全	三百三十八
第五節 第三所持者ニ對スル抵當ノ効力	全	三百四十一
總則	全	全
第一款 抵當債務ノ辨濟	全	三百四十二
第二款 滅除	全	丁
○債權擔保編	全	乙二百八十三

第三款 財産檢索ノ抗辯

第四款 委乘

第五款 競賣及ヒ所有權徵收

第六節 登記官吏ノ責任登記

第七節 抵當ノ消滅

○債權擔保編

總則

第一條 債務者ノ總財産ハ動産ト不動産ト現在ノモノト將來ノモノト之間ハ其債權者ノ共同ノ擔保ナリ但法律ノ規定又ハ人ノ處分ニテ差押ヲ禁シタル者ハ此限ニ在ラス

債務者ノ財産カ總テノ義務ヲ擔保スルニ足ラサル場合ニ於テハ其債權ハ債權ノ目的ノ原因、證據ノ如何ト日附ノ前後トニ拘ハラス其債權額ノ割合ニ應ジテ之ヲ各債權者ニ分與ス但其債權者ノ間ニ優先ノ正當ナル原因アルトキハ此限ニ在ラス

財産ノ差押、賣却及ヒ其代價ノ順序配當又ハ其分配當ノ方式ハ民事訴訟法ヲ以テ之ヲ規定ス

第二條 義務履行ノ特別ノ擔保ハ對人ノモノ有リ物上ノモノ有リ

第一 保證

第二 債務者間又ハ債權者間ノ連帶

第三 任意ノ不可分

乙二百八十四

三百四十六丁

三百四十七丁

三百四十八丁

三百五十一丁

三百五十一丁

物上擔保ハ之ヲ左ニ掲ケ

第一 留債權

第二 動産質權

第三 不動産質權

第四 先取特權

第五 抵當權

第一部 對人擔保

第一章 保證

第三條 保證ハ任意ノモノ有リ法律上ノモノ有リ又裁判上ノモノ有リ
下ノ第一節乃至第三節ノ規定ハ右三種ノ保證ニ共通ナリ

第一節 保證ノ目的及ヒ性質

第四條 保證ハ或人カ債務者ノ其義務ヲ履行セサルニ於テハ之ヲ履行スルコトヲ諾約スル契約ナリ此
諾約ハ債務者ノ過失ニ歸ス可キ不履行ノ場合ニ於テハ債權者ニ賠償スル義務ヲ暗ニ包含ス

第五條 保證ハ主タル義務ノ目的ト異ナルモノヲ目的ト爲ストキハ保證トシテハ無効ナリ
然レトモ保證人ハ主タル債務者ノ諾約シタル物又ハ所爲ノ對價トシテ不履行ヲ豫見シタル過當金額
ヲ有效ニ諾約スルコトヲ得

第六條 保證人ノ義務ハ主タル義務ヨリ一層大ナルコトヲ得ス又一層重キ證據ニ服スルコトヲ得ス若
シ保證人ノ義務カ一層大ナルトキ又一層重キトキハ主タル義務ノ限度及ヒ證據ニ之ヲ減ス

第七條 前條ノ禁止ノ規定ハ債務者ヨリ其主タル義務ノ爲メ物上擔保ヲ供セサルトキ保證人ヨリ其從

○債權擔保編

乙二百八十五

タル義務ノ物上擔保ヲ供スルコトヲ妨ケス又保證人カ主タル債務者ヨリ一層嚴ナル執行方法ニ服スルコトヲモ妨ケス

保證人ハ亦第三者ヲ引受人トシテ已レテ保證セシムルコトヲ得此引受人ニ對シテハ保證人ハ主タル債務者ノ地位ヲ有ス

第八條 金額又ハ定マリタル物ニ制限シタル保證ハ其利息ニモ果實ニモ其他ノ附從物ニモ及フコト無シ

然レトモ主タル義務ノ無限ノ保證ハ填補ノ利息、遲延ノ利息其他此債務ノ天然上、法律上又ハ合意上ノ附從物ニ及ヒ又主タル債務者ニ對シテ爲シタル最初ノ訴ノ費用ト其訴ヲ保證人ニ告知シタル以後ノ費用トニモ及フ

第九條 總テ有效ナル義務ハ之ヲ保證スルコトヲ得

無能力者ノ取消スコトヲ得ヘキ義務ト雖モ亦有效ニ之ヲ保證スルコトヲ得其義務カ裁判上ニテ取消サレタル後ト雖モ保證ハ其効力ヲ存ス但保證人カ其保證ノ際債務者ノ無能力ヲ知りタルトキニ限ル

第十條 何人ニテモ將來ノ債務ヲ保證スルコトヲ得又債權者又ハ債務者ノ方ニ於テ附屬ノ條件ニ對ル

債務ヲモ保證スルコトヲ得但保證人ニ於テ其債務ノ性質及ヒ廣狹ヲ査定スルコトヲ得ルトキニ限ル

第十一條 何人ニテモ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ其不知ニテ又ハ其意ニ反シテモ其保證人ト爲ルコトヲ得

雜濟シタル保證人ノ其債務者ニ對スル求償ハ第二節第二款ニ於テ之ヲ規定ス

第十二條 有效ニ保證人ト爲ルニハ一般ナルト債務者ニ對スルトナ開ハス無償ニテ義務ヲ負擔スル能カヲ有スルコトヲ要ス

然レトモ主タル契約カ有償ナルトキハ保證人ノ債務者ニ對スル無能力ハ債權者カ之ヲ知りタルトキニ非サレハ保證人ヨリ債權者ニ其無能力ヲ以テ對抗スルコトヲ得ス

第十三條 債務ヲ保證スル意思ハ之ヲ明示セザルトキハ明カニ事情ヨリ生スルコトヲ要ス然レトモ其意思ハ契約者ノ一方ヲ他ノ一方ニ勸メ又ハ其一方ノ現在若クハ將來ノ有資力ヲ確言シタル事實ノミヨリ之ヲ推測スルコトヲ得ス

若シ證書ノ署名者中ノ一人カ共同債務者ナルカ又ハ保證人ナルカニ付キ疑アルトキハ之ヲ保證人ト看做ス

第十四條 保證人ノ義務ハ其相續人ノ負擔ニ歸シ又債權者ノ相續人ノ利益ニ歸ス但反對ノ要約アルトキハ此限ニ在ラス

第十五條 債務者カ保證人ヲ立ツ可キ合意ヲ以テ義務ヲ負ヒタルトキハ其債務者ハ債務ノ性質及ヒ大小ニ應シ有資力ノ人ニ非サレハ保證人トシテ之ヲ立ツルコトヲ得ス

若シ右ノ保證人カ無資力ト爲リタルトキハ債務者ハ前項ト同一ノ條件ヲ具備スル他ノ者ヲ立ツルコトヲ要ス

此他保證人ハ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内ニ於テ住所ヲ有シ又ハ假住所ヲ定ムルコトヲ要ス債權者ヨリ人ヲ指定シテ保證人ヲ要約シタルトキハ本條ノ條件ヲ要セス

第十六條 債務者カ前條ノ條件ヲ具備スル保證人ヲ立ツルコト能ハサルトキハ十分ナル物上擔保ヲ與フルコトヲ得

第十七條 商證券ノ保證及ヒ仲買人カ委託者ニ對シテ諾約シタル擔保ノ特例ハ商法ニ於テ之ヲ規定ス

第二節 保證ノ效力

◎ 債權擔保編

第一款 保證人債權者間ノ保證ノ效力

第十八條 債權者ハ債務者ニ義務履行ノ催告ヲ爲シタルモ其效果アラザリシコトノ證據ヲ保證人ニ示サシテ之ヲ既追スルコトヲ得ス

然レトモ債務者カ行方知レヌ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケ若クハ顯然タル無資力ノ形狀ニ在ルトキハ右ノ催告ヲ必要トセス

第十九條 保證人ハ右ノ外下ノ制限及ヒ條件ニ從ヒ債權者カ豫メ債務者ノ財産ヲ檢索シテ之ヲ賣ラシムルコトヲ債權者ニ要求スルコトヲ得

第二十條 保證人ハ明示又ハ默示ニテ財産檢索ノ利益ヲ拋棄シ又ハ主タル債務者ト連帯シテ義務ヲ負擔シタルトキハ檢索ノ利益ヲ享ケス

總テノ場合ニ於テ保證人ハ主タル債務ノ基本ヲ爭フ前ニ檢索ノ利益ヲ以テ債權者ニ對抗セザリシトキハ其利益ヲ失フ

第二十一條 檢索ヲ要求スル保證人ハ債務者ノ不動産ニシテ義務ヲ履行ス可キ控訴院ノ管轄地内ニ在ルモノヲ債權者ニ指示スルコトヲ要ス

保證人ハ爭ニ係ル不動産ヲモ他ノ債權者ニ優先ニテ抵當ト爲リタル不動産ヲモ既追債權者ニ抵當ト爲リタル不動産ニシテ第三所持者ノ手ニ存スルモノヲモ指示スルコトヲ得ス

債務者ニ属スル動産ニ付テハ債務者之ヲ物上擔保トシテ既ニ債權者ニ供シタルトキニ非サレハ保證人其檢索ヲ要求スルコトヲ得ス

第二十二條 債權者檢索ノ有效ナル對抗ヲ受ケ其檢索ヲ爲スコトヲ意リテ債務者其後無資力ト爲リタルトキハ保證人ハ債權者ノ檢索ニ因リ得ヘカリシ金額ニ滿ツルマテ其義務ヲ免カル

第二十三條 一人ノ債務者ノ爲メ數人ノ保證人アルトキハ債務ハ均一ニテ當然其間ニ分タル但均一ニテ分別スルコトヲ定メ又ハ其保證人カ或ハ債務者ト共ニ或ハ各自ノ間ニ連帯シテ義務ヲ負擔シ若クハ其他ノ方法ニテ分別ヲ拋棄シタルトキハ此限ニ在ラス

保證ノ義務カ各別ノ證書ヨリ生スルトキト雖モ分別ノ利益ハ存在ス

第二十四條 保證人ハ檢索ノ利益ヲ用非タルト否ト分別ノ利益ヲ享クルト否トテ問ハス既追ヲ受ケタルトキハ第二十九條ニ明示シタル目的ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ参加セシムル爲メ基本ニ付テノ答辯前ニ民事訴訟法ニ定メタル方式及ヒ條件ニ從ヒ延期抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

第二十五條 保證人カ基本ニ付テ答辯スルトキハ主タル債務ノ組成又ハ其消滅ヨリ生スル抗辯ヲ以テ債權者ニ對抗スルコトヲ得

保證人ハ債務ヲ保證スルニ當リ債務者ノ無能力又ハ其承諾ノ瑕疵ヲ知ラザリシトキハ此等ノ事項ヨリ生スル無効ノ理由ヲ以テモ對抗スルコトヲ得

第二十六條 右ノ抗辯ニ付キ債權者ト保證人トノ間ニ有リタル判決ハ債務者ヲ害スルコトヲ得ス然レトモ之ヲ利スルコトヲ得但其判決ノ牽連シタル箇條ハ債務者ニ利ナルモノト不利ナルモノトヲ分ツコトヲ得ス

第二十七條 債務者ニ對シテ時効ヲ中斷シ又ハ債務者ヲ通知ニ付スル行為ハ保證人ニ對シテ同一ノ效力ヲ生ス

保證人ニ對シタル右同一ノ行為ハ保證人カ債務者ノ委任ヲ受ケ又ハ債務者ト連帯シテ義務ヲ負擔シタルトキニ非サレハ債務者ニ對シテ效力ヲ生セス

第二十八條 主タル債務者ノ爲シタル債務ノ自白ハ保證人ヲ害ス

◎ 債權擔保編

保証人ノ爲シタル自白ハ委任又ハ連帶アル場合ニ非サレハ債務者ヲ害セス

第二款 保証人債務者間ノ保護ノ効力

第二十九條 債權者ヨリ訴訟ヲ受ケタル保証人ハ第二十四條及ヒ財産編第三百九十九條ニ掲ケタル如ク主タル請求ニ對シテ債務者ノ答辯ヲ要ス可キ場合ニ於テハ其答辯ヲ爲サシムル爲メ又債務者ノ敗訴ノ言渡ヲ受ク可キ場合ニ於テハ債務者ニ對シテ次條ニ定メタル賠償ノ言渡ヲ得ル爲メ擔保附帶ノ請求ヲ以テ債務者ヲ訴訟ニ召喚スルコトヲ得

右擔保附帶ノ請求ハ債務者ノ委任ヲ受ケタル保証人ノミニ屬ス

第三十條 主タル債務ヲ辨濟シ其他自己ノ出捐ヲ以テ債務者ニ義務ヲ免カレシメタル保証人ハ債務者ヨリ賠償ヲ受クル爲メ之ニ對シテ擔保附帶ヲ有ス但左ノ區別ニ從フ

第一 保証人カ債務者ノ委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタルトキハ其債務者ニ義務ヲ免カレシメ又ハ債務者ノ名ニテ辨濟シタル元利、其擔當シタル費用、立替ヲ爲シタル時ヨリ其利息其他損害アルトキハ其賠償ノ金額ヲ債務者ヨリ償還セシムルコトヲ得又此委任ノ場合ニ於テ保証人ハ其分限ヲ以テ言渡ヲ受ケタルトキハ債務者ニ對シ直チニ其賠償ヲ受クル爲メ訴訟ヲ爲スコトヲ得

第二 保証人カ債務者ノ不知ニテ義務ヲ負擔シタルトキハ債務者ノ義務ヲ免カレシメタル日ニ於テ之ニ得セシメタル有益ノ限度ニ從ヒ右ノ賠償ヲ受ク

若シ保証人カ債務者ノ意ニ反シテ義務ヲ負擔シタルトキハ保証人ノ求償ノ日ニ於テ債務者ノ爲メ存在スル有益ノ限度ニ非サレハ右ノ賠償ヲ受クルコトヲ得ス

第三十一條 連帶又ハ不可分ニテ責ニ任スル數人ノ債務者ヨリ保証人ニ委任ヲ爲シタル場合ニ於テハ其債務者ハ財産取得編第二百四十九條ニ從ヒ保証人ニ對シテ連帶ノ擔保人タリ

第三十二條 債務者ヲ訴訟ニ参加セシムルコトヲ怠リタル保証人ハ其債務者カ債權者ニ對抗ス可キ排厥抗辯ヲ有シタルコトヲ證スルトキハ第三十條ニ定メタル求償權ヲ有セス
若シ債務者カ債權者ニ對抗ス可キ延期抗辯ノミチ有シタルトキハ右ノ懈怠アル保証人ノ求償ニ對シ之ヲ以テ對抗スルコトヲ得

第三十三條 保証人ハ有效ニ辨濟シタルモ債務者ニ其旨ヲ有益ニ通知スルコトヲ怠リ爲メニ債務者カ善意ニテ再ヒ辨濟シ此他有償ニテ自己ノ免責ヲ得タルトキモ亦其求償權ヲ失フ

右ニ反シテ債務者カ自ら債務ヲ消滅セシメタルコトヲ保証人ニ通知スルコトヲ怠リタルトキハ債務者ハ場合ニ從ヒ其債務ノ消滅後保証人ノ爲シタル辨濟ニ付キ責任アリトノ宣告ヲ受クルコト有リ孰レノ場合ニ於テモ利害ノ關係アル當事者ハ受取ルコトヲ得サルモノヲ受取リタル債權者ニ對シテ求償權ヲ有ス

第三十四條 委任ヲ受ケテ義務ヲ負擔シタル保証人ハ辨濟ヲ爲ス前又訴訟ヲ受クル前ニテモ債務者ヨリ豫メ賠償ヲ受クル爲メ又ハ未定ノ損失ヲ擔保セシムル爲メ左ノ三箇ノ場合ニ於テ之ニ對シテ訴訟ヲ爲スコトヲ得

第一 債務者カ破産シ又ハ無資カト爲リ且債權者カ清算ノ配當ニ加入マサルトキ

第二 債務ノ満期ノ到リタルトキ

第三 満期ノ不定ナル債務カ其日附ヨリ十ヶ年ヲ過キタルトキ

第三十五條 債權者カ完全ノ辨濟ヲ受ケサル間ハ前條及ヒ第二十九條ニ依リ債務者ヨリ豫メ保証人ニ供ス可キ賠償ハ債務者其債權者ニ對スル自己ノ免責ヲ保スル爲メ債權者ノ名ヲ以テ之ヲ供託シ又ハ其他ノ方法ニテ之ヲ寄存スルコトヲ得

○債權擔保編

第三十六條 主たる債務ヲ消滅シ其他ノ方法ニ因リ義務ヲ消滅セシメタル總テノ保證人ハ自己ノ權利ニ基キテ有スル既權ノ外債務者又ハ第三者ニ對シ債權者ノ有シタル總テノ權利ニ付キ財產編第四百八十二條第一號ニ從ヒテ代位ス但第三十二條及ヒ第三十三條ノ制限ニ從フコトヲ要ス

債權者カ債務者ノ不動産ニ付キ先取特權又ハ抵當權ヲ有シ其登記ヲ爲シタルトキハ保證人ハ代位ヲ目的トシテ自己ノ條件附ノ債權ヲ此登記ニ附記スルコトヲ得又既權ノ場合ニ於テハ其不動産ヲ所持スル債權者ハ該除ノ爲メ債權者ノ外保證人ニ對シテモ又提供ヲ爲スコトヲ要ス

債權者カ有益ナル時期ニ於テ右ノ登記ヲ爲サザリシトキハ保證人ハ第四十五條及ヒ財產編第五百十二條ニ從ヒ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

第三十七條 連帶又ハ不可分ナル義務ノ數人ノ債務者アルトキハ保證人ハ其中ノ或ル者ヲ保證シ他ノ者ヲ保證セザルトキト雖モ右ノ代位ニ依リ債務者ノ各自ニ對シテ全部ニ付キ求償スルコトヲ得

第三款 共同保證人間ノ保證ノ効力

第三十八條 一箇ノ債務ニ付キ數人ノ保證人アリテ其中ノ一人カ任意ナルト否トチ間ハス債務ノ全部ヲ消滅シタルトキハ其保證人ハ主たる債務者ニ對スル求償ニ關シ上ニ記載シタル條件、制限及ヒ區別ニ從ヒ或ハ事務管理ノ既權ニ因リ或ハ債權者ノ既權ニ因リ他ノ保證人ノ各自ニ對シテ均一部分ニ付キ求償スルコトヲ得

右ノ保證人カ債務ノ全部ヲ消滅セシメテ自己ノ部分ヨリ多ク消滅シタルトキハ其超過額ノ爲メノ求償ハ他ノ共同保證人間ニ均一ニ之ヲ分ツ

第三十九條 共同保證人中ニ無資力ト爲リタル者アルトキハ消滅シタル者ハ其無資力者ノ引受人ニ對シテ求償權ヲ有ス若シ引受人アラザルトキハ無資力者ノ部分ハ債務ヲ消滅シタル者ヲ加ヘ他ノ有資

力ナル共同保證人間ニ之ヲ分ツ

第四十條 前條ニ依リ既チ受ケタル共同保證人ハ未タ主たる債務者ノ財産ノ檢索アラザルトキハ第二十條以下ニ定メタル規則及ヒ條件ニ從ヒテ豫メ其檢索ヲ請求スルコトヲ得

右同一ノ權利ハ保證人ノ引受人ニモ屬ス

第四十一條 連帶シテ又ハ不可分ナル債務ノ爲メ義務ヲ負擔シタル數人ノ保證人中全部履行ニ付キ既チ受ケタル者ハ本訴ニ附帶シテ共同保證人ヲ擔保ノ爲メニ召喚シ之ニ對シ同一ノ判決ヲ以テ前數條ニ許サレタル言渡ヲ受ケシムルコトヲ得

第四十二條 保證人ノ一人ニ對スル時効中斷又ハ付連帶ノ行爲ハ他ノ保證人ニ對シテ其效ナシ但其義務ヲ連帶ナルトキハ此限ニ在ラス

債權者ト保證人ノ一人トノ間ニ主たる債務ニ關シ有リタル判決及ヒ自白ハ他ノ保證人ヲ利スルコトヲ得然レトモ之ヲ害スルコトヲ得ス

第四十三條 相互ニ連帶シ又ハ債務者ト連帶シタル保證人中ニ無資力ト爲リタル者アルトキハ各保證人ノ間ニ第六十七條乃至第六十九條ヲ適用ス但其各條ニ記載シタル區別ニ從フ

第三節 保證ノ消滅

第四十四條 保證ハ義務消滅ノ通常ノ原因ニ由リ直接ニ消滅ス

保證ノ更改、免除、相殺及ヒ混同ハ財產編第五百二條、第五百十一條、第五百二十一條及ヒ第五百三十八條ニ於テ之ヲ規定ス

第四十五條 債權者カ故意又ハ懈怠ニテ保證人ノ其代位ニ因リテ取得スルコトヲ得ヘキ擔保ヲ成シ又ハ得シタルトキハ總テノ保證人ハ債權者ニ對シテ自己ノ免責ヲ請求スルコトヲ得

〇 擔保保編

保証人ノ引受人ハ保証人ノ權利ニ基キ右ノ權利ヲ接用スルコトヲ得

第四十六條 保証ハ主タル義務消滅ノ總テノ原因ニ由リテ間接ニ消滅ス

債權者ト主タル債務者トノ間ニ爲シタル代物轉讓、更改、免除、相殺及ヒ混同ノ保証人ニ對スル效力ハ財産編第四百六十一條、第五百一條、第五百六條、第五百二十一條及ヒ第五百三十八條ニ於テ之ヲ規定ス

第四節 法律上及ヒ裁判上ノ保證ニ特別ナル規則

第四十七條 法律ノ規定又ハ判決ニ從ヒテ保証人ヲ立ツル責アル者ハ自ラ保証人ヲ立テント約シタルトキト同シク第十五條及ヒ第十六條ニ定メタル如キ條件ヲ具備スル保証人ヲ立ツルコトヲ要ス

法律上及ヒ裁判上ノ保証人ヲ承認スル手續ハ民事訴訟法ニ於テ之ヲ規定ス

第四十八條 裁判所ハ法律カ裁判執行ノ爲メ保証人ヲ立テシムル權能ヲ付與シタル場合ニ非サレハ此カ爲メ保証人ヲ立ツ可キコトヲ命スルヲ得ス

第四十九條 裁判上保証人及ヒ其引受人ハ財産檢索ノ利益ヲ有スルコトヲ得ス

第五十條 法律上及ヒ裁判上ノ保証人ハ其債務者ニ對スル擔保ノ求償ニ關シテハ常ニ之ヲ債務者ノ代理人ト看做ス

第二章 債務者間及ヒ債權者間ノ連帶

總則

第五十一條 義務ノ目的單數ナルモ主タル當事者トシテ之ニ關係スル人複數ナルトキハ其義務ハ財産編第四百三十八條ニ指示シ且下ノ二節ニ記載スル如ク受方又ハ働方ニテ連帶タルコトナリ

第一節 債務者間ノ連帶

第一款 債務者間ノ連帶ノ性質及ヒ原因

第五十二條 債務者間ノ連帶即チ受方連帶ハ共同債務者ヲシテ其共通ノ利益ニ於テモ債權者ノ利益ニ於テモ相互ニ代人タラシム

此連帶ハ合意、遺言又ハ法律ノ規定ヨリ生ス

連帶ハ之ヲ推定セス如何ナル場合ニ於テモ明示ニテ之ヲ定ムルコトヲ要ス但不可分ニ關シ第八十八條ニ記載シタルモノハ此限ニ在ラス

第五十三條 數人ノ債務者ノ連帶義務ハ同一ノ行爲ヲ以テ又同時、同所ニ於テ之ヲ契約スルコトヲ要セス但其義務ノ目的及ヒ原因ハ同一ナルコトヲ要ス

又連帶債務者ハ別異及ヒ不均一ノ體裁又ハ負擔ヲ以テ費ニ任スルコトヲ得

第二款 債務者間ノ連帶ノ效力

第五十四條 數人ノ連帶債務者ヲ有スル債權者ハ其既追セント擇ミタル債務者ニ對シ唯一人ノ債務者ニ於ケル如ク且其債務者ヨリ檢索又ハ分別ノ利益ノ抗辯ヲ受ケルコト無ク義務全部ノ履行ヲ要求スルコトヲ得

又債權者ハ皆濟ヲ受ケルニ至ルマテ同時又ハ順次ニ總債務者ヲ既追スルコトヲ得

第五十五條 各債務者ハ既チ受ケタルト否トナ間ハ連帶債務全部ノ轉讓ヲ受ケルコトヲ債權者ニ強要スルコトヲ得

第五十六條 連帶債務者ニシテ債務ニ於ケル全部又ハ自己ノ部分ヨリ多額ニ付キ既ヘラレタル者ハ共同債務者ヲ既認ニ召喚シ附帶ノ擔保方法ヲ以テ其債務者ヲシテ答辯又ハ轉讓ヲ擔任セシムル爲メ必要ナル期間ヲ請求スルコトヲ得但債權者ニ對シテハ既追ヲ受ケタル債務者ノミ其對手人タル可シ

○債權擔保編